

# 岩手県総合計画審議会

## 令和4年度第6回県民の幸福感に関する分析部会

日時：令和4年10月24日(月) 9:30~12:00

場所：エスポワールいわて 3階 特別ホール

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 題

- (1) 分野別実感の分析について
- (2) 令和4年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート（案）について
- (3) 令和5年県民意識調査（補足調査）について
- (4) その他

#### 3 閉 会

## 配付資料一覧

- 資料1 幸福について考えるワークショップの意見等について
- 資料2 令和4年度年次レポート（案）
- 資料3 県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて
- 資料4 令和5年度「県民の幸福感に関する分析部会」の開催予定等について
- 参考資料 政策推進プランの策定状況等について

## 幸福について考えるワークショップの意見等について

### 1 目的

いわて県民計画（2019～2028）は、県民の幸福を守り育てることを基本目標としていることから、いわて県民計画の推進に向け、県民に「幸福」について考える機会を提供するとともに、ワークショップを通じて県民の幸福感に関する意識を把握し、政策評価等に活用することを目的とする。

### 2 対象とした分野別実感

- ① 地域社会とのつながり
- ② 必要な収入や所得

### 3 ワークショップの開催状況

ワークショップ開催状況は以下のとおりであり、主な意見等については別紙のとおり取りまとめた。

#### ○ワークショップの開催状況

	開催日	開催地域	参集者数
第1回	6月7日	県南（遠野市）	19名（男性10名、女性9名）
第2回	6月28日	県北（軽米町）	12名（男性7名、女性5名）
第3回	6月29日	県央（雫石町）	7名（男性3名、女性4名）
第4回	7月6日	沿岸（釜石市）	6名（男性4名、女性2名）
第5回	7月8日	沿岸（大船渡市）	10名（男性9名、女性1名）
第6回	7月12日	沿岸（宮古市）	10名（男性0名、女性10名）
第7回	7月23日	県央（滝沢市）	13名（男性3名、女性10名）
第8回	7月23日	沿岸（陸前高田市）	8名（男性3名、女性5名）

○ワークショップにおいて出された意見等

①地域社会とのつながり		
	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第1回目 (遠野市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントもあり、母数（地域の住民数）を考慮すると少なくなったとは感じていない。(60代:男性)</li> <li>・調査の「地域」の捉え方（範囲）が違うのではないか。大きな地域ではなく身近な自治会等のつながりはある。(60代:女性)</li> <li>・親世代はあった熱い（厚い）付き合いを若い世代で継続するのは難しい。生活様式の変化や働き方などの影響があると思う。(50代:女性)</li> <li>・スマホ・オンラインの利活用が進んだと感じている。学校関係はLINEなど使っているので繋がり方とコミュニティの変化があるのではないか。(30代:女性)</li> <li>・もともと若い世代の参加が減っている中で、新型コロナ感染防止を理由にできる気安さがあるのではないか？ (70代:男性)</li> <li>・スマホ等の使い方がわからなく、できない人が取り残される。(60代:男性)</li> <li>・会わなくてもよくなった。（「会う」機会と「会う」方法の選別が進んだ。）(40代:男性)</li> <li>・行政主催の行事等は感染防止のための中止が相次いたが、地域主体の行事は外での活動を中心に実施しているので、行事自体がスリム化したためか、参加する人が増えている。(70代:男性)</li> <li>・葬儀の規模が小さくなった。無駄というのはないが、必要以上のしがらみが減るので、今後もこのまま小規模のまま変わらないのではないか。正直、楽ではある。(60代:女性)</li> <li>・移動困難の高齢者が増えている。自分の免許返納後の未来が不安。買い物難民になってしまうことを心配している。(70代:女性)</li> <li>・隣近所とのつながりはできていると思うが・・・。仕事の都合上、地域活動への参加が難しいところもあって、親世代のような関わりはできない。(40代:男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な声かけは大事。(50代・女性)</li> <li>・社会の変化に合わせてこちらも工夫していかなければ行けない。どうしたものか・・・(60代:男性)</li> <li>・SNSなど使い方を学ぶ機会をもつ。(60代:女性)</li> <li>・移動販売などの仕掛けや移動支援について地域で考えていく。(50代:男性)</li> <li>・車や自動運転の技術開発が望まれる。(70代:女性)</li> <li>・地域資源を改めて見直すことから始めよう。(70代:男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第2回目（軽米町）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減による担い手不足に加えて地域の仕事が複雑化して、積極的に参加する気になれない。不要だと思ふことも多い。(40代:男性)</li> <li>・子育て重視で生活している。学校行事や習い事などに対応していると、地域コミュニティと関わるのが難しい。(30代:女性)</li> <li>・若者が消防団に加入してすぐに辞めていく。原因は、多様な生活か？組織の体質か？(50代:男性)</li> <li>・コロナ拡大とかで集まる機会が減ったが、それに慣れてきている。(40代:女性)</li> <li>・コロナ拡大後に戻ってきたばかりでよくわからない。これからつながっていく。(20代:男性)</li> <li>・特に減った感じはしない。小さな集落なので、気に掛け合いながら生活している。(60代:女性)</li> <li>・地域の同世代と出会う場、つながる機会が少ない。(40代:男性)</li> <li>・地域活動などは親が参加しているので、自分はいいかなって思っている。(30代:女性)</li> <li>・誰かの負担の上で成り立っている地域活動。若者がいないのではなく、若者の生活スタイルなどの変化に対応できていないのではないか。(50代:男性)</li> <li>・地域というか中学校の同級生と一緒に進学したくなる学校がいいなって思う。(10代:男性)</li> <li>・行政区が広い。高齢者が増えて、自然と交流する機会が減っている。(50代:男性)</li> <li>・全体的には減っているかもしれないが、必要などころとはつながっている。(30代:女性)</li> <li>・義務感があると参加がためらわれる。(40代:女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場など継続的に取り組める場をつくっていくことが大事。(40代・男性)</li> <li>・昔ながらのやり方を見直していく。(40代:女性)</li> <li>・地域の資源・宝をもっと活用する。そのためにはやっぱり話す場づくりか？(40代:男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・となり近所と付き合いはない。距離感を選択しているもの。(60代：女性)</li> <li>・かわる機会はあるが、それぞれが「幸せ」を感じるのであれば、(かわらなくても) それでいいのではないか。(30代：女性)</li> <li>・紫波町は住みやすいし面白いと感じている。(20代：女性)</li> <li>・町内に話す人（相手）がいなかったが、「きっかけ」があり変わった。(60代：女性)</li> <li>・震災後、(活動のすばらしさを見て) 遠野に移住を考えた。(60代：女性)</li> <li>・地域に期待度が高過ぎたかもしれない。(30代：女性)</li> <li>・つながりたいと思ってくれる人とつながりたい。(30代：女性)</li> <li>・地域を知らない、地域でしていることを地域で共有できていない。(20代：女性)</li> <li>・「つながる」必要がなくなった。ネットで対応可能である。(40代：男性)</li> <li>・最低限、維持はできている。(40代：男性)</li> <li>・回覧板など必要最低限のことは継続されている。(40代：男性)</li> <li>・もともとこの地域の人でなくても、仲良くしていなくても、役割は果たすべきである。(30代：男性)</li> <li>・つて、世話をしてくれる人がいる。(40代：男性)</li> <li>・まちの規模が大き過ぎるとどういう人がいるのかもわからず、関わることに不安を感じる。(40代：男性)</li> <li>・かわることに苦心しなくていい。(40代：男性)</li> <li>・「つながり」が美德というイメージは「昭和」的。(40代：男性)</li> <li>・背景、風土、ことばの違う人は地域に溶け込むのが大変である。(30代：男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは近すぎない距離感をもちたい(30代・女性)</li> <li>・ゴミ捨て場のルールや清掃、町内会の班長などはしなければならぬものと思っている。(40代：男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同年代では集まっているが、固定化している。（20代：女性）</li> <li>・地域社会とつながるきっかけがない。（20代：女性）</li> <li>・新しいつながりを持つ必要はないと考えている人もいる。（30代：女性）</li> <li>・地域に関わってきた家庭で育ってきたので、地域に関わるのは当たり前なので関わっている。そういう環境がなかった人は、特に関わりたいと思っていないのではないかと。（30代：男性）</li> <li>・住んでいる地域の町内会活動は機能していると思う。そんな中、コロナ禍の影響か、見知った高齢者の顔が見えない（バス停にいないとか）と心配になる。（30代：女性）</li> <li>・転勤族なので、ほどほどに付き合っていく。（50代：男性）</li> <li>・仕事柄関わらなければいけないが、それが休日までになると大変。バランスが難しい。（30代：男性）</li> <li>・知り合う、地域の人々の顔を知ることが安心につながる。（30代：女性）</li> <li>・年配の方は地域との関わりを重視している。でも今の若い世代にとってはわずらわしさや面倒臭さがあるのではないかと。（30代：男性）</li> <li>・感染症拡大防止をきっかけに、付き合い方が変わってきた。現状で満足している。（50代：男性）</li> <li>・関わると仲間ができる。仲間を集めるための声かけのタイミングなどはかっている（30代：男性）</li> <li>・地縁にこだわらない生き方をしている人と従来の生き方をしている人の接点がないかもしれない（50代：男性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かしら繋がりが必要と思う。（30代・男性）</li> <li>・子ども達が、地域のことを学ぶ機会は大事。イベントなど企画していきたい。（30代：女性）</li> <li>・自分の得意（演劇）を生かして、自己表現力を身につける機会を提供したい。（30代：女性）</li> <li>・家庭内のことを整理していく必要がある。（30代：男性）</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達やネットを通じた繋がりがあるので特に困っていない。(20代：女性)</li> <li>・4月に移住してきたが、ご近所付き合いが煩わしいと感じる。詮索されるのが嫌。(20代：女性)</li> <li>・仕事柄、地域の活動などには時間が合わない。(20代：男性)</li> <li>・高齢者が多い地域。自分から会いに行くようにして、繋がりを持つようにしている。(20代：男性)</li> <li>・地域コミュニティでのつながり方は時代に合わないのではないかと。若い人が関わらない理由の1つだと思う。(20代：男性)</li> <li>・祭りなど大きな行事には顔を出すようにしている。今は、地域の集まりも少ない。(20代：男性)</li> <li>・地域とつながってなくても幸せそうな人が増えた気がする。(30代：男性)</li> <li>・なんとなく、個性の尊重が少ない気がしている。(30代：男性)</li> <li>・積極的に繋がりたい人が減っているのではないかと。(20代：男性)</li> <li>・町中に住んでいる。つながってなくても幸せそうに見える。(20代：男性)</li> <li>・生活スタイルを選択できる。しかし、地域の歴史とかそういったことを知る機会が少ないのできっかけがないのかもしれない。(20代：男性)</li> <li>・地域社会ってなんだろう？ 子育てなど考えても社会環境の不安がある。だから、どうしても仲間とつながってほしいかなって思う。(20代：女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実は避難場所を知らない。避難訓練などがきっかけになるのではないかと。(20代：男性)</li> <li>・協力隊として選んでの地。受け入れてもらえるように積極的に参加する。(20代：男性)</li> <li>・自分の生き方があって働き方が変わる。しっかり考える。(20代：男性)</li> <li>・少しでも周りの人の事を想像して、企画を仕掛けられるようにアンテナを高くする。(20代：女性)</li> <li>・もっと地域を知る。そのために出かける。(30代：男性)</li> <li>・回覧板等をIT化のお手伝いができる。(20代：男性)</li> </ul>



	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害公営住宅入居後、なかなか地域に馴染めず。その後、町内会が解散し、更に交流する機会がなくなった。（70代：女性）</li> <li>・集合住宅が多い地域に住んでおり、普段から繋がりが希薄と感じる。回覧板も年1回しか回らず、地域の情報を得る機会がない。（40代：女性2名から）</li> <li>・子育て中だが、実家に世話になっていて、「〇〇さん家のお孫さん」と地域で見守られる感じが嬉しいし、助かっている。（40代：女性）</li> <li>・職場のある地域は、仕事柄繋がりを持てているが、住んでいる地域は活動がほとんどなくなった。震災後に住民が転居し減少したこと、その後台風被害が合ったことに加えてコロナの影響だと思う。（60代：女性）</li> <li>・子供会が合併して巨大化し、自治会等と連携した行事運営が難しい面もある。（40代：女性）</li> <li>・最近、Uターンで地元就職したばかりで、関わる機会がない。特に困ることもない。（20代：女性）</li> <li>・（年数は経っても）被災者とそうでない人の壁があると感じている。（70代：女性）</li> <li>・商店街は、空き店舗の増加や組合員を辞めるなど賑わいが不足している。（60代：女性）</li> <li>・買い物する場所が減っているので出かけることが減っているかもしれない。（40代：女性）</li> <li>・やはりコロナ不安がある。企画しにくい雰囲気がある。（40代：女性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前にでて、自分から何かをすることは難しい。（70代：女性）</li> <li>・ボランティア活動を通じて、もっと話を聞く機会を増やしていきたい。（60代：女性）</li> <li>・賑わいが出るような、お楽しみ企画を考えていく。（60代：女性）</li> <li>・自治会との話し合いをしながら、以前のようなイベントを復活させる。（40代：女性）</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第7回目（滝沢市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎暮らしに憧れて定年後に移住した。適度な距離感で暮らしやすい。(70代：男性)</li> <li>・若い世代は忙しいし、生活スタイルも従来と変わってきている。(40代：女性)</li> <li>・転居してきた当初は地域と繋がりが少なかったが、子供会などに参加するようになって地域の皆さんと知り合う機会が持てた。(30代：女性)</li> <li>・子育てが終わると自治会役員にでもなっていないと、関わる機会は減る。(50代：女性)</li> <li>・ここで生まれて今に至る。若いときは煩わしかったが、育成会を通じて地域と関わり、地域とつながることが大事だとわかった。見守られて子育てしている感じである。(40代：女性)</li> <li>・引っ越して来た時、隣近所の皆さんの声かけが嬉しかった。(70代：女性)</li> <li>・職場が遠方で通勤に時間がかかる。平日いない分休日は家のことをと思うと、なかなか地域の皆さんとの交流する時間が持てない。(40代：女性)</li> <li>・妻と二人暮らし。雪かきなど困った時は近所に助けられている。(70代：男性)</li> <li>・「小さな親切 大きなお世話」というか、若かった頃の付き合い方が通じないかも。(50代：女性)</li> <li>・子育て世代を見ていると仕事や孫のイベントなどに追われている。別の仲間がいる感じがする。(70代：女性)</li> <li>・コロナの第7波が心配。人と繋がり合える地域を目指している。(70代：男性)</li> <li>・地域活動に参加する人、参加しない人の二極化が進んでいる。関わらないことが不利益ではないと考える人もいるかも知れない。(50代：女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かしら地域の役を引き受けてもらうために、日頃から声をかけあっていく。(40代・女性)</li> <li>・高齢者対象、子育て世代対象など交流の場作りを積極的にしていく。(50代：女性)</li> <li>・自治会がどんな活動をしているのか、積極的に広報する。(70代：男性)</li> <li>・挨拶が飛び交う地域を目指していく。(70代：男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第8回目（陸前高田市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減ったという感覚はない。(20代：女性)</li> <li>・コロナ禍で移住してきたので、近所づきあいや地域行事などつながる機会が少なかった。(20代：女性)</li> <li>・都会に比べると人とつながりやすい規模だと思う。(20代：男性)</li> <li>・移住者としては、受け入れてくれる温かさがある地域と感じる。人が温かい。(20代：女性)</li> <li>・人とのつながりが強い。暮らしていく上で、人間関係を大事にしていれば何とかできることが多い。(20代：女性)</li> <li>・自治会、町内会や祭りなどの行事参加は面倒くさい。一度参加すると常に参加し続けなければならなくなって、引き際がわからない。しんどい。(20代：男性)</li> <li>・しがらみは確かに強い。地元の人同士だとよりそんな感じがすると思うが、移住者は割と抜けても許容される雰囲気を感じる。(20代：女性)</li> <li>・(行事の参加を継続するか抜けるかの話について) 地元の別の町(地区)だと移住者への対応が違う。(20代：男性)</li> <li>・地元の同級生とつながらないと情報を得る機会がない。でも、ちょっと面倒くさい。(20代：女性)</li> <li>・嫁に来た人は、いかに女性社会に溶け込めるかが大事。(20代：女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが参加したいと思うような企画を考えたい(20代：女性)</li> </ul>

②必要な収入や所得

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第1回目（遠野市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な食品が値上がりする中で、米価は値下がりしている。設備投資もしたので、支払いが大変。(60代及び70代:男性・・・複数から同様の意見)</li> <li>・旅行者の減に加えて、仕入れ価格の上昇で厳しい状況である。宿泊料金など価格設定が難しい。(60代:男性)</li> <li>・産直の会員も減少して品揃えも大変。店当番も年々負担になっている。野菜づくりなど、働く意欲も下がっているこの頃。(70代:女性)</li> <li>・息子家族は大変そうだ。嫁もパートの時間が減らされたと言っていた。(70代:男性)</li> <li>・コロナ禍、学校の閉鎖により親が休業しなければならず収入の減少を感じた。(放課後子ども教室、児童館等が学校閉鎖とともに利用できなくなったため。)(30代及び40代:女性)</li> <li>・たとえ収入が減らなくても、支出が増えているので家計は厳しくなっている。(40代:女性)</li> <li>・自然農法に特化して就農し、販売ルートも独自でもっているの で、特に経済的な影響はない。むしろ、それを目的にした顧客開拓 につながっている。(40代:男性)</li> <li>・自営業で従業員がいない(少ない)ため、たとえ収入源でも気が 楽である。(60代:女性)</li> <li>・年金が減ってもそれなりに生きていく。野菜や花、畑仕事があっ て良かった。(70代女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の幸せを維持、向上させるためにももっと働く。(50代:男性)</li> <li>・農村の知恵を活かして、生活する。(50イ代:女性)</li> <li>・若い世代に住んでもらうためには仕事場、雇用が必要である。(40代:女性)</li> <li>・(若い人に) 起業する人を増やすためにも、職場体験など(社会)教育が必要である。(40代:男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第2回目（軽米町）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々値上がりする中で米だけが下がっている。農家さんの大変さを目の当たりにしている。(40代:男性)</li> <li>・(経営者として) 今、福祉関連の補助などはあるが、賃金を上げるのに躊躇う。高齢者が減るであろう未来を考えると、今給料を上げてから下げるとするのは怖い。(50代:男性)</li> <li>・20年前から時給は上がっていない。この年代になると家庭菜園などで楽しみながらの生活になる。お金ではない、やりがいを見つけていく。(60代:女性)</li> <li>・まさに子育て真っ最中。収入は変わらないのに支出が増えているので、今は苦しい。(40代:女性)</li> <li>・多少収入は減っている。高齢化、コロナ等理由は様々だと思うが、お馴染みさんが来てくれているので嬉しいし、悲観していない。(60代:女性)</li> <li>・檀家減少もあって、寺院運営（修繕）が厳しい。影響が出ている。(40代:男性)</li> <li>・転職や実家へ戻ることを選んでの今なので、収入減は必然。(40代:男性)</li> <li>・介護関係は、就労、特に若者の就労が少ない。低賃金と言われているので避けられている？ 志をもって就職しても定着しない。(50代:男性)</li> <li>・職業柄、特に影響はない。木材物価が上昇しても、給料に反映されない。逆も同じ。(50代:男性)</li> <li>・会社が価格転嫁することに消極的だし、働いている人も安定志向で転職等が少ない。(40代:男性)</li> <li>・年金も下がる。それなりにと考えていくしかない。(60代:女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金にとらわれないように考えている。(50代:男性)</li> <li>・提携している農家への支援の仕組みを行政等と一緒に考えていく。(40代:男性)</li> <li>・魅力ある仕事場づくり、雇用が必要である。(50代:男性)</li> <li>・町内だけではなく、近隣市町への通勤が多いので、広域的に仕事の種類を考えていく必要がある。(40代:男性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第3回目（栗石町）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下がっているのではなく、ない。(60代：女性)</li> <li>・収入がないのに支出が多い。(60代：女性)</li> <li>・実務とストレスがある。(30代：女性)</li> <li>・選択して仕事を減らしているが、戻すのは難しい。(30代：女性)</li> <li>・視点を変えれば幸福に気付く。(20代：女性)</li> <li>・大赤字だが、挽回を目指している。(60代：女性)</li> <li>・自己投資をしている。好きな仕事ができるよう、自分をコントロールしたい。(20代：女性)</li> <li>・フリーランスで、(コロナ禍) バランスが崩れる。(30代：女性)</li> <li>・経済状況が悪いと(周りから)言われると不安を感じる。(30代：女性)</li> <li>・自分で考え、自分で解決する力が必要である。(30代：女性他1名)</li> <li>・人によって給料を違うものを感じると思う。(20代：女性)</li> <li>・家族で暮らしていても孤独感を感じる人もいる。(30代：女性)</li> <li>・広い選択肢が必要である。(20代：女性)</li> <li>・残業が当たり前。自分が好きなことの価値が大事である。(20代：女性)</li> <li>・自分で組み立てる、教育が必要である。(30代：女性)</li> <li>・教育・社会を見直す。子ども、高齢者のことを考える。今の日本を作ってきた高齢者が軽視されている。(60代：女性)</li> <li>・島国がグローバル化を急いでいて心配である。(60代：女性)</li> <li>・収入は全盛期の半分になったが、支出は多くなった。(40代：男性)</li> <li>・リーマンショック・震災・コロナと(外的要因で)落とされている。(40代：男性)</li> <li>・日本で1番寂しいことは、世界を知らないこと。日本の初任給は上がっていない。閉じこもっている。(30代：男性)</li> <li>・仕事の認知度が低い。(評価が低い。)(40代：男性)</li> <li>・収入は減になるが、選択したもの。週2日は農業をすることにした。(30代：男性)</li> <li>・「選択」に共感する。勤め人にならないという選択、フリーランス。(40代：男性)</li> <li>・(働くこと、生きていくことなど)泳ぎながら、泳ぎ方を学んでいる。(40代：男性)</li> <li>・その人、幸福を感じる能力のある人であれば。(40代：男性)</li> <li>・選択して生きてきた気はしていないのだが、選択してきたのかもしれない。(30代：男性)</li> <li>・資本主義のルールに乗れない、乗らない自分がいる。(40代：男性)</li> <li>・戦争、ガソリンの高騰・物価の上昇など、個人の力ではどうしようもできない状況もある。(30代：男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の認知度向上のため情報発信していく。(40代：男性)</li> <li>・移住を考えている人に地域の情報をしっかり伝えていきたい。(40代：男性)</li> <li>・今は先行投資の時期と思って地道に活動していく。(60代：女性)</li> <li>・ToDo リストをやめる。(20代：女性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第4回目（釜石市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あればそれに越したことはないが、十分だと思う。(20代：女性)</li> <li>・子どもが大きくなり、パートからフルタイムになって収入は上がった。(30代：女性)</li> <li>・現状満足しているが、使い方が悪いかもしれない。(30代：男性)</li> <li>・税金が安くなるといい。税金が何に使われているのか不安。(30代：男性)</li> <li>・民間から転職しての公務員。安定はある。(30代：男性)</li> <li>・飲食店の求人によく見かけるが、就職しても定着しない様子。仕事内容も含めて厳しいのかな。(30代：女性)</li> <li>・震災後は、いろいろと仕事に活気はあった。今は落ち着いて全体的に静か。(30代：男性)</li> <li>・子育て時期、特に女性にとっての就活は大変。求人情報と現実が違う。(30代：女性)</li> <li>・(自分は構わないが) 地元には買い物したくなる店が少ない。経済が回らないと自分たちにも回ってこない。(30代：男性)</li> <li>・多くを求めない性格。責任をもって働くが、業務内容を選べるのではない(50代：男性)</li> <li>・以前はいた強烈なリーダーが、今はいない。地域の勢いがいない感じ。(30代：男性)</li> <li>・収入は得られているが、今の仕事は選択したものではない。現状の中で自分ができることをしていかなければいけないと思う。(30代：男性)</li> <li>・何事もバランス。収入とやりがいのバランスは難しい(30代：男性)</li> <li>・以前の仕事は自分がやりたいことだった。地元に戻るには、職業の選択が少ない。(20代：女性)</li> <li>・選択したわけではなく、家業を継いだだけなので考えたことがなかった。(30代：男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられたポジションで精一杯仕事する。(50代：男性)</li> <li>・起業も含めたキャリア教育の仕組み、機会を考えていく。(30代：男性)</li> <li>・雇用する側の意識改革も大事。(30代：女性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第5回目（大船渡市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本業以外に副業を2つしているの、同年代の中では多いかもしれない。(20代：女性)</li> <li>・今のところ、稼ぐ術が他にあるので安心している。(20代：男性)</li> <li>・業界でかなり違う。第一次産業など搾取されやすいのではないかと。(20代：男性)</li> <li>・社会情勢が影響している。給料が上がらないのに電気やガスなどが値上がりしている。(20代：男性)</li> <li>・収入が安くなることを理解しての地方移住。家賃など東京と比較すると安いので実感が無い。(20代：男性)</li> <li>・いろいろな選択肢（職業や稼ぎ方等）があるのに、その情報にアクセスしにくい環境にあるのではないかと。(20代：男性)</li> <li>・将来を考えると安心できない。働きながらの子育てとかを想像すると働く場として、選択肢が多く、生活しやすい都会を選ぶかもしれない。(20代：女性)</li> <li>・ITネイティブなので、あまり深刻に思っていないが、その環境に慣れていない人や知らない人は不利益で損している。(30代：男性)</li> <li>・産業上の構造で若者の給料が上がらない仕組みだと思う。(20代：男性)</li> <li>・工場のパート勤務の人は、勤務時間短縮されていた。生きるための副業と自分のスキルを活かしたい副業では違う。(20代：男性)</li> <li>・やりたい仕事を選んでの今は若いからできるのかも。家族をもち、子育てや介護などの年代になったときには今のような形態でいいのかわり不安はある。(20代：男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のスキルアップと副業をすすめていく。(20代：男性)</li> <li>・秋に転職する予定。(20代：男性)</li> <li>・起業やスキルアップ、人とつながるための場づくりや情報アクセス環境の提供をしていく。(20代：女性)</li> </ul>



	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第6回目（宮古市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時職員から会計年度職員となり、若干上昇したと思う。(40代：女性)</li> <li>・年金生活者なので、下がっている。でも、物価は上がるし、本当に厳しい。(70代：女性)</li> <li>・商店街の組合員減少で組合員負担金も減少。伴って給料の予算が減る。時間調整して働くようになっているが、ここまでは仕事、ここからはボランティアという感じで割り切っている。実家も商売をしていたので、商店街の活動は大事だと思っている。(60代：女性)</li> <li>・震災や台風などいつ災害が起きるか不安なので、お金を使うことが怖い。(60代：女性)</li> <li>・フリーランスでお稽古ごと教室を運営している知人は、コロナの外出控え（伴う収入不足による遊興費支出控えも？）もあって、受講者減による収入減があると言っている。(40代：女性)</li> <li>・今は特に困っていないが、これから子育てや介護などダブルケアになった時に現状で大丈夫なのか不安を感じる。(40代：女性)</li> <li>・将来に備え、夫婦で定年後も働いているのだが貯金できていない。(60代：女性)</li> <li>・近所の方から、「生活保護費も下がった。毎日、夕方にお弁当を買って、ご飯を半分翌日に残しておかゆにして食べている。ガス代など考えて料理することをやめた」という話を聞いた。支出を抑えることでしのいでいる感じがする。(60代：女性)</li> <li>・宮古は、賃金ベースの割に不動産（賃貸など）が高い。(60代：女性 他1名)</li> <li>・成人した子どもたちは、それぞれの生活があり、世話を頼むのは難しい。(60代：女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まってくる困り事の声を市や議員等に伝えること、意見交換する場が必要だと思う。(60代：女性)</li> <li>・年金生活者、どう頑張っても収入が上がる見込みはない。節約していくしかない。(70代：女性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
第7回目（滝沢市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税や物価の上昇で支出が増えている。(70代：男性)</li> <li>・コロナ拡大を機に夫が転職した。給料は上がったが、勤務時間も増えたので果たしていいのかと思うときもあるが、子育て中なので収入増はありがたい。(40代：女性)</li> <li>・自営業なので、コロナ拡大後は結構厳しい。しかも子育て時代の借金の返済も相まって大変である。(50代：女性)</li> <li>・一昨年に大病を患い、医療費が嵩んでいる。収入が決まっている中で支出増。(70代：男性)</li> <li>・働き方を変えたくて、収入減になる覚悟で転職した。現状に満足している。(50代：女性)</li> <li>・今は困っていないが、子どもが中学高校と成長していくことを考えると、資金確保が大事になってくる。(30代：女性)</li> <li>・市町村によって子育て支援（控除や補助など）に不公平感がある。(30代：女性他1名)</li> <li>・給料は現状維持。でも支出がじわじわ増えているので生活レベルの維持ができるか不安。(40代：女性)</li> <li>・コロナ感染拡大はダイレクトに収入に影響している。仕事が予定通りに進まない。(50代：女性)</li> <li>・介護保険料も医療費負担も増えるのに、年金は減る。(70代：女性)</li> <li>・米農家、米価が下落している。保証はあっても一時的なもの。(70代：男性)</li> <li>・子どもが大きくなったので、パートからフルタイム（臨時）になったので収入増。でもスポ少などで支出も増えて、結局トントンかマイナスになっている。(40代：女性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康一番。家族だけではなく、地域で健康増進を促す取り組みをしたい。(70代：男性)</li> <li>・「足るを知る」、節約しながら生きていく。(70代：女性)</li> <li>・個人ができる事は節約。資産運用はリスクがある。(40代：女性)</li> </ul>

	低下したと考えられる具体的なイメージ（基準年（H31）との比較）	考えられる解決策・自分ができること
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第8回目（陸前高田市）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住する前は学生で、こちらに来てから初めて就職したので、比較対象がない。低下したのかどうかわからない。(20代：男性)</li> <li>・移住前よりも支出が増えた。(20代：男性)</li> <li>・収入は減ったが支出も減ったので、余裕はある。(20代：女性)</li> <li>・お金の余裕が精神的余裕につながっている。(20代：女性)</li> <li>・都会と比較して、賃金が低い割に物価は大して変わらない。物価は意外と高いかも。(30代：女性)</li> <li>・食費は移住前と変わらない。(20代：女性)</li> <li>・日用品の買い物は十分事足りている。この辺りの店で売っていないものも、インターネットさえ使えばどこにいても買えるので、不便は感じない。(20代：男性)</li> <li>・岩手県は他県と比較して収入が低く、支出が多いという調査結果があると新聞で見たことがある。(20代：男性)</li> <li>・都会は何をするのにもお金がかかる。こちらでは、お金がなくてもなんとかなりそうという印象がある。(20代：女性)</li> <li>・収入は低いけれど、ウニがおすそ分けで回ってきたり食べているものの質は高い。(20代：男性)</li> <li>・商売（お金を稼ぐ）ということがあまり上手ではないのではないかと。おすそ分け文化があるので、商売につながらないということはあるのかもしれない。(20代：男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住する前は知らなかったことばかり。もっと魅力を発信していった方が良い。(20代：女性)</li> <li>・ちゃんと商売につなげた方が良い。(20代：男性)</li> </ul>

【感想】

<p>第1回 (遠野市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテのうち、設問1から10個選ぶのが大変であった。(70代:男性)</li> <li>・耕作放棄地対策、空き家対策について検討していかなければ。(60代:男性)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行はあくまできっかけである。これまで感じていた『担い手不足』『関係性の希薄化』『高齢者の生活支援』の課題が見えてきた。(60代:女性)</li> <li>・いろいろあるが、移住してくる若者もいるので嬉しい。(70代:女性)</li> </ul>
<p>第2回 (軽米町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の多くはネガティブ。たとえ若者が新しいことを提案しても「無理だ」「できない」って発言に意欲をそがれる。(40代:男性)</li> <li>・役場の駐車場など空間を有効活用できればよい。(40代:男性)</li> <li>・高校生など若者の考え、気持ちを聞きたい。(50代:男性)</li> <li>・今までの関係性をしっかりつなぎたい。(60代:女性)</li> </ul>
<p>第3回 (雫石町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会変化とともに変わっていくことに対応できるようになりたい。(40代:男性)</li> <li>・地域の中での役割は必要。(30代:男性)</li> <li>・改めて幸福ってなんだろうと考えられて良かった。(20代:女性)</li> <li>・県が県民(地域?)のことを考えているってわかったのは良かった。(60代:女性)</li> </ul>
<p>第4回 (釜石市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育って大切だと思う。職業や地元企業のことを学ぶ機会が必要だと思う。(30代:男性ほか1名)</li> <li>・なんとなく関わってきた地域の中で、自分が取り組んでいる活動を見直すことができた。(30代:男性)</li> <li>・選択できること、選択することって大事。(30代:女性)</li> <li>・誰かの幸せを考える時、自分自身のことをきちんと考えていきたい。(20代:女性)</li> <li>・安心して暮らせる地域がいい。とりあえず、道路などインフラ整備。(30代:男性)</li> <li>・楽しいワークだった。子ども達と一緒に考えてみたい。(30代:女性)</li> </ul>
<p>第5回 (大船渡市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテの最初の設問の項目の変更はできないのかな?(20代:男性)</li> <li>・地域コミュニティという概念がなかったと気が付いた。また、子育て世代等と設定がなく、自分のテリトリー以外のことを知らない自分がいた。目を向けられるようになりたい。(20代:女性)</li> <li>・ハーバード大学の追跡調査でもあったが、人間の幸福には「いい人間関係」が大事。(20代:男性)</li> <li>・せっかく住んでいるのだから、適度に良い距離感で繋がりたい。(20代:男性)</li> </ul>
<p>第6回 (宮古市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立派な災害公営住宅。でも住んでいる高齢者の生活は、本当に大変である。(70代:女性)</li> <li>・今は生活することに困っていないが、年を重ねて動けなくなった時の不安がある。宮古市内は介護施設も少ないので、金銭的に裕福でないと自宅で介護という話になるのではないか。(60代:女性)</li> <li>・生きるためにはお金がかかる。(70代:女性)</li> </ul>

<p>第7回 (滝沢市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの頃、この地域が嫌いだった。でも、今ここに住んでいて幸せだと思っている。(30代：女性)</li> <li>・憧れの田舎暮らし、小岩井を選んで転居した。地域に幻滅はしていない。(70代：男性)</li> <li>・子育てしやすい地域だと思う。住みやすい。(40代：女性)</li> <li>・参加者が発言してくれて良かった。自治会としてもこういう機会が大事だと思う。(50代：女性)</li> </ul>
<p>第8回 (陸前高田市)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重視度より実感値が高かった。今、自分は幸せなんだなと思った。(20代：女性)</li> <li>・疲れていたのか、幸福宣言の発表内容で、ほぼ全員が幸福のために自分の心の余裕を求めている。(20代：女性)</li> <li>・設問Iについて、設問の中に当てはまるものがなくて無理やり10個選んだので、思っていたのと違う結果が出たのかもしれない。(20代：女性)</li> </ul>

# 岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」 令和4年度年次レポート【概要版】（案）

資料2—2

## 1 分析目的

- 県では、「いわて県民計画（2019～2028）」の第1期アクションプラン（政策推進プラン）の進捗管理に当たり、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識調査の結果や社会経済情勢を踏まえて政策を総合的に評価することにより、政策立案に反映させていくこととしている。
- 県民の幸福感に関する分析部会では、県民の幸福感を評価に反映させるため、令和4年1月から2月に実施した県民意識調査結果について、政策推進プランが始まる直前の平成31年（基準年）の調査結果と比較し、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行った。

## 2 分析対象

- 以下の「県民意識調査」で把握した県民の幸福に関する様々な実感について、「補足調査」の結果も踏まえながら、統計手法等を活用の上、分析を行った。

表1 県民意識調査と補足調査

調査名	県の施策に関する県民意識調査	県の施策に関する県民意識調査（補足調査）
調査対象	県内に居住する18歳以上の男女	
対象者数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）
抽出方法	無作為抽出	固定（H31調査回答者から抽出）
調査時期	毎年1～2月	
調査項目	主観的幸福感、分野別実感 等	主観的幸福感、分野別実感、分野別実感の回答理由 等

## 3 分析結果

### (1) 主観的幸福感の分析結果

- 令和4年県民意識調査の結果によると、5段階の選択肢に応じて5点（幸福だと感じている）から1点（幸福だと感じていない）を配点したところ、県全体の実感平均値は、3.51点（基準年調査：3.43点）となり、主観的幸福感としては上昇。
- なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で56.6%となり、基準年調査より4.3ポイント上昇。また、「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」と回答した人は17.8%となり、基準年調査より1.5ポイント低下。
- 幸福を判断するに当たって重視した事項は、基準年以降継続して、1位が「健康状況」、2位が「家族関係」。
- 属性別に基準年調査と比較すると、以下の属性で主観的幸福感が上昇。
  - ・性別：「女性」
  - ・年代別：「50歳代」
  - ・職業別：「自営業主」及び「常用雇用者」
  - ・世帯構成別：「その他世帯」
  - ・子の数別：「3人」及び「子どもはいない」
  - ・居住年数別：「10年未満」及び「20年以上」
  - ・広域振興圏別：「県南広域振興圏」及び「県北広域振興圏」

図1 主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

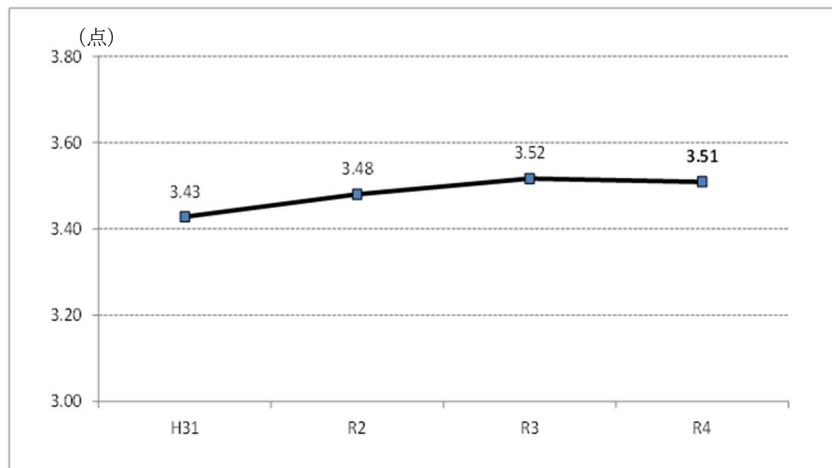
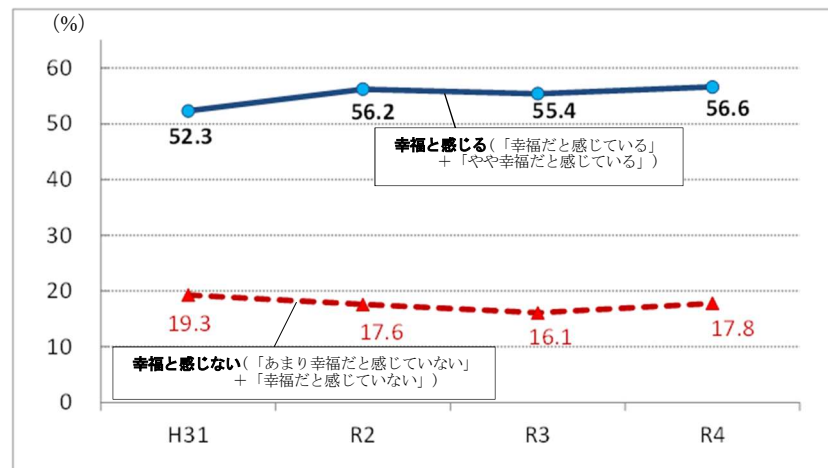


図2 主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



(2) 主観的幸福感に関連する12の分野別実感の分析結果

① 分野別実感の変動状況に係る分析結果

令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、政策推進プランの開始前である平成31年を基準とした場合、以下のとおり、上昇が4分野、横ばいが3分野、低下が5分野となった。

上 昇（4分野）：心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育

横ばい（3分野）：住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ

低 下（5分野）：余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

分野別実感が上昇した要因は、補足調査において実感が上昇した人の上位3位までの回答理由等から、表2のとおり推測された。

表2 分野別実感が上昇した要因分析結果

上昇した 分野別実感	基準年（H31）と令和 4年の実感平均値の差 <sup>注</sup>	推測される要因等
心身の健康	0.20 (3.20)	<p>【からだ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと</li> <li>イ 健康診断の結果が良かったこと</li> <li>ウ 心身の健康状態が良かったこと</li> </ul> <p>【こころ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと</li> <li>イ からだの健康状態が良かったこと</li> <li>ウ 仕事・学業におけるストレスが減ったこと</li> <li>エ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと</li> </ul>
家族関係	0.07 (3.91)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 会話の頻度が多いこと</li> <li>イ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること</li> <li>ウ 困った時に助け合えていること</li> </ul>
子育て	0.08 (3.16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること</li> <li>イ 子どもを預けられる場所（保育所など）があること</li> <li>ウ 配偶者が家事に参加していること</li> </ul>
子どもの教育	0.08 (3.18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 人間性、社会性を育むための教育内容となっていること</li> <li>イ 学力を育む教育内容となっていること</li> <li>ウ 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）となっていること</li> </ul>

（注）（ ）は、令和4年県民意識調査における実感平均値。



分野別実感が低下した要因は、補足調査において実感が低下した人の上位3位までの回答理由等から、表3のとおり推測された。

表3 分野別実感が低下した要因分析結果

低下した分野別実感	基準年 (H31) と令和4年の実感平均値の差 <sup>注1</sup>	推測される要因等
余暇の充実	△0.09 (2.96)	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 知人・友人との交流が減ったこと ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと
地域社会とのつながり	△0.25 (3.10)	ア 隣近所との面識・交流が減ったこと イ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと ウ その地域で過ごした年数が影響していること <sup>注2</sup>
地域の安全	△0.10 (3.72)	ア 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること イ 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと ウ 犯罪の発生状況に不安があること エ 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること
仕事のやりがい	△0.12 (3.41)	ア 現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと イ 現在の職種・業務の内容に不満があること ウ 将来の収入・給料の額の見込みに不安があること エ 就業形態（正規・非正規など）に不満があること オ 収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと
必要な収入や所得	△0.07 (2.57)	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 生活の程度が十分とは言えないこと ウ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと

（注1）「基準年 (H31) と令和4年の実感平均値の差」における（ ）は、令和4年県民意識調査における実感平均値です。

（注2）居住年数が10年未満及び20年以上の属性で実感が低下しており、又補足調査の「分野別実感の回答理由として関連の強い要因」において「その地域で過ごした年数」との回答が多かったことから、このような表現にしています。

② 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

幸福感について調査を始めた平成 28 年から令和 4 年まで、あるいは政策推進プランが始まる直前の平成 31 年から令和 4 年までにおいて、県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性について、補足調査の結果、各分野別実感において「感じる・やや感じる」と回答した人の上位 3 位までの回答理由から、表 4 のとおり要因が推測された。

表 4 分野別実感が一貫して高値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
家族関係	世帯構成	夫婦のみ	4.00～4.10	ア 会話の頻度が多いこと イ 困った時に助け合えていること ウ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること
自然の ゆたかさ	全ての属性		4.02～4.59	ア 緑の量が豊かであること イ 空気が状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

幸福感について調査を始めた平成28年から令和4年まで、あるいは政策推進プランが始まる直前の平成31年から令和4年までにおいて、県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性について、各分野別実感において「感じない・あまり感じない」と回答した人の上位3位までの回答理由から、表5のとおり要因が推測された。

表5 分野別実感が一貫して低値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
余暇の充実	年代	30歳代	2.71～2.88	ア 自由な時間を十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと
		40歳代	2.82～2.88	
		50歳代	2.68～2.92	
	職業	常用雇用者	2.82～2.89	
	世帯構成	2世代世帯	2.80～2.98	
	子どもの数	子どもはいない	2.84～2.97	
	広域振興圏	県南広域振興圏 <sup>注1</sup>	2.90～2.97	
県北広域振興圏 <sup>注1</sup>		2.90～2.97		
子育て	子どもの数	子どもはいない	2.60～2.87	ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） イ 子どもの教育にかかる費用が高いこと ウ 子育てにかかる費用が高いこと エ 自分の就業状況（労働時間、休養、休暇など）に不満があること
子どもの教育	子どもの数	子どもはいない	2.80～2.98	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） ウ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと エ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと オ 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと
地域社会とのつながり	年代	20歳代 <sup>注1</sup>	2.77～2.95	ア その地域で過ごした年数が影響していること <sup>注2</sup> イ 隣近所との面識・交流が少ないこと ウ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと
必要な収入や所得	会社役員・団体役員、居住年数10～20年未満を除く全ての属性		2.20～2.99	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の支出額が多いこと

（注1）平成31年から令和4年県民意識調査において一貫して低値で推移している属性。

（注2）居住年数が10年未満及び20年以上の属性で実感が低下しており、又補足調査の「分野別実感の回答理由として関連の強い要因」において「その地域で過ごした年数」との回答が多かったことから、このような表現にしています。

### 【追加分析 1】県民の幸福感の推移に係る分析

県民の幸福感については、県民意識調査において、平成 28 年から設問を設けて実感を把握してきており、政策推進プランの期間前（H28～H31）、期間中（H31～R4）に分けて、その推移を分析しました。

#### ①主観的幸福感

政策推進プランの期間	実感変動	幸福実感の回答割合（%）	
		感じる	感じない
期間前	横ばい	51.3～55.4	18.3～19.3
期間中	上昇	52.3～56.6	16.1～19.3

○幸福かどうか判断する際に重視している項目は、一貫して1位が「健康状況」、2位が「家族関係」

#### ②分野別実感

分野別実感	実感変動		期間中の実感変動の要因
	期間前	期間中	
①心身の健康	横ばい	上昇	ワークライフバランスが良くなっていることなど
②余暇の充実	上昇	低下	知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少など
③家族関係	横ばい	横ばい	—
④子育て	上昇	上昇	子どもを預けられる人・場所があるなど
⑤子どもの教育	横ばい	上昇	人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実など
⑥住まいの快適さ	上昇	横ばい	—
⑦地域社会とのつながり	上昇	低下	隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少など
⑧地域の安全	上昇	低下	自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていることなど
⑨仕事のやりがい	横ばい	低下	現在の収入や給料の額が十分とは言えないなど
⑩必要な収入や所得	上昇低下	上昇低下	自分の収入・所得額が十分とは言えないなど (R2-R3 では、特別給付金等の影響もあり上昇)
⑪歴史・文化への誇り	横ばい	横ばい	—
⑫自然のゆたかさ	横ばい	横ばい	—

図 3 主観的幸福感の推移〔点数〕

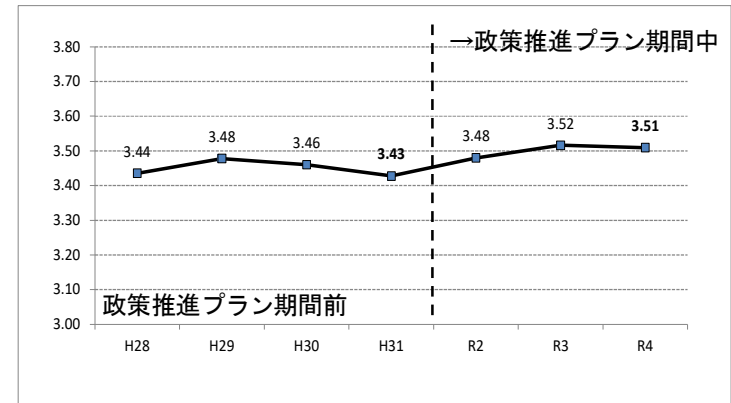
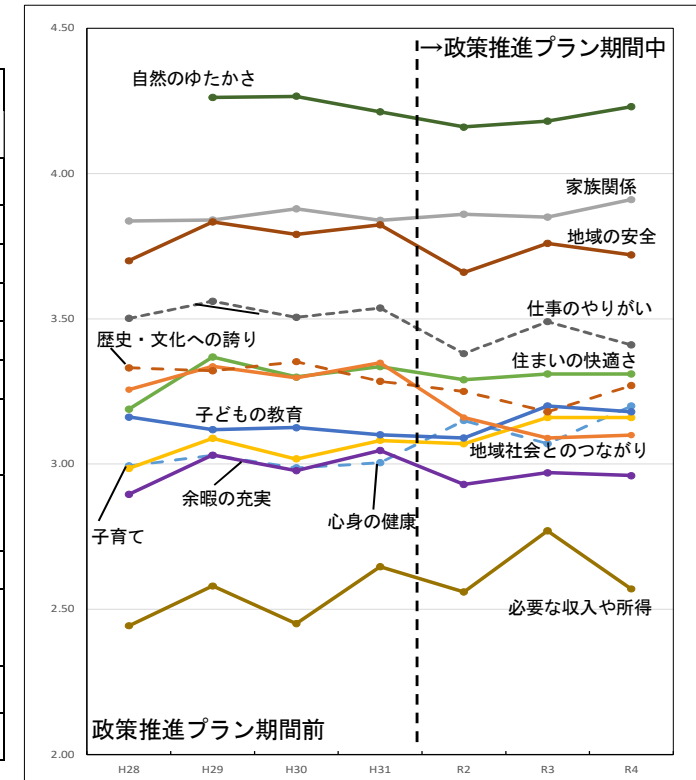


図 4 分野別実感の推移〔点数〕



## 【追加分析2】新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析

令和4年県民意識調査において、分野別実感とそれに係る回答者の新型コロナウイルス感染症の影響実感について調査した結果から、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について分析を行った結果、以下のとおりとなりました。

分野によっては一定の相互関係（新型コロナウイルス感染症の影響について良い影響を感じる人ほど分野別実感が高く、良くない影響を感じる人ほど分野別実感が低いなど）が見られており、「新型コロナウイルス感染症の影響」が「分野別実感」に一定程度影響があったものと推測できます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（R2年調査）に比べて、分野別実感が低下した分野には、そうした相互関係が見られておらず、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関係性は確認できませんでした。

### 【分析結果】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との「分野別実感」の変動は、4分野（「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」「自然のゆたかさ」）で実感が上昇し、1分野（「地域社会とのつながり」）で実感が低下し、7分野（「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」「住まいの快適さ」「仕事のやりがい」「必要な収入や所得」「歴史・文化への誇り」）で実感が横ばいとなりました。

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計

新型コロナウイルス感染症の影響	分野別実感	
	分野	回答割合
良い影響を感じる	すべて	「感じる」 > 「感じない」
良くない影響を感じる	5分野（「からだの健康」「余暇の充実」「子育て」「住まいの快適さ」「必要な収入や所得」）	「感じる」 < 「感じない」
	それ以外	「感じる」 > 「感じない」

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」別の「分野別実感」の平均値の比較

新型コロナウイルス感染症の影響	分野別実感	
	分野	「どちらともいえない+影響を感じない」の実感平均値との比較
良い影響を感じる	すべて	高い
良くない影響を感じる	2分野（「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」）	高い
	1分野（「子どもの教育」）	横ばい
	9分野（「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」「子育て」「住まいの快適さ」「地域の安全」「仕事のやりがい」「必要な収入や所得」「自然のゆたかさ」）	低い

参考

1 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学 人と社会の未来研究院 教授	オブザーバー

※敬称略

## 2 令和4年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月19日(木)	<b>第1回部会開催</b> (1) 部会長・副部会長の選任について (2) 県民の幸福感に関する分析部会について (3) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (4) 分野別実感の分析について
5月26日(木)	<b>第2回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月23日(木)	<b>第3回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月30日(木)	<b>第4回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
7月27日(水)	<b>第5回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(素案)について
10月24日(月)	<b>第6回部会開催</b> (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(案)について (2) 令和5年県民意識調査(補足調査)について
11月14日(月)	<b>第101回総合計画審議会</b> で分析結果を報告(予定)

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和 4 年度年次レポート（案）

令和 4 年〇月





# 目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和4年度の分析事項	2
第3章	調査結果	
3.1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	4
3.1.1	調査目的及び対象等	
3.1.2	調査結果の概要	
3.2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	9
3.2.1	調査目的及び対象等	
3.2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
4.1	分析方針等について	12
4.2	主観的幸福感について	17
4.3	分野別実感について	20
4.3.1	実感が上昇した分野	
4.3.2	実感が低下した分野	
4.3.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
5.1	主観的幸福感について	38
5.2	分野別実感について	38
	<b>【追加分析1】</b>	
	県民の幸福感の推移に係る分析	43
	<b>【追加分析2】</b>	
	新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析	61
	<参考>	
参考1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	77
参考2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	78
参考3	令和4年度における部会開催状況等	78
参考4	部会審議における主な発言（提言等）【調整中】	79

## 別冊【資料編】

- 参考資料 1 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」調査票
- 参考資料 2 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」結果
- 参考資料 3 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票
- 参考資料 4 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果
- 参考資料 5 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点
- 参考資料 6 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果
- 参考資料 7 「令和4年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」属性別平均点
- 参考資料 8 「令和4年度幸福について考えるワークショップ」の開催結果

## 第1章 本報告書の内容

### 【趣旨】

県は、総合計画である「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)において、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、県民の幸福に関連する10の政策分野を設定するとともに、各分野にいわて幸福関連指標を設定して取組を展開しています。

計画の推進に当たっては、政策評価に基づく「第1期アクションプラン 政策推進プラン(2019年度～2022年度)」(以下「政策推進プラン」という。)の進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくことが必要です。

そこで、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置し、平成12年から実施している「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)において、平成28年から幸福に関する設問を設け、県民の幸福に関する様々な実感を把握し、県民計画が始まる直前の平成31年(基準年)の実感と比較して変動を確認し、その要因について分析を行うこととしています。

この報告書は、令和4年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

### 【概要】

令和4年県民意識調査結果において、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.51点(基準年調査:3.43点)となり、基準年より0.08点上昇しています。

県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、t検定により時系列変化の有無を検証した結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。(P17 参照)

同様に、令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を見ると、基準年調査に比べて、下記のとおり4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下、となっていることから、本書において、その変動要因の分析を行いました。(P20 以降参照)

**上 昇 (4分野) : 心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育**

**横ばい (3分野) : 住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ**

**低 下 (5分野) : 余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得**

また、本調査においては、平成28年から幸福に関する設問を設けており、幸福に関する調査を開始して以降、一貫して高値又は低値で推移している属性についても、その要因の分析を行いました。

なお、政策推進プランの最終年度であることから、次期プランの策定の参考とするため、政策推進プランの期間前と期間中の幸福実感の推移についても分析を行いました。(P43 参照)

さらに、令和4年県民意識調査において新型コロナウイルス感染症の各分野への影響に係る設問を設け、その調査結果を用いて、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について、追加分析を行いました。(P61 参照)

## 第2章 令和4年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、調査対象者を固定した継続調査を行うこととし、令和元年度の分析部会において、県民意識調査を補足する「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）の設計を行いました。補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から600人を調査対象者として固定し、令和2年1月より県民意識調査と同時期に実施しています。

表1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと （対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感が変動した要因を推測する）
対象	県内に居住する18歳以上の男女	県内に居住する18歳以上の男女
調査人数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）※
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出（回答者は毎年変更）	基準年である平成31年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける者から選定し、毎年固定
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月

※R4年補足調査は、県内在住で調査に御協力いただける591人を対象として実施

今年度の分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

- 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握（令和4年県民意識調査結果の属性分析）  
県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和4年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析
- 分野別実感の変動要因の推測（基準年との2時点比較）
  - ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年（基準年）と令和4年の県民意識調査結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
  - ・ 2時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、実感が上昇・低下した要因を推測
- 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測  
平成28年から令和4年、または平成31年から令和4年までの県民意識調査結果から、分野別実感の平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性について、補足調査において当該属性に該当する人で、高値にあつては「感じる・やや感じる」、低値にあつては、「感じない・あまり感じない」と回答した項目等から要因を推測

表2 分析等に係るスケジュール

年度	調査	分析
平成12年度 )	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     県民意識調査                 </div> 幸福実感に係る調査を開始 (H28.1~)	—
平成27年度		
平成28年度		
平成29年度		
平成30年度		
令和元年度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     補足調査 (R2.1~)                 </div>	・補足調査の設計 ・過去の県民意識調査の分析
令和2年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和3年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和4年度		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・県民の幸福実感の推移の分析
令和5年度以降		・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析

政策推進プラン期間

### 第3章 調査結果

#### 3.1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

##### 3.1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和4年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 3,324人
- ⑧ 有効回収率 66.5%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,439	(43.3)
女性	1,868	(56.2)
その他	3	(0.1)
不明	14	(0.4)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	52	(1.6)
20～29歳	192	(5.8)
30～39歳	293	(8.8)
40～49歳	457	(13.7)
50～59歳	525	(15.8)
60～69歳	705	(21.2)
70歳以上	1,005	(30.2)
不明	95	(2.9)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	962	(28.9)
県南広域振興圏	1,002	(30.1)
沿岸広域振興圏	801	(24.1)
県北広域振興圏	559	(16.8)

【居住年数別】	回答者数	割合
10年未満	87	(2.6)
10～20年未満	166	(5.0)
20年以上	2,958	(89.0)
不明	113	(3.4)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	298	(9.0)
家族従業者	86	(2.6)
会社役員・団体役員	222	(6.7)
常用雇用者	890	(26.8)
臨時雇用者	430	(12.9)
学生	81	(2.4)
専業主婦(主夫)	327	(9.8)
無職	751	(22.6)
その他	100	(3.0)
不明	139	(4.2)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	450	(13.5)
2人	1,171	(35.2)
3人	631	(19.0)
4人以上	132	(4.0)
子どもはいない	735	(22.1)
不明	205	(6.2)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	372	(11.2)
夫婦のみ	686	(20.6)
2世代世帯	1,396	(42.0)
3世代世帯	474	(14.3)
その他	175	(5.3)
不明	221	(6.6)

( )内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

### 3.1.2 調査結果の概要

#### ① 主観的幸福感（設問3-2：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

主観的幸福感について、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.51点（基準年調査：3.43点）となりました。

なお、県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）と回答した人が56.6%（基準年調査：52.3%）、幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）と回答した人が17.8%（基準年調査：19.3%）となりました。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

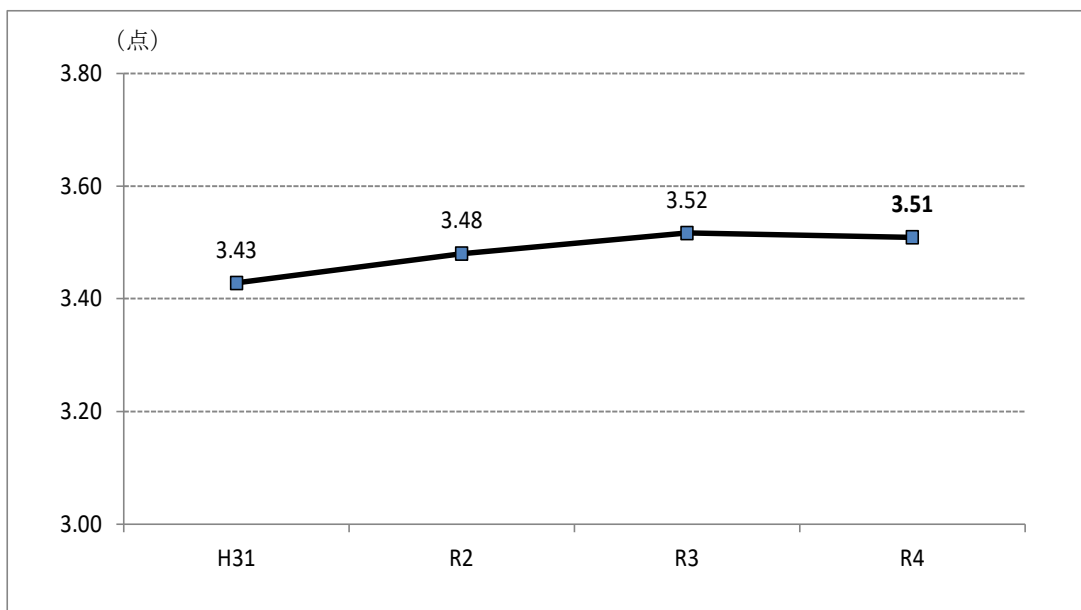
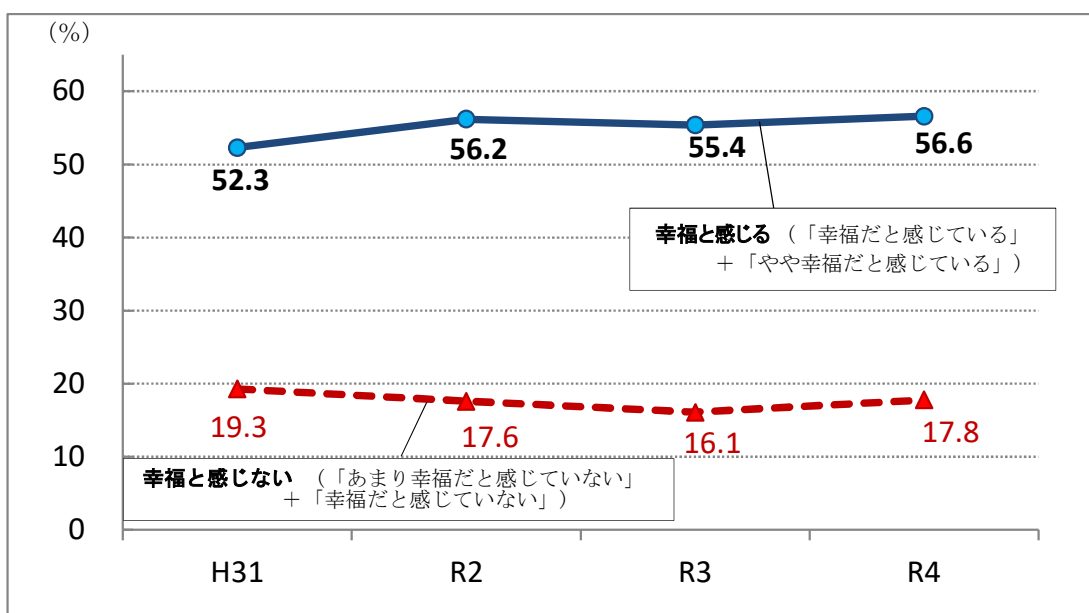


図2 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕

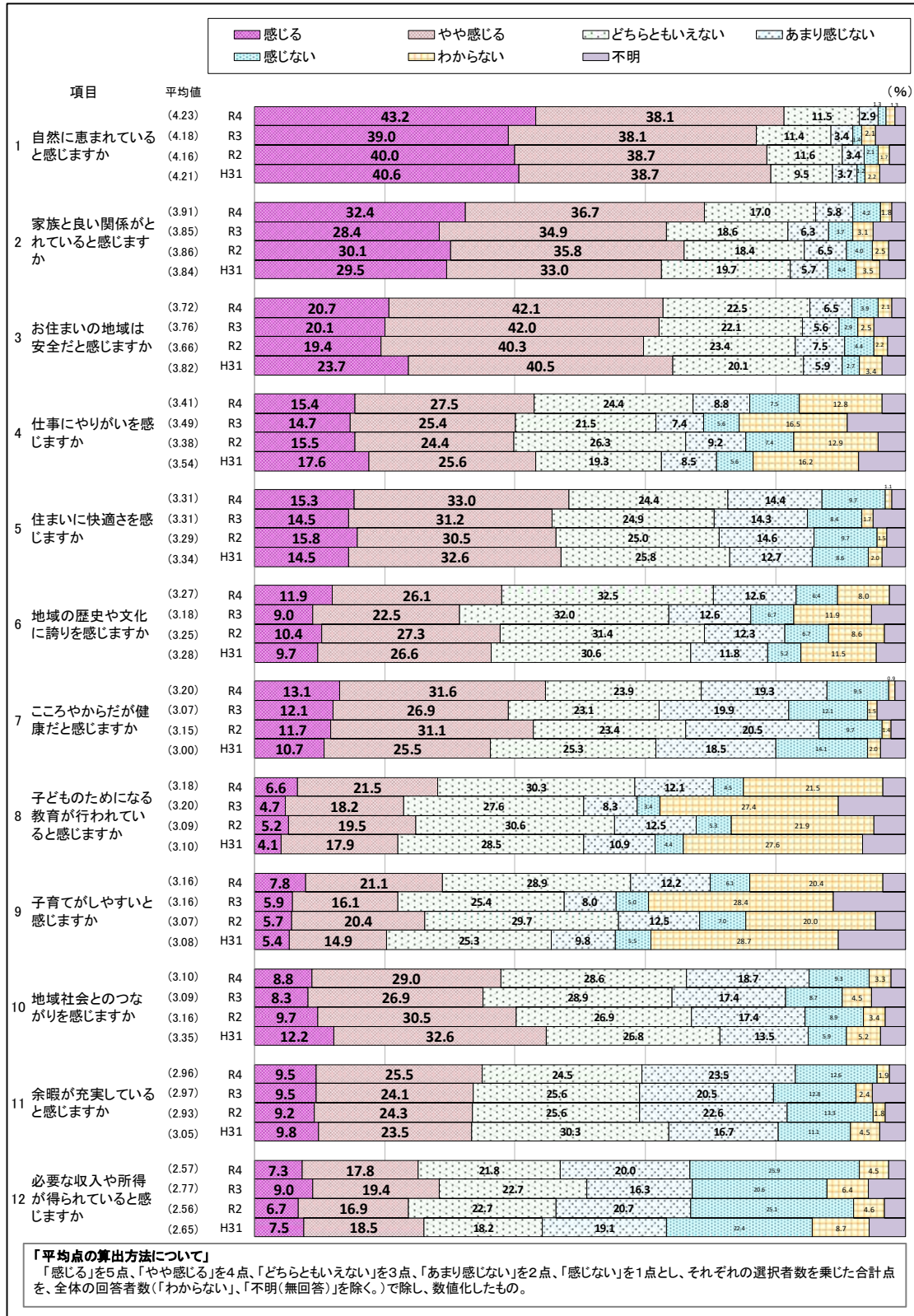




② 分野別実感（設問3-1：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年と同様に高くなっている一方で、「必要な収入・所得」の実感は引き続き低くなっています。（下図は、令和4年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

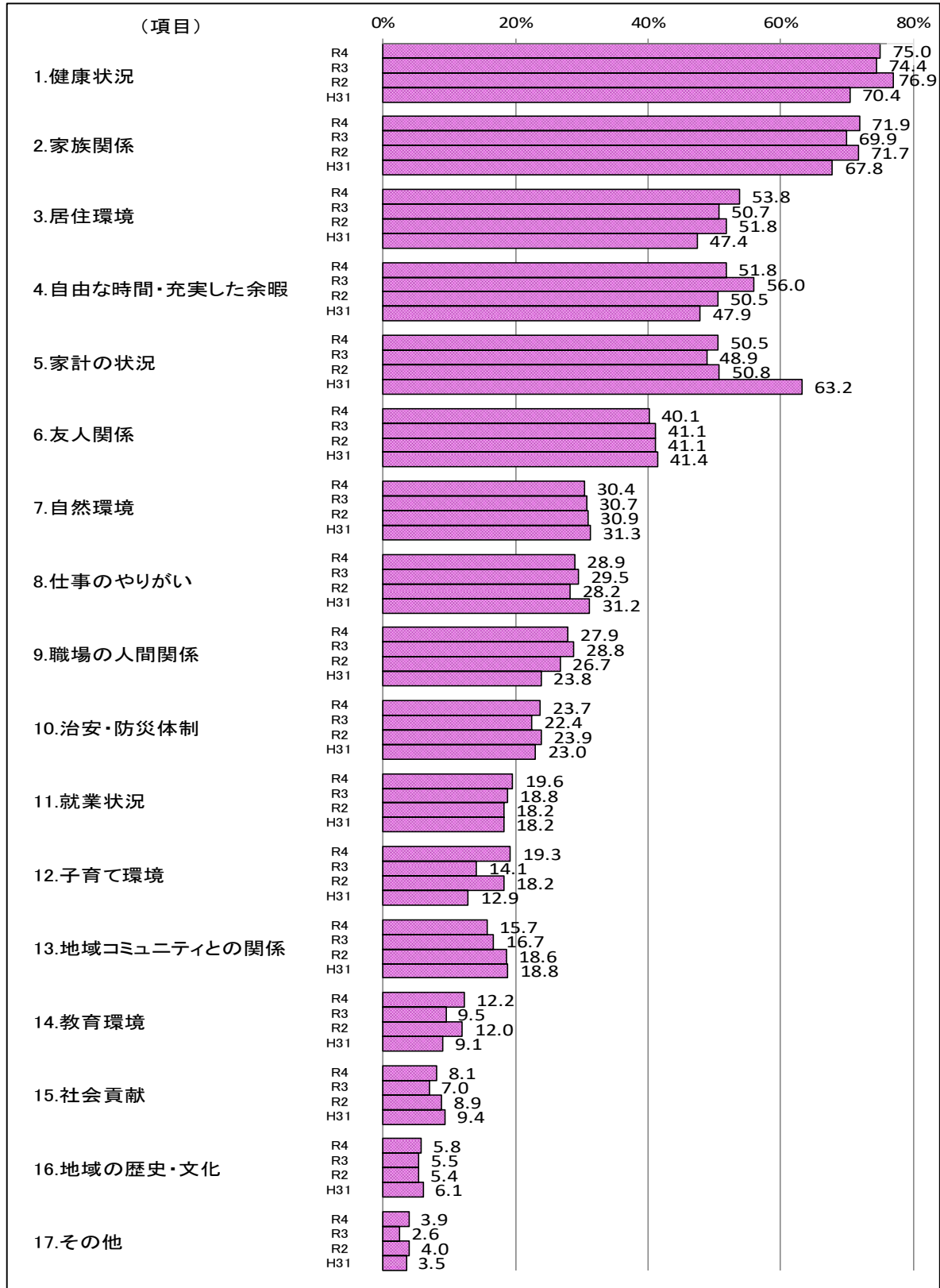


③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問3-3：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

図4 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(設問5：問3-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを一つ選んでください。)

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図5のとおりであり、特に「こころの健康」や「余暇の充実」において、「あまりよくない影響を感じる」又は「よくない影響を感じる」と回答した人が多くなっています。

図5 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

(項目)		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ よい影響を感じる</p> <p>■ どちらともいえない</p> <p>■ よくない影響を感じる</p> <p>■ 不明</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>□ ややよい影響を感じる</p> <p>■ あまりよくない影響を感じる</p> <p>□ 影響を感じない</p> </div> </div>						良い影響 (%)	良くない影響 (%)	
		R4	R3							
① 心身の健康	R4	4%	10%	27%	19%	18%	12%	10%	14	37
	R3									
①-1 からだの健康	R4	3%	12%	30%	18%	16%	14%	7%	15	34
	R3	3%	7%	18%	17%	39%	11%	5%		
①-2 こころの健康	R4	3%	10%	26%	22%	20%	12%	7%	13	42
	R3	2%	6%	17%	21%	41%	7%	5%		
2 余暇の充実	R4	3%	11%	26%	19%	23%	10%	7%	14	42
	R3	2%	6%	19%	19%	41%	7%	6%		
3 家族関係	R4	8%	16%	32%	12%	9%	17%	6%	24	21
	R3	5%	8%	25%	16%	27%	13%	5%		
4 子育て	R4	3%	8%	25%	11%	12%	31%	10%	11	23
	R3	2%	8%	17%	13%	28%	26%	10%		
5 子どもの教育	R4	2%	7%	25%	12%	14%	30%	10%	9	26
	R3	1%	6%	16%	15%	30%	24%	11%		
6 住まいの快適さ	R4	5%	15%	33%	12%	8%	20%	6%	20	20
	R3	3%	7%	28%	16%	23%	17%	6%		
7 地域社会とのつながり	R4	2%	11%	32%	17%	16%	15%	6%	13	33
	R3	1%	5%	24%	20%	32%	12%	7%		
8 お住まいの地域の安全	R4	4%	15%	35%	11%	9%	19%	6%	19	20
	R3	2%	6%	28%	18%	26%	14%	6%		
9 仕事のやりがい	R4	3%	9%	30%	13%	13%	24%	8%	12	26
	R3	2%	5%	23%	15%	26%	20%	8%		
10 必要な収入や所得	R4	2%	6%	27%	18%	19%	22%	7%	8	37
	R3	2%	4%	21%	15%	33%	19%	7%		
11 歴史や文化への誇り	R4	2%	7%	37%	8%	6%	33%	7%	9	14
	R3	1%	2%	24%	17%	31%	19%	7%		
12 自然のゆたかさ	R4	9%	16%	29%	4%	3%	32%	6%	25	7
	R3	2%	6%	27%	15%	23%	20%	6%		

注1) R3 調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。」とし、項目1「心身の健康」は調査せず、項目11は「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12は「自然の恵みを感じる機会への影響」として調査しました。

注2) 別途公表している県民意識調査結果は、回答者数の地域差を考慮し、居住人口に応じた係数を乗じて集計(母集団拡大集計)を行っていますが、当分析部会の分析データは単純集計結果を用いているため、分析結果は、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

### 3.2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

#### 3.2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 591人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から抽出（毎年固定）  
（各広域振興圏150人、概ね各年代100人）
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和4年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 549人
- ⑧ 有効回収率 92.8%
- ⑨ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	280	(51.0)
女性	265	(48.3)
不明	4	(0.7)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	0	(0.0)
20～29歳	37	(6.7)
30～39歳	73	(13.3)
40～49歳	102	(18.6)
50～59歳	108	(19.7)
60～69歳	103	(18.8)
70歳以上	122	(22.2)
不明	4	(0.7)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	112	(20.4)
100万円～300万円未満	276	(50.3)
300万円～500万円未満	88	(16.0)
500万円～700万円未満	41	(7.5)
700万円～1000万円未満	13	(2.4)
1000万円～1500万円未満	3	(0.5)
1500万円以上	4	(0.7)
不明	12	(2.2)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家（一戸建て）	435	(79.2)
持家（集合住宅）	15	(2.7)
借家（一戸建て）	18	(3.3)
借家（集合住宅）	63	(11.5)
その他	7	(1.3)
不明	11	(2.0)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	145	(26.4)
県南広域振興圏	136	(24.8)
沿岸広域振興圏	133	(24.2)
県北広域振興圏	135	(24.6)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	51	(9.3)
家族従業者	10	(1.8)
会社役員・団体役員	31	(5.6)
常用雇用者	197	(35.9)
臨時雇用者	74	(13.5)
学生	8	(1.5)
専業主婦（主夫）	47	(8.6)
無職	94	(17.1)
その他	26	(4.7)
不明	11	(2.0)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	69	(12.6)
2人	206	(37.5)
3人	108	(19.7)
4人	17	(3.1)
5人以上	4	(0.7)
子どもはいない	133	(24.2)
不明	12	(2.2)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	61	(11.1)
夫婦のみ	98	(17.9)
2世代世帯	230	(41.9)
3世代世帯	97	(17.7)
その他	21	(3.8)
不明	42	(7.7)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	0	(0.0)
1～5年未満	3	(0.5)
5～10年未満	10	(1.8)
10～20年未満	21	(3.8)
20年以上	503	(91.6)
不明	12	(2.2)

（注） 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

### 3.2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答の多い順に整理した結果、表3のとおりとなりました。

表3 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果 エ こころの健康状態
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など)	ア 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 イ 仕事・学業におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 エ からだの健康状態
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子ども教育にかかる費用 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 子育てにかかる費用	ア 子ども教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実 エ 子どもの遊び場(公園など)の充実 オ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
(5) 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学校の選択の幅(高校、大学など) ウ 不登校やいじめなどへの対応	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育 ウ 不登校やいじめなどへの対応
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 公共交通機関の利便性
(7) 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止(歩道の整備など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)	ア 交通事故の防止(歩道の整備など) イ 自然災害の発生状況 ウ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) エ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 就業形態(正規・非正規など) ウ 職場の人間関係	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の歴史や文化に関心がない
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境	ア 自然に関心がない イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境

平成31年県民意識調査回答時と令和4年補足調査回答時において、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の3つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因」として選択された項目を回答が多い順に整理した結果、表4のとおりとなりました。

表4 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感の変化別〕

分野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ ころの健康状態	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ ころの健康状態
(1)-2 ころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業におけるストレスの有無 エ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ からだの健康状態
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無 エ 困った時に助け合えるかどうか
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
(5) 子どもの教育	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 公共交通機関の利便性
(7) 地域社会とのつながり	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など) ウ 犯罪の発生状況
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 就業形態(正規・非正規など) エ 現在の収入・給料の額	ア 現在の職種・業務の内容 イ 就業形態(正規・非正規など) ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み エ 職場の人間関係
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額 エ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 生活の程度 ウ 家族の収入・所得額(年金を含む)
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 自然に関心がない

## 第4章 分析結果

### 4.1 分析方針等について

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

#### 1 分析目的

##### (1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

##### (2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年県民意識調査と令和4年県民意識調査で有意な差が確認された分野別実感については、県民意識調査や補足調査を用いて、その要因を推測します。

##### (3) 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して高い又は低い属性を把握するため、平成28年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して高値（平均値が毎年4点以上）又は低値（平均値が毎年3点未満）で推移している属性を把握するとともに、補足調査を用いて、その要因を推測します。

#### 2 分析対象

##### (1) 県民意識調査（詳細はP4参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した18歳以上の県民5,000人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

##### (2) 県民意識調査（補足調査）（詳細はP9参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した600人を対象に実施し（調査対象は毎年同じ）、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

#### 3 分析方法

##### (1) 基準年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

###### ① 「時系列変化の有無」はt検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2時点間（平成31年と令和4年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

###### ② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和4年県民意識調査における男女差などの各属性（年齢階層別等）の区分（20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「その他（性別）」、「18～19歳」、「60歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

### ③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の2つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

#### ・ 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

#### ・ 補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

### (2) 「分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

併せて、基準年である平成31年から令和4年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値又は低値で推移している属性についても同様に分析を行いました。



## ○ 県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、基準年と令和4年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表5に示しています。

表5 【県民意識調査】属性別平均点一覧表(平成31年調査と令和4年調査の差)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て	
令和4年調査 平均値		3.51	3.20	2.96	3.91	3.16	
平成31年調査と令和4年調査の差	県計 (3,324)	0.08	0.20	▲ 0.09	0.07	0.08	
	性別	男性(1,439)	-	0.23	-	-	-
		女性(1,863)	0.08	0.17	▲ 0.12	0.10	-
		その他(参考)(3)					
	年代	18～19歳(参考)(52)	-	-	-	-	-
		20～29歳(192)	-	-	-	-	0.32
		30～39歳(293)	-	0.36	-	-	-
		40～49歳(457)	-	0.24	-	0.18	-
		50～59歳(525)	0.14	0.20	-	-	-
		60～69歳(705)	-	0.16	-	-	-
		70歳以上(1,055)	-	0.16	▲ 0.26	-	-
	職業	自営業主(298)	0.22	-	-	-	-
		家族従業者(86)	-	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(222)	-	0.26	-	0.28	0.33
		常用雇用者(890)	0.15	0.26	-	-	-
		臨時雇用者(430)	-	-	-	-	-
		学生+その他(181)	-	-	-	0.28	-
		専業主婦・主夫(327)	-	0.31	-	-	0.23
		60歳未満の無職(参考)(64)	-	-	-	-	-
		60歳以上の無職(684)	-	0.19	▲ 0.26	-	-
	世帯構成	ひとり暮らし(372)	-	-	-	-	0.21
		夫婦のみ(686)	-	0.21	▲ 0.17	-	-
		2世代世帯(1,396)	-	0.18	-	0.11	-
		3世代世帯(474)	-	0.30	-	-	-
		その他(175)	0.24	-	-	-	-
	子どもの数	1人(450)	-	0.19	-	-	0.16
2人(1,171)		-	0.13	-	-	-	
3人(631)		0.13	0.27	-	0.14	-	
4人以上(132)		-	0.43	-	-	-	
子どもはいない(735)		0.14	0.24	-	-	0.27	
居住年数	10年未満(87)	0.44	0.48	-	-	-	
	10～20年未満(166)	-	-	-	-	-	
	20年以上(2,958)	0.08	0.20	▲ 0.10	0.07	-	
広域振興圏	県央(962)	-	0.12	▲ 0.18	-	-	
	県南(1,002)	0.25	0.32	-	0.15	0.18	
	沿岸(801)	-	-	▲ 0.19	-	-	
	県北(559)	0.16	0.25	-	0.16	0.21	

( ) は、R4 調査のサンプル数

■ :上昇 □ :横ばい ■ :低下

子どもの教育	住まいの 快適さ	地域社会との つながり	地域の安全	仕事の やりがい	必要な収入 や所得	歴史・文化 への誇り	自然の ゆたかさ
3.18	3.31	3.10	3.72	3.41	2.57	3.27	4.23
0.08	-	▲ 0.25	▲ 0.10	▲ 0.12	▲ 0.07	-	-
0.09	-	▲ 0.31	▲ 0.09	▲ 0.11	▲ 0.12	-	-
-	-	▲ 0.20	▲ 0.11	▲ 0.13	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	0.93	-	-
0.27	0.27	-	-	▲ 0.32	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	0.16
-	-	▲ 0.26	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
0.14	-	▲ 0.28	▲ 0.10	-	-	-	-
-	-	▲ 0.26	▲ 0.17	▲ 0.28	▲ 0.14	▲ 0.17	-
-	-	-	-	-	▲ 0.23	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.27	-	-	-	0.11	-
-	-	▲ 0.33	-	▲ 0.22	▲ 0.18	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	▲ 0.21	▲ 0.23	-	-	-
-	-	▲ 0.31	-	▲ 0.31	-	-	-
-	-	▲ 0.30	▲ 0.17	-	-	-	-
-	-	▲ 0.23	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	▲ 0.17	▲ 0.16	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.22	▲ 0.15	-	-	-	-
0.10	-	▲ 0.26	▲ 0.12	-	▲ 0.12	-	-
-	-	▲ 0.21	-	▲ 0.20	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.26	-	-	-	-	0.13
0.48	-	▲ 0.38	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	0.45	-	-
0.06	-	▲ 0.26	▲ 0.11	▲ 0.13	▲ 0.11	-	-
-	-	▲ 0.20	▲ 0.11	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.31	▲ 0.15	▲ 0.22	▲ 0.18	-	-
0.20	-	▲ 0.20	-	-	-	-	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和4年までにおいて、実感平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性を表6に示しています。

表6【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和4年まで一貫して高値又は低値で推移している属性）

■: 低値、□: 高値

		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	地域社会とのつながり	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
県計(3,324)							2.44~2.77	4.16~4.27
性別	男性(1,439)						2.46~2.75	4.13~4.25
	女性(1,863)						2.43~2.79	4.18~4.29
	その他(参考)(3)							
年代	18~19歳(参考)(52)							
	20~29歳(192)					2.77~2.95	2.40~2.68	4.20~4.37
	30~39歳(293)	2.71~2.88					2.36~2.71	4.22~4.37
	40~49歳(457)	2.82~2.88					2.50~2.82	4.16~4.42
	50~59歳(525)	2.68~2.92					2.46~2.75	4.24~4.38
	60~69歳(705)						2.37~2.77	4.09~4.24
	70歳以上(1,055)						2.45~2.80	4.08~4.20
職業	自営業主(298)						2.53~2.86	4.19~4.32
	家族従業者(86)						2.42~2.91	4.12~4.50
	会社役員・団体役員(222)							4.20~4.32
	常用雇用者(890)	2.82~2.89					2.55~2.86	4.21~4.33
	臨時雇用者(430)						2.20~2.65	4.16~4.36
	学生+その他(181)						2.49~2.94	4.09~4.59
	専業主婦・主夫(327)						2.34~2.89	4.15~4.29
	60歳未満の無職(参考)(64)							
60歳以上の無職(684)						2.25~2.46	4.02~4.09	
世帯構成	ひとり暮らし(372)						2.49~2.75	4.07~4.22
	夫婦のみ(686)		4.00~4.05				2.43~2.92	4.10~4.22
	2世代世帯(1,396)	2.80~2.98					2.41~2.71	4.16~4.29
	3世代世帯(474)						2.49~2.82	4.29~4.44
	その他(175)							
子どもの数	1人(450)						2.41~2.78	4.16~4.28
	2人(1,171)						2.48~2.86	4.16~4.25
	3人(631)						2.48~2.83	4.16~4.30
	4人以上(132)						2.31~2.86	4.18~4.32
	子どもはいない(735)	2.84~2.97		2.60~2.87	2.80~2.98		2.37~2.59	4.14~4.30
居住年数	10年未満(87)						2.55~2.99	4.16~4.46
	10~20年未満(166)							4.21~4.35
	20年以上(2,958)						2.42~2.75	4.15~4.27
広域振興圏	県央(962)						2.47~2.87	4.16~4.28
	県南(1,002)	2.90~2.97					2.39~2.70	4.11~4.26
	沿岸(801)						2.51~2.76	4.13~4.26
	県北(559)	2.90~2.97					2.34~2.76	4.22~4.37

※1 ( ) は、R4調査のサンプル数

※2 ■については、基準年（H31年）から一貫して低値で推移している属性

## 4.2 主観的幸福感について

### ① 主観的幸福感の推移（P 5 図 1 及び図 2 参照）

令和 4 年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の実感平均値は 3.51 点となり、基準年より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、**主観的幸福感**は上昇していると考えられます。

なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で 56.6%となり、基準年より 4.3 ポイント上昇し、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、県全体で 17.8%となり、基準年より 1.5 ポイント低下しました。

### ② 属性別の状況

#### ア 令和 4 年県民意識調査の状況（P 18 図 6 参照）

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。

#### イ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較（表 7 参照）

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 7 のとおりでした。

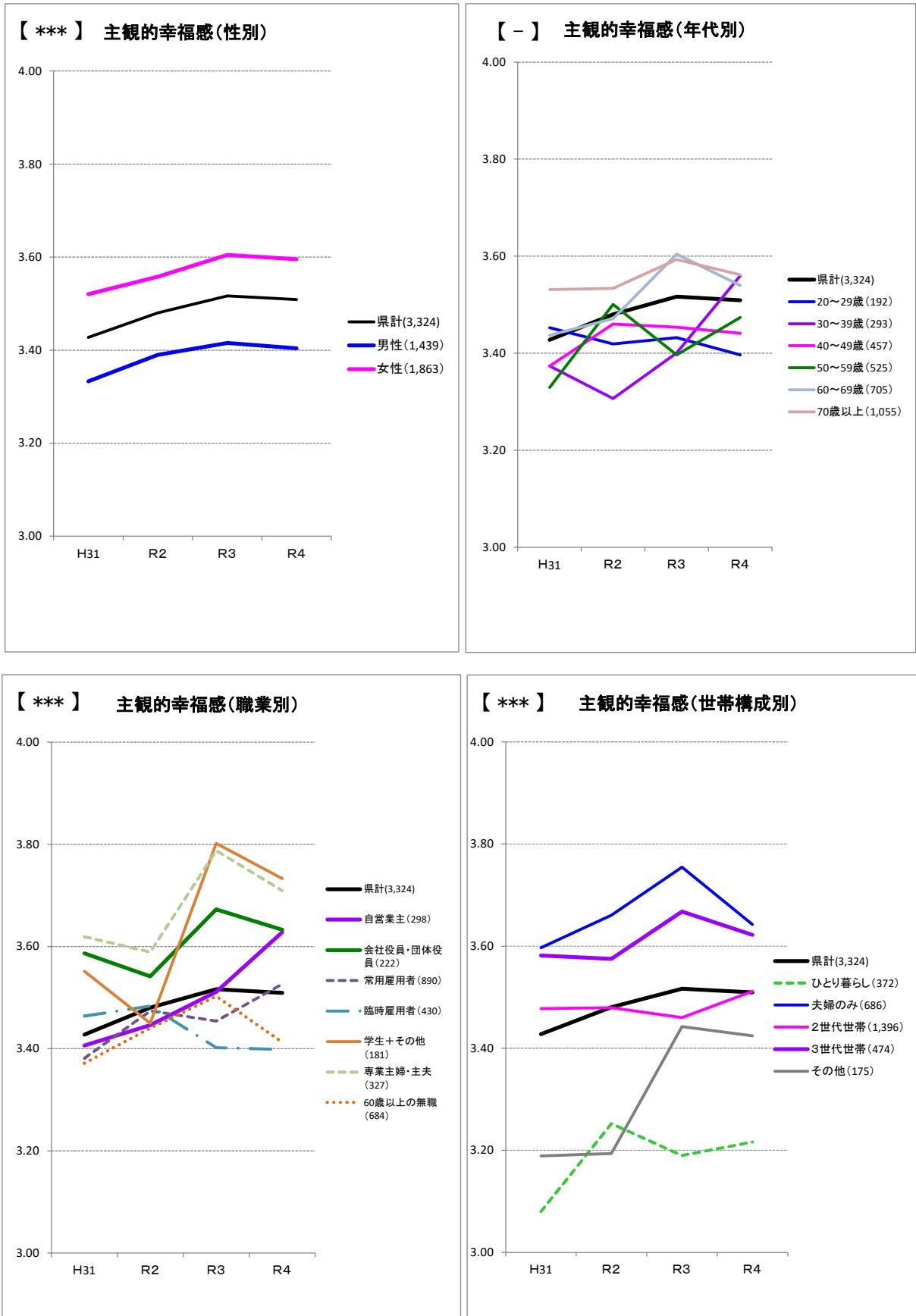
表 7 主観的幸福感において有意な変化があった属性と基準年差

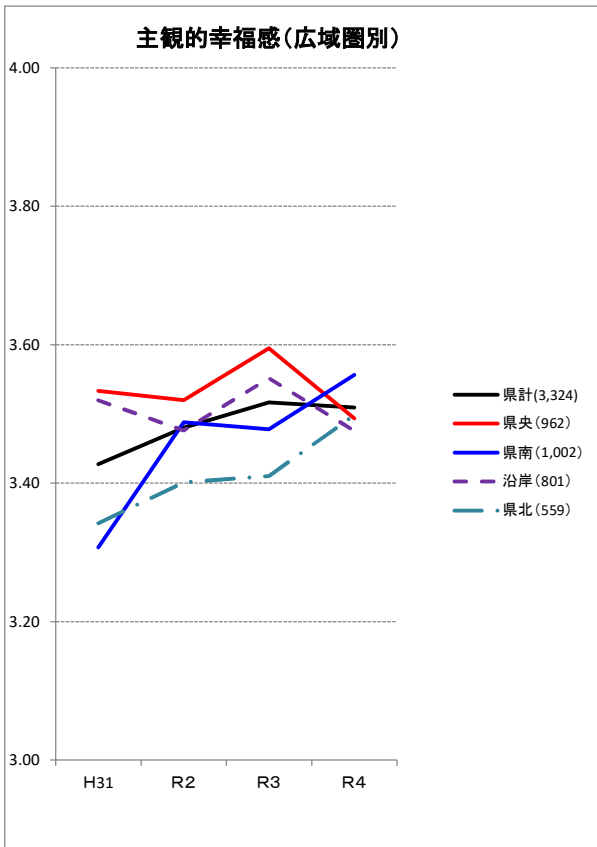
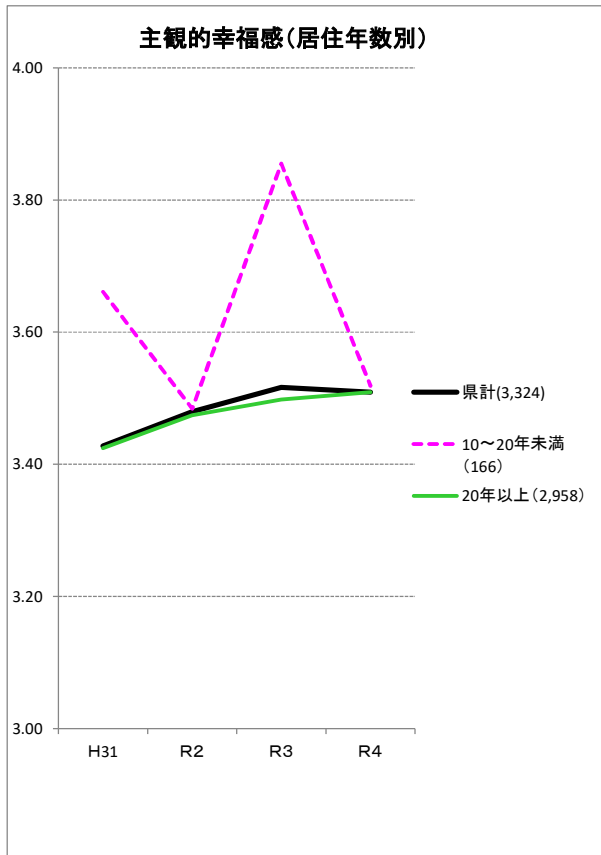
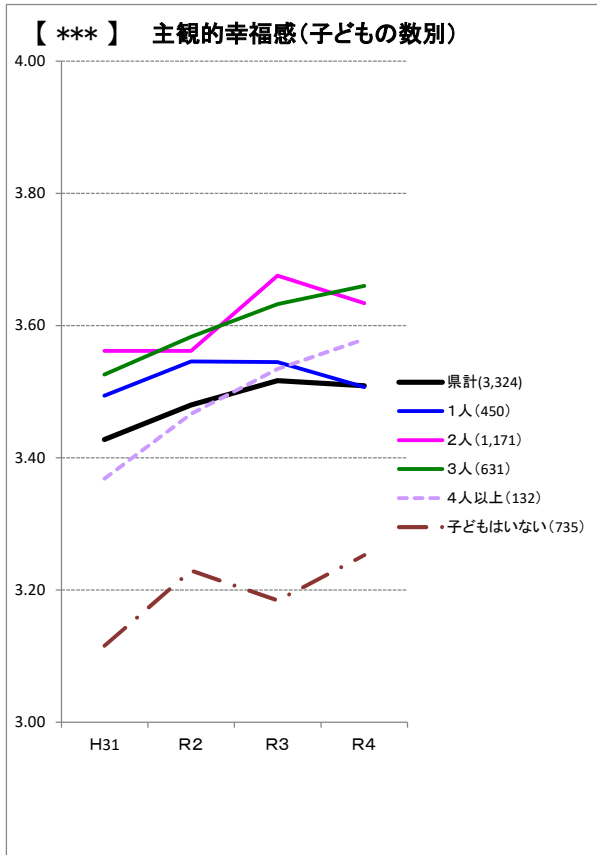
属性		H31	R 4	R 4 - H31 (対基準年差)
県計		3.43	3.51	0.08
性別	女性	3.52	3.60	0.08
年代	50～59 歳	3.33	3.47	0.14
職業	自営業主	3.41	3.63	0.22
	常用雇用者	3.38	3.53	0.15
世帯構成	その他	3.19	3.42	0.24
子どもの数	3人	3.53	3.66	0.13
	子どもはいない	3.12	3.25	0.14
居住年数	10年未満	3.37	3.81	0.44
	20年以上	3.42	3.51	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.56	0.25
	県北広域振興圏	3.34	3.50	0.16

### ③ 幸福感を判断する上で重視された項目（P 7 図 4 参照）

令和 4 年県民意識調査において、回答した人が**幸福感を判断する上で重視した項目**については、基準年以降継続して 1 位が「健康状況」、2 位が「家族関係」でした。

図6 主観的幸福感の属性別集計結果





#### 「主観的幸福感(平均)について」

##### 幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

##### ■凡例■

グラフ左上の\*は、R4調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【\*\*\*】1%水準で差が有意(差が認められる)

【\*\*】5%水準で差が有意(差が認められる)

【\*】10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

注) R4のサンプル数が100人以下である以下の属性を分析対象から除外。

- ・ 性別の「その他」
- ・ 年代の「18~19歳」
- ・ 職業の「家族従業者」、「60歳未満の無職」
- ・ 居住年数「10年未満」

### 4.3 分野別実感について

令和4年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表8のとおりであり、政策推進プランの開始前である平成31年を基準とした場合、4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下が見られました。

表8 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移			
		H31 (基準年)	R2	R3	R4 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15 ↑ (0.15)	3.07 ↑ (0.07)	3.20 ↑ (0.20)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93 ↓ (Δ0.12)	2.97 ↓ (Δ0.08)	2.96 ↓ (Δ0.09)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86 - (0.02)	3.85 - (0.01)	3.91 ↑ (0.07)
	(4) 子育て	3.08	3.07 - (Δ0.01)	3.16 ↑ (0.08)	3.16 ↑ (0.08)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09 - (Δ0.01)	3.20 ↑ (0.10)	3.18 ↑ (0.08)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29 - (Δ0.05)	3.31 - (Δ0.02)	3.31 - (Δ0.03)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16 ↓ (Δ0.19)	3.09 ↓ (Δ0.25)	3.10 ↓ (Δ0.25)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66 ↓ (Δ0.16)	3.76 ↓ (Δ0.06)	3.72 ↓ (Δ0.10)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38 ↓ (Δ0.16)	3.49 - (Δ0.05)	3.41 ↓ (Δ0.12)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56 ↓ (Δ0.09)	2.77 ↑ (0.13)	2.57 ↓ (Δ0.07)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25 - (Δ0.03)	3.18 ↓ (Δ0.11)	3.27 - (Δ0.01)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16 ↓ (Δ0.05)	4.18 - (Δ0.03)	4.23 - (0.02)

(注) ① ( ) は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t 検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

### 4.3.1 実感が上昇した分野

#### (1) 「心身の健康」の実感

##### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.20点であり、基準年調査より0.20点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

##### イ 属性別の状況

##### ○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「40～49歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

##### ○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表9のとおりでした。

表9 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31
県計		3.00	3.20	0.20
性別	男性	2.97	3.21	0.23
	女性	3.03	3.20	0.17
年代	30～39歳	2.80	3.16	0.36
	40～49歳	2.85	3.09	0.24
	50～59歳	2.90	3.10	0.20
	60～69歳	3.05	3.21	0.16
	70歳以上	3.13	3.29	0.16
職業	会社役員・団体役員	3.02	3.28	0.26
	常用雇用者	2.91	3.17	0.26
	専業主婦・主夫	3.07	3.38	0.31
	60歳以上の無職	2.90	3.09	0.19
世帯構成	夫婦のみ	3.12	3.33	0.21
	2世代世帯	3.00	3.17	0.18
	3世代世帯	3.01	3.31	0.30
子どもの数	1人	2.96	3.15	0.19
	2人	3.13	3.27	0.13
	3人	3.02	3.29	0.27
	4人以上	2.83	3.26	0.43
	子どもはいない	2.82	3.06	0.24
居住年数	10年未満	3.10	3.58	0.48
	20年以上	2.98	3.18	0.20
広域振興圏	県央広域振興圏	3.09	3.21	0.12
	県南広域振興圏	2.92	3.24	0.32
	沿岸広域振興圏	2.96	3.21	0.25



## ② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表9のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 実感の変動については、「心身の健康」で把握しているが、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」については、「からだの健康」と「こころの健康」に分けて調査を行っており、実感が上昇した人がそれぞれ選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。

### 【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) 健康診断の結果
- (ウ) こころの健康状態

### 【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) からだの健康状態
- (ウ) 仕事・学業におけるストレスの有無
- (エ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無

- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「こころの健康状態が良かったこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「からだの健康状態が良かったこと」「仕事・学業におけるストレスが減ったこと」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと」とであると推測されます。

## ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (2) 「家族関係」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.91点であり、基準年調査より0.07点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「20～29歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「4人以上」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表10のとおりでした。

表10 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.84	3.91	0.07
性別	女性	3.84	3.94	0.10
年代	40～49歳	3.77	3.95	0.18
職業	会社役員・団体役員	3.73	4.01	0.28
	学生+その他	3.87	4.15	0.28
世帯構成	2世代世帯	3.82	3.93	0.11
子どもの数	3人	3.83	3.96	0.14
居住年数	20年以上	3.83	3.90	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.74	3.89	0.15
	県北広域振興圏	3.74	3.90	0.16

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表10のとおりであり、職業別「会社役員・団体役員」、「学生+その他」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
  - (ア) 会話の頻度(多い・少ない)
  - (イ) 同居の有無
  - (ウ) 困った時に助け合えるかどうか
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「会話の頻度が多いこと」、「同居(あるいは別居)がうまくいっていること」、「困った時に助け合えていること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性は表11のとおりであり、低値(3点未満)で推移している属性はありませんでした。

○ 夫婦のみ世帯

「夫婦のみ世帯」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 会話の頻度が多いこと
- (イ) 困った時に助け合えていること
- (ウ) 同居(あるいは別居)がうまくいっていること

表11 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02	4.10

### (3) 「子育て」の実感

#### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.16 点であり、基準年調査より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

##### イ 属性別の状況

###### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59 歳」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「1 人」が高くなりました。

###### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 12 のとおりでした。

表 12 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.08	3.16	0.08
年代	20～29 歳	2.80	3.12	0.32
職業	会社役員・団体役員	2.94	3.27	0.33
	専業主婦・主夫	3.04	3.27	0.23
世帯構成	ひとり暮らし	2.80	3.00	0.21
子どもの数	1 人	3.11	3.27	0.16
	子どもはいない	2.60	2.87	0.27
広域振興圏	県南広域振興圏	2.97	3.14	0.18
	県北広域振興圏	3.01	3.22	0.21

#### ② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 12 のとおりであり、年代別「20～29 歳」、職業別「会社役員・団体役員」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
  - (ア) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
  - (イ) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
  - (ウ) 配偶者の家事への参加
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「子どもを預けられる人(親、親戚など)がいること」、「子どもを預けられる場所(保育所など)があること」、「配偶者が家事に参加していること」であると推測されます。

#### ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 13 のとおりです。

## ○ 子どもはいない

「子どもはいない」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (イ) 子どもの教育にかかる費用が高いこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと
- (エ) 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること

表 13 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
子どもの数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83	2.87

## (4) 「子どもの教育」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.18点であり、基準年調査より0.08点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

##### ○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表14のとおりでした。

表 14 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.10	3.18	0.08
性別	男性	3.08	3.17	0.09
年代	20～29歳	2.92	3.19	0.27
	60～69歳	2.95	3.09	0.14
子どもの数	2人	3.14	3.24	0.10
居住年数	10年未満	2.78	3.26	0.48
	20年以上	3.10	3.16	0.06
広域振興圏	県北広域振興圏	3.07	3.27	0.20

### ② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表14のとおりであり、年代別「20～29歳」、居住年数別「10年未満」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位3位の項目は以下のとおりでした。
  - (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容
  - (イ) 学力を育む教育内容

- (ウ) 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「学力を育む教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)となっていること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性はなく、低値(3点未満)で推移している属性は表15のとおりでした。

○ 子どもはいない

「子どもはいない」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)
- (ウ) 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと
- (エ) 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (オ) 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと

表15 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
子どもの数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98	2.96

## 4.3.2 実感が低下した分野

### (1) 「余暇の充実」の実感

#### ① 分野別実感の概況

##### ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.96点であり、基準年調査より0.09点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

##### イ 属性別の状況

#### ○ 令和4年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50～59歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「常用雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

#### ○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.05	2.96	▲ 0.09
性別	女性	3.08	2.96	▲ 0.12
年代	70歳以上	3.36	3.10	▲ 0.26
職業	60歳以上の無職	3.26	3.00	▲ 0.26
世帯構成	夫婦のみ	3.24	3.07	▲ 0.17
居住年数	20年以上	3.03	2.94	▲ 0.10
広域振興圏	県央広域振興圏	3.17	2.99	▲ 0.18
	沿岸広域振興圏	3.09	2.90	▲ 0.19

#### ② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表16のとおりであり、年代別「70歳以上」、職業別「60歳以上の無職」で低下幅が大きい傾向にあります。これらの属性について、県民意識調査の生活行動時間の結果を見てみると、「60歳以上の無職」については、他の属性に比べて、自由な時間が十分に確保されている状況にあり、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、これらの属性で実感が低下した人の回答項目の上位は、「趣味・娯楽活動の場所・機会」「知人・友人との交流」となっています。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位3位の項目は、以下のとおりでした。
  - (ア) 自由な時間の確保
  - (イ) 趣味・娯楽活動の場所・機会
  - (ウ) 知人・友人との交流
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位3位の項目を比較してもを比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自由な時間が十分に確保でき

なかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

- ただし、「60歳以上の無職」の属性については、他の属性に比べて自由な時間が多い状況にあり、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」は要因とは言えないと考えます。

### ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表17のとおりです。  
なお、「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」については、基準年以降一貫して低値で推移している属性であり、これらについても同様に分析を行いました。
- これらの属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「知人・友人との交流が減ったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと」で全て同一であったことから、これらが一貫して低値で推移している要因として推測されます。

表17 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
年代	30～39歳	2.73	2.88	2.88	2.71	2.78	2.86	2.87
	40～49歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83	2.83
	50～59歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70	2.81
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86	2.84
世帯構成	2世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92	2.93
子どもの数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91	2.91	2.88
広域振興圏	県南広域振興圏※			2.99	2.95	2.92	2.90	2.97
	県北広域振興圏※			2.83	2.96	2.90	2.93	2.97

※ 基準年（H31）以降一貫して低値で推移している属性

## (2) 「地域社会とのつながり」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.10点であり、基準年調査より0.25点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和4年県民意識調査の状況

- 年代別では、「30～39歳」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「家族従業員」が高くなりました。
- 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3人」が高くなりました。
- 居住年数別では、「10年未満」が低く、「20年以上」が高くなりました。

##### ○ 令和4年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表18のとおりでした。

表 18 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.35	3.10	▲ 0.25
性別	男性	3.37	3.06	▲ 0.31
	女性	3.33	3.13	▲ 0.20
年代	40～49 歳	3.22	2.96	▲ 0.26
	50～59 歳	3.30	2.99	▲ 0.32
	60～69 歳	3.37	3.09	▲ 0.28
	70 歳以上	3.59	3.33	▲ 0.26
職業	会社役員・団体役員	3.38	3.07	▲ 0.32
	常用雇用者	3.22	2.95	▲ 0.27
	臨時雇用者	3.27	2.94	▲ 0.33
	60 歳以上の無職	3.48	3.15	▲ 0.33
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.85	▲ 0.31
	夫婦のみ	3.39	3.10	▲ 0.30
	2 世代世帯	3.34	3.12	▲ 0.23
	3 世代世帯	3.53	3.25	▲ 0.28
子どもの数	1 人	3.31	3.09	▲ 0.22
	2 人	3.45	3.18	▲ 0.26
	3 人	3.47	3.26	▲ 0.21
	子どもはいない	3.08	2.82	▲ 0.26
居住年数	10 年未満	3.04	2.67	▲ 0.38
	20 年以上	3.37	3.11	▲ 0.26
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.03	▲ 0.20
	県南広域振興圏	3.40	3.12	▲ 0.28
	沿岸広域振興圏	3.43	3.13	▲ 0.31
	県北広域振興圏	3.33	3.13	▲ 0.20

## ② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 18 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
  - (ア) 隣近所との面識・交流
  - (イ) 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
  - (ウ) その地域で過ごした年数
 なお、「その地域で過ごした年数」については、居住年数が「10 年未満」と「20 年以上」の属性で実感が低下している状況にあります。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「隣近所との面識・交流が減ったこと」「自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと」「その地域で過ごした年数が影響していること※」であると推測されます。



- ・ なお、当該分野については、平成 31 年調査以降、継続して実感が低下しており、特に、沿岸地域は、他の広域振興圏に比べて、実感の低下幅が大きい状況にあることから、東日本大震災津波による災害公営住宅等の新しいコミュニティの形成などの取組などに注視していく必要があると考えます。

### ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでしたが、基準年（平成 31 年）から令和 4 年までの県民意識調査で、低値（3 点未満）で推移している属性は、表 19 のとおりでした。

#### ○ 20～29 歳

「20～29 歳」の属性を有し、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位 3 位の項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) その地域で過ごした年数が影響していること※
- (イ) 隣近所との面識・交流が少ないこと
- (ウ) 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと

表 19 「地域社会とのつながり」の実感において低値で推移している属性

属性		H31	R 2	R 3	R 4
年代	20～29 歳	2.95	2.83	2.77	2.86

※ 実感に関連する要因として「その地域で過ごした年数」との回答が多く、居住年数が 10 年未満及び 20 年以上の属性で実感の低下がみられたため、このような表現としています。

## (3) 「地域の安全」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.72 点であり、基準年調査より 0.10 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。

##### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 20 のとおりでした。

表 20 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		3.82	3.72	▲ 0.10
性別	男性	3.84	3.75	▲ 0.09
	女性	3.80	3.70	▲ 0.11
年代	60～69 歳	3.80	3.69	▲ 0.10
	70 歳以上	3.91	3.73	▲ 0.17
職業	60 歳以上の無職	3.86	3.64	▲ 0.21

世帯構成	夫婦のみ	3.86	3.69	▲ 0.17
	3世代世帯	3.89	3.73	▲ 0.17
子どもの数	1人	3.80	3.66	▲ 0.15
	2人	3.85	3.73	▲ 0.12
居住年数	20年以上	3.83	3.72	▲ 0.11
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.76	▲ 0.11
	沿岸広域振興圏	3.82	3.67	▲ 0.15

## ② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 20 のとおりであり、年代別「70 歳以上」、職業別「60 歳以上の無職」、世帯構成別「夫婦のみ」、「3 世代世帯」、子どもの数別「1 人」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。特に、沿岸広域振興圏については、他の圏域に比べて継続的に実感が低い傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
  - (ア) 自然災害の発生状況
  - (イ) 自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）
  - (ウ) 犯罪の発生状況
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較すると、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）」において、実感が横ばい、上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で顕著に回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」「自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと」「犯罪の発生状況に不安があること」「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」であると推測されます。

## ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (4) 「仕事のやりがい」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.41 点であり、基準年調査より 0.12 点低下しています。

t 検定を行った結果、昨年調査結果に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感には低下していると考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。

##### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 21 のとおりでした。

表 21 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
県計		3.54	3.41	▲ 0.12
性別	男性	3.53	3.42	▲ 0.11
	女性	3.54	3.41	▲ 0.13
年代	20～29 歳	3.49	3.18	▲ 0.32
	70 歳以上	3.72	3.45	▲ 0.28
職業	臨時雇用者	3.53	3.31	▲ 0.22
	60 歳以上の無職	3.32	3.09	▲ 0.23
世帯構成	ひとり暮らし	3.51	3.20	▲ 0.31
	3 世代世帯	3.60	3.44	▲ 0.16
子どもの数	3 人	3.74	3.54	▲ 0.20
居住年数	20 年以上	3.53	3.41	▲ 0.13
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.57	3.35	▲ 0.22

## ② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 21 のとおりであり、年代別「20～29 歳」、「70 歳以上」、職業別「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、世帯構成別「ひとり暮らし」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
  - (ア) 現在の収入・給料の額
  - (イ) 現在の職種・業務の内容
  - (ウ) 将来の収入・給料の額の見込み
  - (エ) 職場の人間関係
- ・ 補足調査結果の結果において、仕事をしている属性に限定して実感の変動と「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の回答を整理した結果、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
  - (ア) 現在の職種・業務の内容
  - (イ) 現在の収入・給料の額
  - (ウ) 就業形態（正規・非正規など）
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでしたが、仕事をしている属性に限定した整理において、実感が低下した人と、横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較すると、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）」において、実感が横ばい、上昇した人の回答が少ない一方で、実感が低下した人で顕著に回答が多いことから、当該理由も実感が低下した要因の一つと推測されます。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと」、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」、「職場の人間関係が良好とは言えないこと」、「就業形態（正規・非正規など）に不満があること」、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(5) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 2.57 点であり、基準年調査より 0.07 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 22 のとおりでした。

表 22 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R 4-H31 (対基準年差)
県計		2.65	2.57	▲ 0.07
性別	男性	2.68	2.55	▲ 0.12
年代	70 歳以上	2.75	2.61	▲ 0.14
職業	自営業主	2.86	2.62	▲ 0.23
	臨時雇用者	2.56	2.38	▲ 0.18
子どもの数	2 人	2.71	2.58	▲ 0.12
居住年数	10～20 年未満	2.48	2.93	0.45
	20 年以上	2.66	2.56	▲ 0.11
広域振興圏	沿岸広域振興圏	2.71	2.53	▲ 0.18

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 22 のとおりであり、職業別「自営業主」、「臨時雇用者」、広域振興圏別「沿岸広域振興圏」で低下幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が低下した人が選択した上位 3 位の項目は以下のとおりでした。
  - (ア) 自分の収入・所得額(年金を含む)
  - (イ) 生活の程度
  - (ウ) 家族の収入・所得額(年金を含む)
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人と、実感が横ばい又は上昇した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の上位 3 位の項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自分の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」、「生活の程度が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと」であると推測されます。
- ・ なお、補足調査の結果から、可処分所得と実感についてクロス集計を行った結果、調査を開始した令和 2 年以降、可処分所得が 300 万円未満である属性においては実

感平均値が一貫して低値（3点未満）で推移し、300万円以上500万円未満の属性から実感平均値が3点を超えていくことが分かりました。

### ③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成28年から令和4年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表23のとおりでした。
- ほぼ全ての属性において一貫して低値で推移していることから、補足調査において、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人が選択した上位3位の項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多いこと」が一貫して低値で推移している要因として推測されます。

表23 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75	2.55
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79	2.59
年代	20～29歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68	2.40
	30～39歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71	2.50
	40～49歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82	2.62
	50～59歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75	2.58
	60～69歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77	2.54
	70歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80	2.61
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86	2.62
	家族従業者	2.61	2.85	2.42	2.91	2.73	2.81	2.78
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86	2.67
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65	2.38
	学生＋その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94	2.80
	専業主婦（主夫）	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89	2.61
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42	2.41
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75	2.49
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92	2.63
	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.71	2.56
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.82	2.62
子どもの数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78	2.61
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86	2.58
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83	2.67
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86	2.56
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59	2.46
居住年数	10年未満	2.78	2.74	2.71	2.55	2.92	2.99	2.84
	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75	2.56
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87	2.63
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70	2.54
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76	2.53
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76	2.60

### 4.3.3 実感が横ばいの分野

#### (1) 「住まいの快適さ」の実感

##### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.31 点であり、基準年調査より 0.03 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### イ 属性別の状況

###### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「60 歳代」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「2 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子どもの数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

###### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 24 のとおりでした。

表 24 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	20～29 歳	3.20	3.48	0.27

##### ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

#### (2) 「歴史・文化への誇り」の実感

##### ① 分野別実感の概況

###### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.27 点であり、基準年調査より 0.01 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

###### イ 属性別の状況

###### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。

###### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 25 のとおりでした。

表 25 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	70 歳以上	3.42	3.25	▲0.17
職業	常用雇用者	3.21	3.31	0.11

## ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

## (3) 「自然のゆたかさ」の実感

### ① 分野別実感の概況

#### ア 分野別実感の推移

実感平均値は 4.23 点であり、基準年調査より 0.02 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

#### イ 属性別の状況

##### ○ 令和 4 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「70 歳以上」が低く、「30 歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「学生＋その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県北広域振興圏」が高くなりました。

##### ○ 令和 4 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は、表 26 のとおりでした。

表 26 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 4	R4-H31 (対基準年差)
年代	30～39 歳	4.22	4.37	0.16
子どもの数	子どもはいない	4.14	4.28	0.13

## ② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 4 年までの県民意識調査で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性はなく、高値（4 点以上）で推移している属性は表 27 のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移していることから、補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位 3 位の項目から、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」、「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」が一貫して高値で推移している要因として推測されます（P10 表 3 参照）。

表 27 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16	4.20
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20	4.25
年代	20～29 歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21	4.37
	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24	4.37
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22	4.36
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24	4.27
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19	4.19
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08	4.10
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19	4.32
	家族従業者	4.50	4.31	4.12	4.33	4.15	4.28
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30	4.32
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24	4.31
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16	4.23
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34	4.38
	専業主婦（主夫）	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21	4.19
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07	4.02
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07	4.09
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21	4.18
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16	4.29
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29	4.30
子どもの数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24	4.23
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19	4.20
	3 人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18	4.28
	4 人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18	4.23
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18	4.28
居住年数	10 年未満	4.16	4.22	4.20	4.46	4.24	4.38
	10～20 年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35	4.24
	20 年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17	4.23
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16	4.23
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15	4.17
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21	4.24
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22	4.31



## 第5章 まとめ

### 5.1 主観的幸福感について

令和4年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.51点（基準年調査：3.43点）となり、基準年より0.08点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「50～59歳」、職業別では「自営業主」、「常用雇用者」、世帯構成では「その他世帯」、子どもの数別では「3人」、「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視していることが分かりました。

### 5.2 分野別実感について

分野別の実感について、「感じる」から「感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、分野別実感の平均値は、基準年調査と比較して、4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下となりました。

#### 5.2.1 実感が上昇した分野

##### (1) 「心身の健康」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.20点上昇して3.20点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」、「60～69歳」、「70歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ」、「2世代世帯」、「3世代世帯」、子どもの数別では、「1人」、「2人」、「3人」、「4人以上」、「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「こころの健康状態が良かったこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」「からだの健康状態が良かったこと」「仕事・学業におけるストレスが少なかったこと」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが少なかったこと」であると推測されます。

##### (2) 「家族関係」の実感

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点上昇して3.91点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別で「女性」、年代別で「40～49歳」、職業別で「会社役員・団体役員」、「学生+その他」、世帯構成別「2世代世帯」、子どもの数別では「3人」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「会話の頻度が多いこと」、

「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」、「困った時に助け合えていること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して高値で推移している属性は、「夫婦のみ世帯」であり、その要因は補足調査の結果より、分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

### (3) 「子育て」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.08 点上昇して 3.16 点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「20～29 歳」、職業別では「会社役員・団体役員」、「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、子どもの数別では「1 人」、「子どもはいない」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること」、「子どもを預けられる場所（保育所など）があること」、「配偶者が家事に参加していること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、子どもの数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (イ) 子どもの教育にかかる費用が高いこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと
- (エ) 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること

### (4) 「子どもの教育」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.08 点上昇して 3.18 点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、年代別では「20～29 歳」、「60～69 歳」、子どもの数別では「2 人」、居住年数別では「10 年未満」、「20 年以上」、広域振興圏別では「県北広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「学力を育む教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）となっていること」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、子どもの数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
- (ウ) 学力を育む教育内容不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (エ) 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと
- (オ) 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと

## 5.2.2 実感が低下した分野

### (1) 「余暇の充実」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.09 点低下して 2.96 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「女性」、年代別では「70 歳以上」、職業別では「60 歳以上の無職」、居住年数別では「20 年以上」、広域振興圏別では「県中央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

平成 28 年から一貫して低値で推移している属性は、年代別では「30～39 歳」、「40～49 歳」、「50～59 歳」、職業別では「常用雇用者」、世帯構成別では「2 世代世帯」、子どもの数別で見ると、「子どもはいない」であり、平成 31 年から一貫して低値で推移している属性は、広域振興圏別では「県南広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、その要因は補足調査の結果より、該当する全ての属性において分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

## (2) 「地域社会とのつながり」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.25 点低下して 3.10 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「40～49 歳」、「50～59 歳」、「60～69 歳」、「70 歳以上」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、世帯構成別では「ひとり暮らし」、「夫婦のみ世帯」、「2 世代世帯」、「3 世代世帯」、子どもの数別では「1 人」、「2 人」、「3 人」、「子どもはいない」、居住年数別では「10 年未満」、「20 年以上」、広域振興圏別では「県中央広域振興圏」、「県南広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「隣近所との面識・交流が減ったこと」「自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が減ったこと」「その地域で過ごした年数が影響していること」であると推測されます。

平成 31 年調査から一貫して低値で推移している属性は、年代別では「20～29 歳」であり、その要因は分野別実感が低下した要因と同じであると推測されます。

## (3) 「地域の安全」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.10 点低下して 3.72 点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「60～69 歳」、「70 歳以上」、職業別では「60 歳以上の無職」、世帯構成別では「夫婦のみ世帯」、「3 世代世帯」、子どもの数別では「1 人」、「2 人」、居住年数別では「20 年以上」、広域振興圏別では「県中央広域振興圏」、「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」「自然災害に対する予防（堤防の建設、避難経路の確保など）が十分とは言えないこと」「犯罪の発生状況に不安があること」「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）に不安があること」であると推測されます。

## (4) 「仕事のやりがい」の実感

令和 4 年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より 0.12 点低下して 3.41 点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「20～29 歳」、「70 歳以上」、職業別では「臨時雇用者」、「60 歳以上の無職」、子どもの数別では「3 人」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「現在の収入・給料の額

が十分とは言えないこと」、「現在の職種・業務の内容に不満があること」、「将来の収入・給料の額の見込みに不安があること」、「就業形態（正規・非正規など）に不満があること」、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

#### **(5) 「必要な収入や所得」の実感**

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点低下して2.57点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、居住年数別では「10～20年未満」であり、低下した属性は、性別では「男性」、年代別では「70歳以上」、職業別では「自営業主」、「臨時雇用者」、子どもの数別では「2人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」でした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「生活の程度が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、「会社役員・団体役員及び居住年数10～20年未満を除くすべての属性」であり、その要因としては、補足調査結果において、当該分野別実感において「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金の額）が十分とは言えないこと」、「自分の支出額が多いこと」と推測されます。

### **5.2.3 実感が横ばいの分野**

#### **(1) 「住まいの快適さ」の実感**

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.03点低下して3.31点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して、上昇した属性は、年代別では「20～29歳」であり、低下した属性はありませんでした。

#### **(2) 「歴史・文化への誇り」の実感**

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.01点低下して3.27点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、職業別で「常用雇用者」であり、低下した属性は、年代別で「70歳以上」でした。

#### **(3) 「自然のゆたかさ」の実感**

令和4年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.02点低下して4.23点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別で「30～39歳」、子どもの数別で「子どもはいない」であり、低下した属性はありませんでした。

一貫して高値で推移している属性は全属性であり、その要因は、補足調査において、当該分野別実感の「感じる・やや感じる」と回答した人の回答項目から、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」、「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」と推測されます。



## 【追加分析 1】

### 県民の幸福感の推移に係る分析

県では、政策推進プランにより、県民計画の長期ビジョン第5章に掲げる、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくための取組を推進しており、そうした取組の進捗状況を把握するため、県内在住の5,000人を対象として毎年1月に実施している県民意識調査により、幸福に関する実感について平成28年から把握しています。

幸福に関する実感である主観的幸福感とは、その調査において「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢で把握しており、分析に当たっては、その選択肢に応じて5点から1点を配点することで算出される平均値により、推移を把握してきました。

また、主観的幸福感に関連する12の幸福領域に関する実感（分野別実感）についても、同様に把握を行ってきました。

そこで、第2期アクションプランの策定に当たり、これらの幸福に関する実感の推移について、調査開始から政策推進プランが始まる直前である平成31年までの4年間と、政策推進プランの期間中の状況に係る分析を行い、その推移を整理しました。

## 1 分析対象

### (1) 県民意識調査の概要

- ① 調査名称 県の施策に関する県民意識調査
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女  
(平成28年までは20歳以上、平成29年からは18歳以上)
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑦ 調査時期 毎年1～2月
- ⑧ 回収率 H28年 71.5% (3,576/5,000人)、H29年 68.4% (3,422/5,000人)  
H30年 65.2% (3,260/5,000人)、H31年 66.5% (3,327/5,000人)  
R2年 67.7% (3,387/5,000人)、R3年 71.0% (3,549/5,000人)  
R4年 66.5% (3,324/5,000人)

※ 県民意識調査では、幸福に関連する各種実感を平成28年調査から把握している。

### (2) 設問項目の概要

#### ① 主観的幸福感

##### ア 設問

「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか」

##### イ 選択肢

「幸福だと感じている」、「やや幸福だと感じている」、「どちらともいえない」、「あまり幸福だと感じていない」、「幸福だと感じていない」、「わからない」

② 幸福に関連する分野の実感

ア 設問

政策分野	分野別実感	設問
Ⅰ 健康・余暇	心身の健康	こころやからだ健康だと感じますか
	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか
Ⅱ 家族・子育て	家族関係	家族と良い関係が取れていると感じますか
	子育て	子育てがしやすいと感じますか
Ⅲ 教育	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか
	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか
Ⅴ 安全	地域の安全	お住まいの地域が安全だと感じますか
Ⅵ 仕事・収入	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか
	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか
Ⅶ 歴史・文化	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか
Ⅷ 自然環境	自然のゆたかさ	自然に恵まれていると感じますか

イ 選択肢

「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」、「わからない」



## 2 分析方針

県民意識調査で把握している県民の幸福に関連する様々な実感について、新たなアクションプラン策定の検討の参考とすることを目的に、主観的幸福感と分野別実感を、以下の視点、方法で整理しました。

### 【県民意識調査の分析方針】

#### 1 分析の視点

##### (1) 調査結果の時系列分析

県民意識の変化の状況を把握するため、政策推進プランが始まる直前まで（平成28年～平成31年）と政策推進プラン中（平成31年～令和4年）の調査結果の時系列変化の有無を分析

#### 2 分析データ

以下のとおり、当分析部会の分析データと公表データは処理方法が異なるため、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

##### (1) 単純集計を採用

別途公表している県民意識調査結果（以下「公表データ」という。）は、回答者数の地域差を考慮し、各回答に居住人口に応じた係数を乗じて集計（以下「母集団拡大集計」という。）していますが、分析を適切に行うため、母集団拡大集計は行わず、単純集計結果を用いました。

##### (2) 「わからない」、「未回答」を除外して集計

公表データは、「わからない」、「未回答」（以下「未回答等」という。）を含めて集計していますが、調査年によって未回答等の回答割合が大きく変動している設問があることから、適切な時系列分析のため、未回答等を除外して集計しました。

##### (3) 回答結果に1点から5点を配点して集計

公表データは、「感じる」と「やや感じる」の回答者を足し合わせた割合を使用していますが、5段階評価の回答結果を適切に分析に反映させるため、回答結果に以下のとおり配点した結果の平均値を使用しました。

(配点)

・感じている（幸福である）	5点	・あまり感じない（あまり幸福ではない）	2点
・やや感じている（やや幸福）	4点	・感じない（幸福ではない）	1点
・どちらでもない	3点		

#### 3 分析方法

##### (1) 計画期間前・計画期間中のトレンドの変化は、t検定を用いた多重比較で検証

計画期間前・計画期間中のトレンドの変化については、これらの期間についてt検定を行い、重複するものを除く6個の検定（計画期間前にあつては、H29-H28、H30-H29、H31-H30、H30-H28、H31-H28、H31-H29、計画期間中にあつては、R2-H31、R3-R2、R4-R3、R3-H31、R4-H31、R4-R2）の有意確率を調整して、有意な差があると判断したものから、計画期間中のトレンドの変化を検証しました。

分析の手順は以下のとおりです。

- ・ 今回は6個の検定を行うにあたり、6個の有意確率を小さい順に並べる。
- ・ 有意確率が*i*番目に小さい検定に対しての有意水準を0.05（有意水準）/ $(6-i+1)$ とする。

$$0.05 \text{ (有意水準)} / 6 = 0.008333$$

$$0.05 \text{ (有意水準)} / 5 = 0.01$$

0.05 (有意水準) /4=0.0125  
0.05 (有意水準) /3=0.016667  
0.05 (有意水準) /2=0.025  
0.05 (有意水準) /1=0.05

- ・ 有意確率が小さい順番から上記の有意水準で検定を行う。

なお、有意確率を調整しているのは、比較対象が3群以上存在し、帰無仮説<sup>※1</sup>が複数個になると、有意水準<sup>※2</sup>が5%よりも大きくなってしまいう問題が発生するためです。

例えば、実感平均値の差の検定として、H31、R2、R3の2標本t検定を行った場合、本来は5%の有意水準で検定されるものが、実質は9.8% ( $1-0.95^2=0.098$ ) となってしまう、適切な検定を行うことができなくなるということが起こります。

そこで、検定を行うに当たっては、このようなことが起こらないように有意水準を調節する必要があります。

今回は、計画期間前及び計画期間中において、それぞれ前年比較、基準年比較、2年比較による6つの検定について基本的に分析を行います。(自然のゆたかさは基準年が異なるため、期間前は3つの検定で行っています。)

その場合の有意水準の調節は以下のとおりとなります。

- ※1 ある仮説が正しいかどうかの判断のために建てられる仮説。

例えば、H31-R2のt検定については、H31の実感平均値とR2の実感平均値には差がないという仮説を立てた場合、t検定を行った結果、有意確率が有意水準以下であれば、仮説が棄却され、H31の実感平均値とR2の実感平均値には差があったこととなります。

- ※2 ある仮説を棄却するかしないかを定める基準であり、一般的に有意水準5%を用います。

## (2) 計画期間中における実感の推移や変化の要因推測

令和2年から実施している県民意識調査の変動要因を推測するために行っている補足調査の結果から、平成31年から令和4年の間が上昇又は低下の傾向にある場合について、本部会でこれまでに行った分析結果から推測された実感の変動要因を引用しました。

### 3 分析結果

#### 3.1 主観的幸福感の推移

主観的幸福感の実感平均値の推移は以下のとおりです。

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の主観的幸福感の平均値は、5 点満点中 3.44 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における主観的幸福感は、概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

政策推進プランが始まる直前である平成 31 年の主観的幸福感の平均値は 3.43 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 3 年、令和 4 年を比較すると、有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における主観的幸福感は、上昇傾向にあると考えられます。

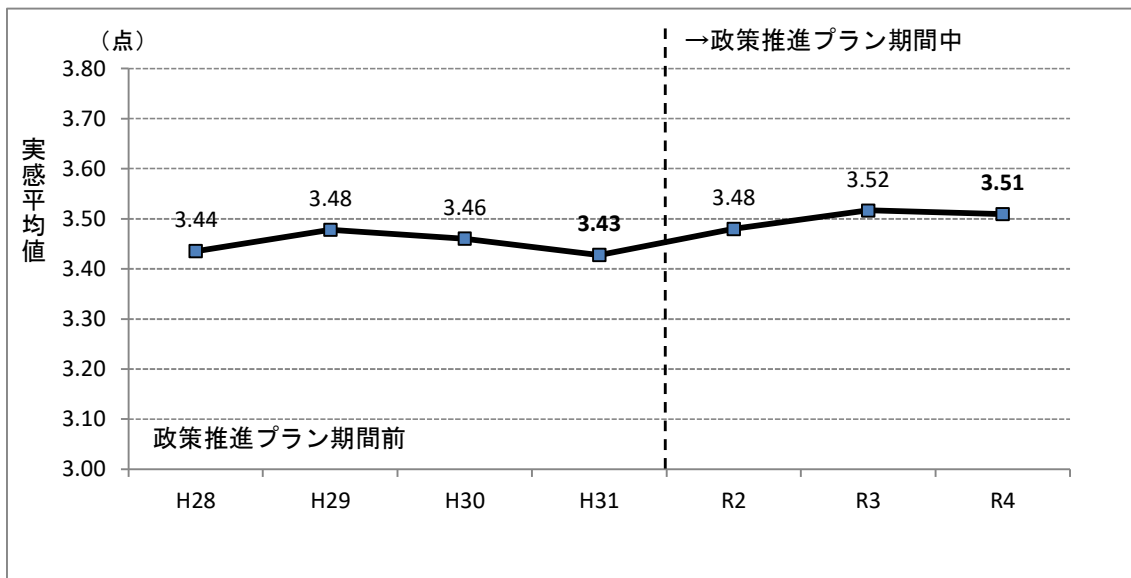


図 1 主観的幸福感に係る実感の平均値の推移

また、「幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）」と回答した人と「幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合を見ると、「幸福と感じる」と回答した人は、平成 28 年の 51.3%から平成 30 年には 55.4%まで増加しましたが、平成 31 年には 52.3%に低下しました。しかし、令和 2 年には 56.2%に増加し、令和 4 年には 56.6%となっています。

このような結果から、令和 4 年の「幸福と感じる」と回答した人の割合は、調査を始めた平成 28 年及び政策推進プランが始まる直前の平成 31 年と比べて、増加しています。（図 2 参照）

一方で、「幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合は、平成 28 年の 18.3%から平成 30 年までは概ね横ばいに推移していましたが、平成 31 年に 19.3%に増加しました。以降、令和 3 年（16.1%）までは減少傾向にありましたが、令和 4 年には再度上昇に転じ、17.8%となっています。

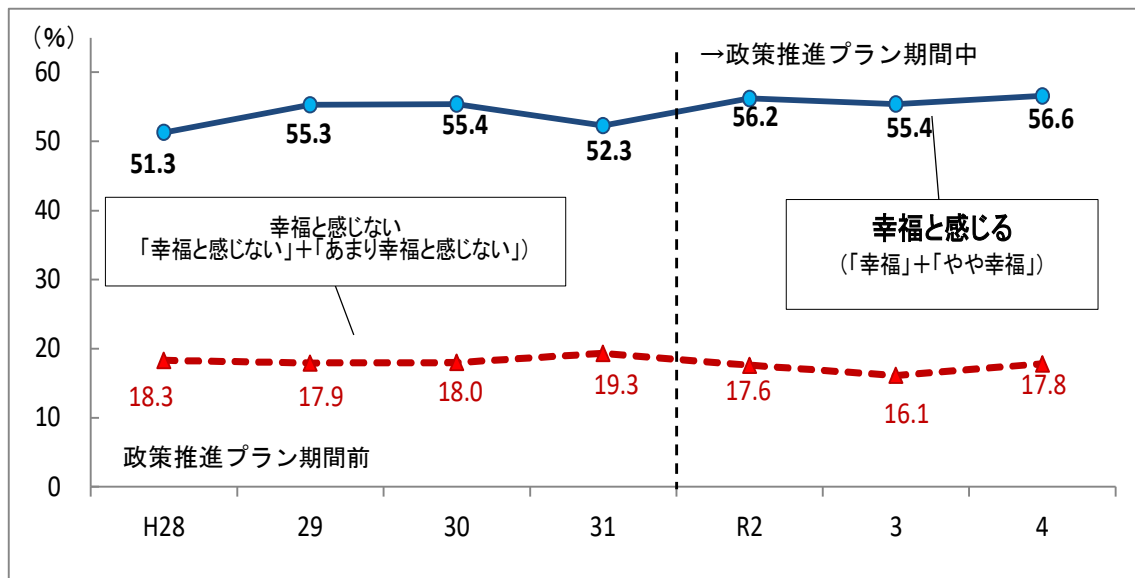


図2 主観的幸福感に係る実感の割合の推移

また、幸福を判断する際に重視した項目に係る順位の推移を見てみると、一貫して「健康の状況」と「家族関係」が上位を占めており、上位5位までの状況を見ても多少の入れ替わりはあるものの、同じ内容で推移しています。

表α 県民意識調査における幸福を判断する際に重視した事項に係る順位の推移（上位5位）

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年
1位	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況	健康の状況
2位	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家計の状況	家計の状況	家計の状況	居住環境	自由な時間・充実した余暇	居住環境
4位	居住環境	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	自由な時間・充実した余暇	居住環境	自由な時間・充実した余暇
5位	自由な時間・充実した余暇	居住環境	居住環境	居住環境	家計の状況	家計の状況	家計の状況

### 3.2 分野別実感の分析結果

主観的幸福感に関連する領域である 12 の分野別実感の動向については、次のとおりです。

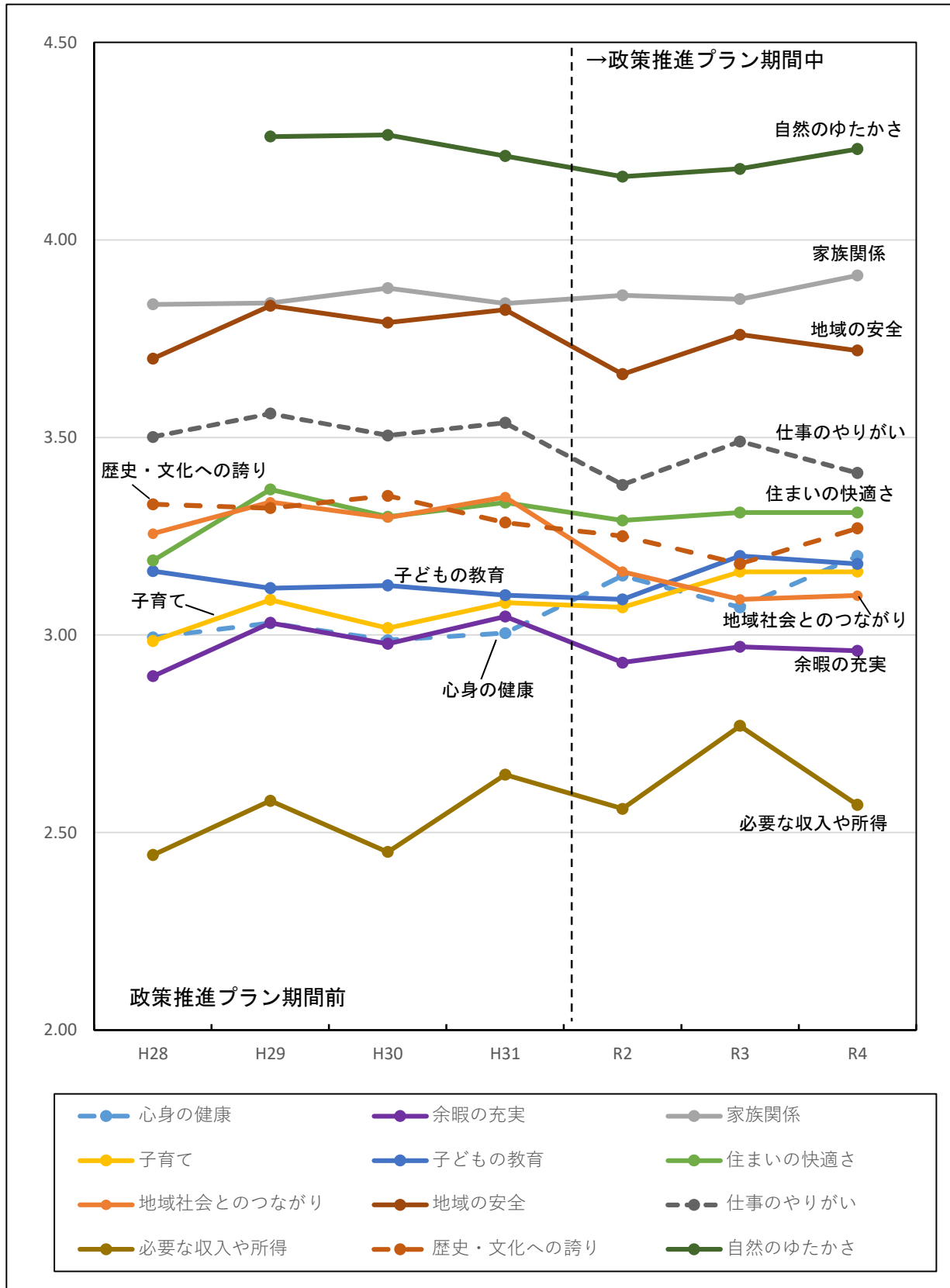


図3 分野別実感平均値の推移

### (1) I 健康・余暇分野「心身の健康」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 2.99 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.00 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 3 年、令和 4 年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和 2 年と令和 3 年を比較すると有意に低下し、令和 3 年から令和 4 年で有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあると考えられます。

また、実感が上昇した要因としては、補足調査の結果等から、睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良くなっていることなどが考えられます。

### (2) I 健康・余暇分野「余暇の充実」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 2.90 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 30 年、平成 31 年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあったと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.05 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 3 年、令和 4 年をそれぞれ比較すると全て有意に低下し、それ以外に有意な変化は見られませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、低下傾向にあると考えられます。

また、実感が低下した要因としては、補足調査の結果から、知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少などが考えられます。

### (3) II 家族・子育て分野「家族関係」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.84 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.84 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していると考えられます。

#### (4) II 家族・子育て分野「子育て」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 2.98 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 31 年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあったと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.08 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 3 年、令和 4 年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和 2 年と令和 3 年、令和 2 年と令和 4 年を比較すると有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあると考えられます。

また、上昇した要因としては、補足調査の結果等から、子どもを預けられる人・場所があるなどが考えられます。

#### (5) III 教育分野「子どもの教育」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.16 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.10 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 3 年、令和 4 年をそれぞれ比較すると全て有意に上昇し、令和 2 年と令和 3 年、令和 4 年を比較すると有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は上昇傾向にあると考えられます。

また、上昇した要因としては、補足調査の結果等から、人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実などが考えられます。

#### (6) IV 居住環境・コミュニティ分野「住まいの快適さ」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.19 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 30 年、平成 31 年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は上昇傾向にあったと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.34 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいで推移していたと考えられます。

#### (7) IV 居住環境・コミュニティ分野「地域社会とのつながり」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.26 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 31 年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあったと考えられます。

<政策推進プラン期間中の状況>

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.35 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 3 年、令和 4 年を比較すると全て有意に低下し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、低下傾向にあると考えられます。

また、低下した要因としては、補足調査の結果等から、隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少などが考えられます。

## (8) V 安全分野「地域の安全」の実感

<政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況>

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.70 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 30 年、平成 31 年を比較すると全て有意に上昇し、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、上昇傾向にあったと考えられます。

<政策推進プラン期間中の状況>

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.82 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 3 年、令和 4 年と比較すると全て有意に低下し、令和 2 年と令和 3 年、令和 4 年を比較すると、どちらも有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は、低下傾向にあると考えられます。

また、低下した要因としては、補足調査の結果等から、自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていることなどが考えられます。

## (9) VI 仕事・収入分野「仕事のやりがい」の実感

<政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況>

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.50 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は概ね横ばいに推移していたと考えられます。

<政策推進プラン期間中の状況>

平成 31 年の実感平均値は、5 点満点中 3.54 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 4 年を比較すると、どちらも有意に低下し、令和 2 年と令和 3 年を比較すると有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は、低下傾向にあると考えられます。

また、低下した要因としては、補足調査の結果から、現在の収入や給料の額が十分とは言えないなどが考えられます。

## (10) VI 仕事・収入分野「必要な収入や所得」の実感



＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 2.44 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 28 年と平成 29 年、平成 31 年を比較すると、どちらも有意に上昇し、平成 29 年と平成 30 年を比較すると有意に低下し、平成 30 年と平成 31 年を比較すると有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は上昇と低下を繰り返していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は 5 点満点中 2.65 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 2 年、令和 3 年を比較すると、令和 2 年では有意に低下し、令和 3 年で有意に上昇していました。令和 2 年と令和 3 年を比較すると有意に上昇し、令和 3 年と令和 4 年を比較すると有意に低下していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は上昇と低下を繰り返していると考えられます。

その要因としては、令和 2 年から令和 3 年の間の上昇については、新型コロナウイルス感染症の影響に係る定額給付金等の影響が考えられ、その後の低下については、補足調査の結果等から、自分の収入・所得額が十分とは言えないことなどが考えられます。

#### (11) Ⅷ歴史・文化分野「歴史・文化への誇り」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 28 年の実感平均値は、5 点満点中 3.33 点であり、多重比較による検定を行った結果、有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は 5 点満点中 3.28 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 31 年と令和 3 年を比較すると有意に低下し、令和 2 年と令和 3 年を比較すると新型コロナウイルス感染症の影響等により有意に低下し、令和 3 年と令和 4 年を比較すると有意に上昇していました。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいで推移していると考えられます。

#### (12) Ⅷ自然環境分野「自然のゆたかさ」の実感

＜政策推進プランが始まる直前（平成 31 年）までの状況＞

平成 29 年の実感平均値は、5 点満点中 4.26 点であり、多重比較による検定を行った結果、平成 29 年と平成 31 年を比較すると有意に低下していましたが、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していたと考えられます。

＜政策推進プラン期間中の状況＞

平成 31 年の実感平均値は 5 点満点中 4.21 点であり、多重比較による検定を行った結果、令和 2 年と令和 4 年を比較すると有意に上昇していましたが、それ以外に有意な変化は確認されませんでした。

このことから、この期間における当該分野別実感は、概ね横ばいに推移していると考えられます。

表β 「県民意識調査」分野別実感の推移

政策分野	分野別実感	平均値の推移						
		H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
	主観的幸福感	3.44	3.48	3.46	3.43	3.48	3.52	3.51
Ⅰ健康・余暇	(1) 心身の健康	2.99	3.03	2.99	3.00	3.15	3.07	3.20
	(2) 余暇の充実	2.90	3.03	2.98	3.05	2.93	2.97	2.96
Ⅱ家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.84	3.88	3.84	3.86	3.85	3.91
	(4) 子育て	2.98	3.09	3.02	3.08	3.07	3.16	3.16
Ⅲ教育	(5) 子どもの教育	3.16	3.12	3.13	3.10	3.09	3.20	3.18
Ⅳ居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.19	3.37	3.30	3.34	3.29	3.31	3.31
	(7) 地域社会とのつながり	3.26	3.34	3.30	3.35	3.16	3.09	3.10
Ⅴ安全	(8) 地域の安全	3.70	3.83	3.79	3.82	3.66	3.76	3.72
Ⅵ仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.50	3.56	3.51	3.54	3.38	3.49	3.41
	(10) 必要な収入や所得	2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77	2.57
Ⅶ歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.33	3.32	3.35	3.28	3.25	3.18	3.27
Ⅷ自然環境	(12) 自然のゆたかさ		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18	4.23

表 δ-1-1 主観的幸福感の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H29	▲ 0.05	0.07	0.0083333
H29-H28	0.04	0.11	0.01
H31-H30	▲ 0.03	0.24	0.0125
H30-H28	0.02	0.36	0.0166667
H30-H29	▲ 0.02	0.51	0.025
H31-H28	▲ 0.01	0.77	0.05

表 δ-1-2 主観的幸福感の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	0.09	0.0010	0.0083333
R4-H31	0.08	0.0031	0.01
R2-H31	0.05	0.0607	0.0125
R3-R2	0.04	0.1561	0.0166667
R4-R2	0.03	0.2650	0.025
R4-R3	▲ 0.01	0.7777	0.05

表 δ-2-1 「心身の健康」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H30-H29	▲ 0.04	0.1599	0.0083333
H29-H28	0.04	0.2333	0.01
H31-H29	▲ 0.03	0.4083	0.0125
H31-H30	0.02	0.5716	0.0166667
H31-H28	0.01	0.7266	0.025
H30-H28	▲ 0.01	0.8251	0.05

表 δ-2-2 「心身の健康」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-H31	0.20	0.0000	0.0083333
R2-H31	0.15	0.0000	0.01
R4-R3	0.13	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.08	0.0093	0.0166667
R3-H31	0.07	0.0236	0.025
R4-R2	0.05	0.0932	0.05

δ-3-1 「余暇の充実」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.15	0.00000	0.0083333
H29-H28	0.14	0.00001	0.01
H30-H28	0.08	0.00730	0.0125
H31-H30	0.07	0.02350	0.0166667
H31-H29	0.02	0.59077	0.025
H30-H29	▲ 0.05	0.07816	0.05

表 δ-3-2 「余暇の充実」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.12	0.0001	0.0083333
R4-H31	▲ 0.09	0.0026	0.01
R3-H31	▲ 0.08	0.0083	0.0125
R3-R2	0.04	0.2223	0.0166667
R4-R2	0.02	0.4112	0.025
R4-R3	▲ 0.01	0.6951	0.05

δ-4-1 「家族関係」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H30-H28	0.04	0.134	0.0083333
H31-H30	▲ 0.04	0.161	0.01
H30-H29	0.04	0.162	0.0125
H29-H28	0.00	0.895	0.0166667
H31-H28	0.00	0.926	0.025
H31-H29	▲ 0.00	0.970	0.05

表 δ-4-2 「家族関係」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-H31	0.07	0.0148	0.0083333
R4-R3	0.06	0.0344	0.01
R4-R2	0.04	0.1022	0.0125
R2-H31	0.02	0.4024	0.0166667
R3-R2	▲ 0.01	0.6386	0.025
R3-H31	0.01	0.7015	0.05

表 δ-5-1 「子育て」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.10	0.001	0.0083333
H31-H28	0.10	0.003	0.01
H30-H29	▲ 0.07	0.021	0.0125
H31-H30	0.06	0.048	0.0166667
H30-H28	0.03	0.294	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.822	0.05

表 δ-5-2 「子育て」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.09	0.0024	0.0083333
R4-R2	0.09	0.0027	0.01
R3-H31	0.08	0.0110	0.0125
R4-H31	0.08	0.0132	0.0166667
R2-H31	▲ 0.01	0.7349	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.8942	0.05

表 δ-6-1 「子どもの教育」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	▲ 0.06	0.03	0.0083333
H29-H28	▲ 0.04	0.11	0.01
H30-H28	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.01	0.80	0.0166667
H31-H30	▲ 0.02	0.40	0.025
H31-H29	▲ 0.02	0.54	0.05

表 δ-6-2 「子どもの教育」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.11	0.0002	0.0083333
R3-H31	0.10	0.0006	0.01
R4-R2	0.09	0.0020	0.0125
R4-H31	0.08	0.0059	0.0166667
R4-R3	▲ 0.02	0.4880	0.025
R2-H31	▲ 0.01	0.7789	0.05

表 δ-7-1 「住まいの快適さ」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.18	0.000000	0.0083333
H31-H28	0.15	0.000001	0.01
H30-H28	0.11	0.000222	0.0125
H30-H29	▲ 0.07	0.018134	0.0166667
H31-H30	0.04	0.230452	0.025
H31-H29	▲ 0.03	0.245229	0.05

表 δ-7-2 「住まいの快適さ」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.04	0.18	0.0083333
R4-H31	▲ 0.03	0.36	0.01
R3-H31	▲ 0.02	0.42	0.0125
R3-R2	0.02	0.57	0.0166667
R4-R2	0.01	0.67	0.025
R4-R3	▲ 0.00	0.90	0.05

表 δ-8-1 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.09	0.001	0.0083333
H29-H28	0.08	0.004	0.01
H31-H30	0.05	0.065	0.0125
H30-H28	0.04	0.145	0.0166667
H30-H29	▲ 0.04	0.159	0.025
H31-H29	0.01	0.637	0.05

表 δ-8-2 「地域社会とのつながり」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	▲ 0.25	0.0000	0.0083333
R4-H31	▲ 0.25	0.0000	0.01
R2-H31	▲ 0.19	0.0000	0.0125
R3-R2	▲ 0.06	0.0282	0.0166667
R4-R2	▲ 0.06	0.0399	0.025
R4-R3	0.00	0.9065	0.05

表 δ-9-1 「地域の安全」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.13	0.000000	0.008333
H31-H28	0.12	0.000001	0.01
H30-H28	0.09	0.000400	0.0125
H30-H29	▲ 0.04	0.083655	0.016667
H31-H30	0.03	0.194475	0.025
H31-H29	▲ 0.01	0.678766	0.05

表 δ-9-2 「地域の安全」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R3-R2	0.10	0.0000	0.01
R4-H31	▲ 0.10	0.0001	0.0125
R4-R2	0.06	0.0132	0.016667
R3-H31	▲ 0.06	0.0150	0.025
R4-R3	▲ 0.04	0.0973	0.05

表 δ-10-1 「仕事のやりがい」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H29-H28	0.06	0.059	0.008333
H30-H29	▲ 0.06	0.081	0.01
H31-H28	0.04	0.266	0.0125
H31-H30	0.03	0.325	0.016667
H31-H29	▲ 0.02	0.467	0.025
H30-H28	0.00	0.909	0.05

表 δ-10-2 「仕事のやりがい」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R2-H31	▲ 0.16	0.0000	0.008333
R4-H31	▲ 0.12	0.0001	0.01
R3-R2	0.11	0.0006	0.0125
R4-R3	▲ 0.07	0.0187	0.016667
R3-H31	▲ 0.05	0.1158	0.025
R4-R2	0.03	0.2797	0.05

表 δ-11-1 「必要な収入や所得」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H28	0.20	0.00000000	0.0083333
H31-H30	0.20	0.00000001	0.01
H29-H28	0.14	0.00002533	0.0125
H30-H29	▲ 0.13	0.00007793	0.0166667
H31-H29	0.07	0.05051029	0.025
H30-H28	0.01	0.82012116	0.05

表 δ-11-2 「必要な収入や所得」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-R2	0.21	0.000	0.0083333
R4-R3	▲ 0.20	0.000	0.01
R3-H31	0.13	0.000	0.0125
R2-H31	▲ 0.09	0.010	0.0166667
R4-H31	▲ 0.07	0.030	0.025
R4-R2	0.01	0.698	0.05

表 δ-12-1 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H30	▲ 0.07	0.02	0.008333
H31-H28	▲ 0.05	0.10	0.01
H31-H29	▲ 0.04	0.19	0.0125
H30-H29	0.03	0.27	0.016667
H30-H28	0.02	0.45	0.025
H29-H28	▲ 0.01	0.72	0.05

表 δ-12-2 「歴史・文化への誇り」の多重比較 (H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R3-H31	▲ 0.11	0.0001	0.008333
R4-R3	0.10	0.0005	0.01
R3-R2	▲ 0.08	0.0059	0.0125
R2-H31	▲ 0.03	0.2550	0.016667
R4-R2	0.02	0.4711	0.025
R4-H31	▲ 0.01	0.6789	0.05

表 δ-13-1 「自然のゆたかさ」の多重比較  
(H28~H31)

	差	有意確率	有意水準
H31-H30	▲ 0.05	0.02	0.0166667
H31-H29	▲ 0.05	0.02	0.025
H30-H29	0.00	0.85	0.05
H29-H28			
H30-H28			
H31-H28			

表 δ-13-2 「自然のゆたかさ」の多重比較  
(H31~R4)

	差	有意確率	有意水準
R4-R2	0.07	0.0025	0.0083333
R4-R3	0.05	0.0219	0.01
R2-H31	▲ 0.05	0.0224	0.0125
R3-H31	▲ 0.03	0.1230	0.0166667
R3-R2	0.02	0.4318	0.025
R4-H31	0.02	0.4702	0.05



## 【追加分析 2】

# 新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と 分野別実感の関連性の分析



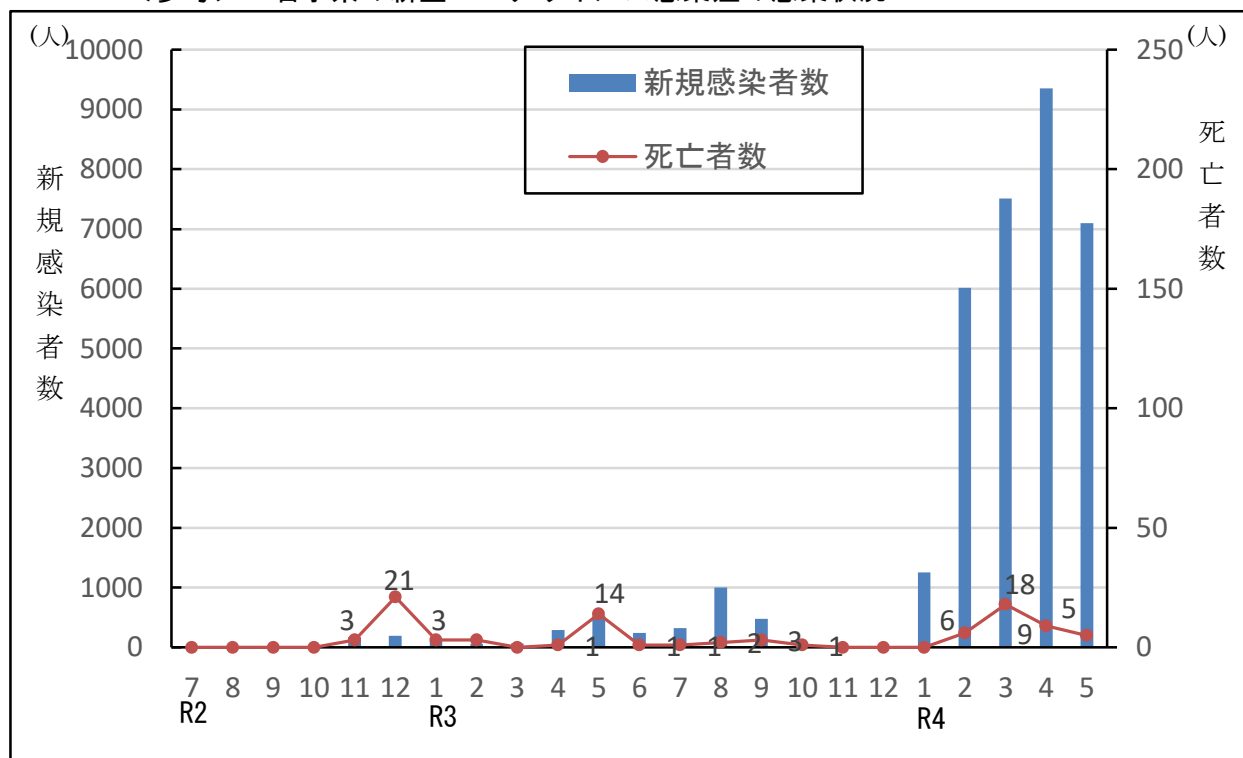
## 1 新型コロナウイルス感染症の状況

令和元年末に端を発し、世界中に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、国内で令和2年1月に確認され、本県においても令和2年7月に感染が確認されて以降、現在まで感染が収束していない状況にあります。

新型コロナウイルス感染症は、感染拡大が始まった当初は、重症化率が高かったこともあり、全国的に移動制限などの行動制限を主体とした感染対策が行われていました。

しかし、令和3年には、ワクチンの接種が行われたことやウイルスの変異等により、感染者が増えても、重症化率があまり高くない状態であり、社会経済活動を可能な限り維持しながら、効果が高いと思われる感染症対策を行っている状況にあります。

<参考> 岩手県の新型コロナウイルス感染症の感染状況



## 2 追加分析の内容

新型コロナウイルス感染症の各分野への影響を尋ねる質問については、令和3年県民意識調査から設けており、令和4年調査の回答結果（図A）と令和2年から令和4年の分野別実感（図B）をもとに、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響の度合いと、分野別実感の関連性を統計的に分析しました。

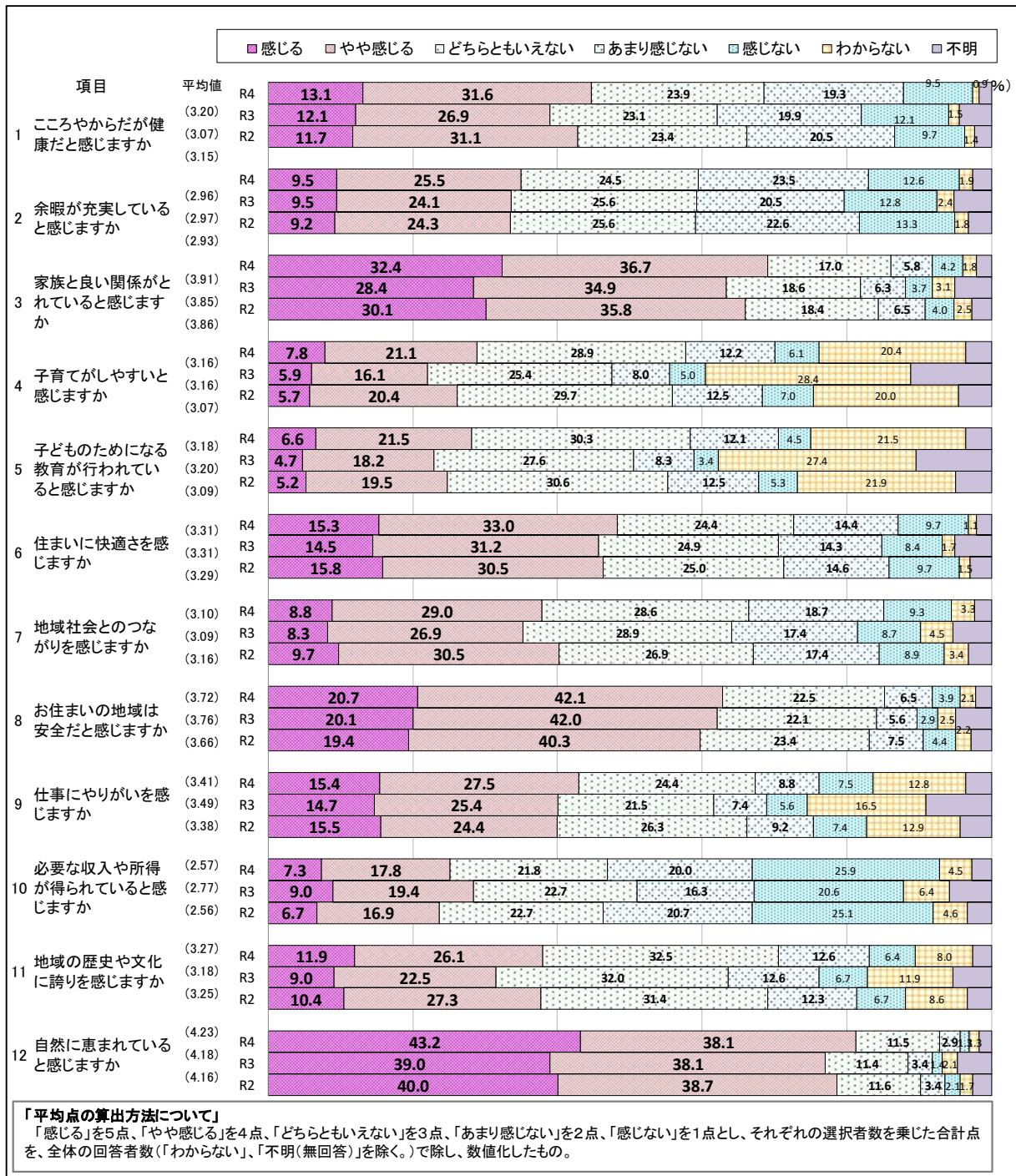
図A 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況

(項目)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ 良い影響を感じる</p> <p>■ どちらともいえない</p> <p>■ 良くない影響を感じる</p> <p>■ 不明</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>□ やや良い影響を感じる</p> <p>□ あまり良くない影響を感じる</p> <p>□ 影響を感じない</p> </div> </div>							よい影響 (%)	よくない影響 (%)		
	R4	R3	R4	R3	R4	R3					
① 心身の健康	R4		4%	10%	27%	19%	18%	12%	10%	14	37
	R3										
①-1 からだの健康	R4		3%	12%	30%	18%	16%	14%	7%	15	34
	R3		3%	7%	18%	17%	39%	11%	5%	10	56
①-2 こころの健康	R4		3%	10%	26%	22%	20%	12%	7%	13	42
	R3		2%	6%	17%	21%	41%	7%	5%	8	62
2 余暇の充実	R4		3%	11%	26%	19%	23%	10%	7%	14	42
	R3		2%	6%	19%	19%	41%	7%	6%	8	60
3 家族関係	R4		8%	16%	32%	12%	9%	17%	6%	24	21
	R3		5%	8%	25%	16%	27%	13%	5%	13	43
4 子育て	R4		3%	8%	25%	11%	12%	31%	10%	11	23
	R3		2%	8%	17%	13%	28%	26%	10%	5	41
5 子どもの教育	R4		2%	7%	25%	12%	14%	30%	10%	9	26
	R3		1%	8%	16%	15%	30%	24%	11%	4	45
6 住まいの快適さ	R4		5%	15%	33%	12%	8%	20%	6%	20	20
	R3		3%	7%	28%	16%	23%	17%	6%	10	39
7 地域社会とのつながり	R4		2%	11%	32%	17%	16%	15%	6%	13	33
	R3		1%	5%	24%	20%	32%	12%	7%	6	52
8 地域の安全	R4		4%	15%	35%	11%	9%	19%	6%	19	20
	R3		2%	6%	28%	18%	26%	14%	6%	8	44
9 仕事のやりがい	R4		3%	9%	30%	13%	13%	24%	8%	12	26
	R3		2%	5%	23%	15%	26%	20%	8%	7	41
10 必要な収入や所得	R4		2%	6%	27%	18%	19%	22%	7%	8	37
	R3		2%	4%	21%	15%	33%	19%	7%	6	48
11 歴史や文化への誇り	R4		2%	7%	37%	8%	6%	33%	7%	9	14
	R3		1%	2%	24%	17%	31%	19%	7%	3	48
12 自然のゆたかさ	R4		9%	16%	29%	4%	3%	32%	6%	25	7
	R3		2%	6%	27%	15%	23%	20%	6%	8	38

注1) ①心身の健康については、R3は調査していない。

注2) R3調査では、設問を「あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください」とし、項目11を「歴史や文化に触れる機会や場所への影響」、項目12を「自然の恵みを感じる機会への影響」としていた。

図B 【県民意識調査】分野別実感の回答状況



### 3 分析手法

令和3年と同様、(1)～(3)の手法で分析を行いました。

なお、令和3年調査と令和4年調査は、新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問項目が以下のとおり異なります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響と分野別実感の関連性を、回答者により明確に意識していただき、新型コロナウイルス感染症の自分への影響を教えていただくために設問を変更したものです。

このため両者の比較が困難であると判断し、当該設問については令和3年と令和4年の調査結果の比較は行いません。

[令和3年調査の設問]

あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

[令和4年調査の設問]

次に、問1-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを1つ選び、番号に○をしてください。

#### (1) 分野別実感の平均値の2時点比較

分野別に「感じる」から「感じない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点することで分野別実感の平均値を算出しました。

その上で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と後の変化を把握するため、感染拡大前の令和2年と現状である令和4年の分野別実感の平均値の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

#### (2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析

分野ごとの新型コロナウイルス感染症の影響の度合いと、分野別実感の関連性を把握するため、以下の2つの項目間でクロス集計を行い、関連性の有無を確認しました。

○新型コロナウイルス感染症の影響の度合い（5区分）

「新型コロナウイルス感染症の影響」を「良い影響を感じる」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「どちらともいえない」、「良くない影響を感じる」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）、「影響を感じない」、「不明」の5つに区分しました。

○分野別実感（5区分）

分野別実感を「感じる」（「感じる」＋「やや感じる」）、「どちらともいえない」、「感じない」（「あまり感じない」＋「感じない」）、「わからない」、「不明」の5つに区分しました。

#### (3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証

「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の関連性を検証するため、「新型コロナウイルス感染症の影響」を「良い影響」、「どちらともいえない＋影響を感じない」、「良くない影響」の3段階に区分し、それぞれの区分ごとに「分野別実感」の平均値を出し、それらの間の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

## 4 結果の概要

### (1) 分野別実感の平均値の2時点比較 (表C参照)

感染拡大前の令和2年と現状である令和4年の分野別実感を比較した結果は、以下のとおりとなっています。

実感が上昇した分野 (4分野) : 「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」  
「自然のゆたかさ」

実感が低下した分野 (1分野) : 「地域社会とのつながり」

実感が横ばいの分野 (7分野) : 「心身の健康」「余暇の充実」「家族関係」  
「住まいの快適さ」「仕事のやりがい」  
「必要な収入や所得」「歴史・文化への誇り」

### (2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析 (表D参照)

「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計したところ、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」と回答した人は、すべての分野別実感で「感じる」と回答 (ポジティブに回答) した割合が最も高くなりました。

一方で、「良くない影響を感じる」と回答した人は、「からだの健康」「余暇の充実」「子育て」「住まいの快適さ」「必要な収入や所得」の5分野別実感で「感じない」と回答 (ネガティブに回答) した割合が最も高くなり、それ以外の8分野では分野別実感を「感じる」と回答 (ポジティブに回答) した割合が最も高くなりました。

### (3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証 (表E参照)

#### ① 「良い影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良い影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値の差の有無を検証しました。検証の結果、全ての「分野別実感」で、「良い影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

#### ② 「良くない影響を感じる」と「どちらともいえない+影響を感じない」の比較

「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値の差の有無を検証しました。検証の結果、9つの「分野別実感」で、「良くない影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に低くなりました。一方で、「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」では、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

なお、「必要な収入や所得」において、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者の実感平均値は1.96となっており、他の分野に比べても、実感が非常に低くなっていることから、留意が必要と考えられます。

### (4) 分析結果のまとめ

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と感染拡大後で「分野別実感」の平均値を比較したところ4分野で実感が上昇し、1分野で実感が低下し、7分野で実感が横ばいとなりました。
- 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」をクロス集計したところ、新型コロナウイルス感染症の影響について「良い影響を感じる」と回答した人は、す

すべての分野別実感で「感じる」と回答した割合が高くなりました。

また、「良くない影響を感じる」と回答した人は、3分野別実感で「感じない」と回答した割合が最も高くなる一方で、それ以外の10分野では分野別実感を「感じる」と回答した割合が最も高くなりました。

- 「新型コロナウイルス感染症の影響」別に「分野別実感」の平均値を比較したところ、全ての分野で、「良い影響を感じる」の回答者は「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」が有意に高くなりました。

また、「良くない影響を感じる」の回答者と「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者の「分野別実感」の平均値を比較したところ、平均値が有意に低くなったのは9分野であり、「分野別実感」の平均値が有意に高くなったのは2分野、有意な差が確認できない分野は1分野でした。

- 以上の分析結果から、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の関係については、12分野で一律の傾向を確認することはできませんでしたが、分野によっては一定の相互関係（新型コロナウイルス感染症の影響について良い影響を感じる人ほど分野別実感が高く、良くない影響を感じる人ほど分野別実感が低いなど）が確認できました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との「分野別実感」の変動において実感が低下した1分野には、「新型コロナウイルス感染症の影響」との相互関係は見られませんでした。

このことから、「新型コロナウイルス感染症の影響」が「分野別実感」に一定程度影響を与えたと推測されるものの、明確な関連性を確認することはできませんでした。

## 5 分析結果

(1) 分野別実感に係る新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（令和2年調査）との比較

表C 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（R2年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		R2 (コロナの影響前)	R3	R4 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.15	3.07 ↓ (Δ0.08)	3.20 - (0.05)
	(2) 余暇の充実	2.93	2.97 - (0.04)	2.96 - (0.02)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.86	3.85 - (Δ0.01)	3.91 - (0.04)
	(4) 子育て	3.07	3.16 ↑ (0.09)	3.16 ↑ (0.09)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.09	3.20 ↑ (0.11)	3.18 ↑ (0.09)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.29	3.31 - (0.02)	3.31 - (0.01)
	(7) 地域社会とのつながり	3.16	3.09 ↓ (Δ0.06)	3.10 ↓ (Δ0.06)
V 安全	(8) 地域の安全	3.66	3.76 ↑ (0.10)	3.72 ↑ (0.06)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.38	3.49 ↑ (0.11)	3.41 - (0.03)
	(10) 必要な収入や所得	2.56	2.77 ↑ (0.21)	2.57 - (0.01)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.25	3.18 ↓ (Δ0.08)	3.27 - (0.02)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.16	4.18 - (0.02)	4.23 ↑ (0.07)

※1 令和2年調査と令和4年調査を比べて、実感が上昇したところ□、低下したところ□で網掛けした。

※2 小数点以下については四捨五入しているため、R2年と対象年の差（ ）が合わないことがあります。

(2) 分野別実感と影響実感のクロス集計

表D-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（心身の健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	361	309	500	187	131	1,488
	やや感じる	(78.1%)	(34.3%)	(40.6%)	(47.6%)	(38.9%)	(44.8%)
	どちらともいえない	52	327	270	73	71	793
		(11.3%)	(36.3%)	(21.9%)	(18.6%)	(21.1%)	(23.9%)
	あまり感じない+	44	251	446	121	95	957
	感じない	(9.5%)	(27.9%)	(36.2%)	(30.8%)	(28.2%)	(28.8%)
	1	7	7	10	4	29	
	(0.2%)	(0.8%)	(0.6%)	(2.5%)	(1.2%)	(0.9%)	
	4	7	8	2	36	57	
	(0.9%)	(0.8%)	(0.6%)	(0.5%)	(10.7%)	(1.7%)	
合計		462	901	1231	393	337	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

※3 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合がある。以下、表D-12まで同様とする。

表D-1-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（からだの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	390	357	433	225	83	1,488
	やや感じる	(77.7%)	(35.8%)	(38.3%)	(47.8%)	(37.1%)	(44.8%)
	どちらともいえない	57	352	242	91	51	793
		(11.4%)	(35.3%)	(21.4%)	(19.3%)	(22.8%)	(23.9%)
	あまり感じない+	53	276	441	144	43	957
	感じない	(10.6%)	(27.7%)	(39.0%)	(30.6%)	(19.2%)	(28.8%)
	0	8	6	10	5	29	
	(0.0%)	(0.8%)	(0.5%)	(2.1%)	(2.2%)	(0.9%)	
	2	3	9	1	42	57	
	(0.4%)	(0.3%)	(0.8%)	(0.2%)	(18.8%)	(1.7%)	
合計		502	996	1,131	471	224	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)



表D-1-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（こころの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	341	326	547	190	84	1,488
	やや感じる	(77.1%)	(37.8%)	(38.8%)	(48.7%)	(38.5%)	(44.8%)
	どちらともいえない	55	295	323	71	49	793
		(12.4%)	(34.2%)	(22.9%)	(18.2%)	(22.5%)	(23.9%)
	あまり感じない+	43	227	526	118	43	957
	感じない	(9.7%)	(26.3%)	(37.3%)	(30.3%)	(19.7%)	(28.8%)
分からない	1	7	6	10	5	29	
	(0.2%)	(0.8%)	(0.4%)	(2.6%)	(2.3%)	(0.9%)	
不明	2	8	9	1	37	57	
	(0.5%)	(0.9%)	(0.6%)	(0.3%)	(17.0%)	(1.7%)	
合計		442	863	1,411	390	218	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（余暇の充実）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	336	226	432	106	65	1,165
	やや感じる	(71.6%)	(26.0%)	(30.7%)	(30.6%)	(28.0%)	(35.0%)
	どちらともいえない	82	326	280	77	48	813
		(17.5%)	(37.5%)	(19.9%)	(22.3%)	(20.7%)	(24.5%)
	あまり感じない+	45	296	676	135	49	1,201
	感じない	(9.6%)	(34.0%)	(48.0%)	(39.0%)	(21.1%)	(36.1%)
分からない	1	12	9	24	16	62	
	(0.2%)	(1.4%)	(0.6%)	(6.9%)	(6.9%)	(1.9%)	
不明	5	10	10	4	54	83	
	(1.1%)	(1.1%)	(0.7%)	(1.2%)	(23.3%)	(2.5%)	
合計		469	870	1,407	346	232	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-3 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（家族関係）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	743	639	403	395	113	2,293
	やや感じる	(91.6%)	(60.1%)	(58.7%)	(70.2%)	(56.2%)	(69.0%)
	どちらともいえない	43	294	117	86	26	566
		(5.3%)	(27.7%)	(17.1%)	(15.3%)	(12.9%)	(17.0%)
	あまり感じない+	12	113	150	47	13	335
	感じない	(1.5%)	(10.6%)	(21.9%)	(8.3%)	(6.5%)	(10.1%)
	1	13	7	31	8	60	
	(0.1%)	(1.2%)	(1.0%)	(5.5%)	(4.0%)	(1.8%)	
	12	4	9	4	41	70	
	(1.5%)	(0.4%)	(1.3%)	(0.7%)	(20.4%)	(2.1%)	
合計		811	1063	686	563	201	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-4 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子育て）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	251	201	234	188	85	959
	やや感じる	(69.9%)	(24.2%)	(29.5%)	(18.5%)	(26.0%)	(28.9%)
	どちらともいえない	69	349	222	252	68	960
		(19.2%)	(42.1%)	(28.0%)	(24.8%)	(20.8%)	(28.9%)
	あまり感じない+	28	170	262	123	26	609
	感じない	(7.8%)	(20.5%)	(33.1%)	(12.1%)	(8.0%)	(18.3%)
	6	107	67	438	60	678	
	(1.7%)	(12.9%)	(8.5%)	(43.1%)	(18.3%)	(20.4%)	
	5	2	7	16	88	118	
	(1.4%)	(0.2%)	(0.9%)	(1.6%)	(26.9%)	(3.5%)	
合計		359	829	792	1,017	327	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-5 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子どもの教育）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	216	197	270	169	82	934
	やや感じる	(69.5%)	(24.1%)	(30.8%)	(17.1%)	(24.7%)	(28.1%)
	どちらともいえない	65	361	276	242	66	1,010
		(20.9%)	(44.2%)	(31.4%)	(24.5%)	(19.9%)	(30.4%)
	あまり感じない+	22	137	237	123	33	552
	感じない	(7.1%)	(16.8%)	(27.0%)	(12.5%)	(9.9%)	(16.6%)
	5	119	88	440	61	713	
	(1.6%)	(14.6%)	(10.0%)	(44.6%)	(18.4%)	(21.5%)	
	3	2	7	13	90	115	
	(1.0%)	(0.2%)	(0.8%)	(1.3%)	(27.1%)	(3.5%)	
合計		311	816	878	987	332	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-6 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（住まいの快適さ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	535	409	200	376	86	1,606
	やや感じる	(80.6%)	(37.7%)	(29.5%)	(55.2%)	(40.0%)	(48.3%)
	どちらともいえない	84	402	153	129	43	811
		(12.7%)	(37.1%)	(22.5%)	(18.9%)	(20.0%)	(24.4%)
	あまり感じない+	39	260	311	161	29	800
	感じない	(5.9%)	(24.0%)	(45.8%)	(23.6%)	(13.5%)	(24.1%)
	0	7	9	12	8	36	
	(0.0%)	(0.6%)	(1.3%)	(1.8%)	(3.7%)	(1.1%)	
	6	7	6	3	49	71	
	(0.9%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.4%)	(22.8%)	(2.1%)	
合計		664	1,085	679	681	215	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-7 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域社会とのつながり）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	310	326	421	129	67	1,253
	やや感じる	(72.3%)	(30.3%)	(37.9%)	(26.0%)	(31.6%)	(37.7%)
	どちらともいえない	82	416	273	128	53	952
		(19.1%)	(38.7%)	(24.6%)	(25.8%)	(25.0%)	(28.6%)
	あまり感じない+	29	291	382	201	27	930
	感じない	(6.8%)	(27.0%)	(34.4%)	(40.4%)	(12.7%)	(28.0%)
分からない	2	38	19	37	15	111	
	(0.5%)	(3.5%)	(1.7%)	(7.4%)	(7.1%)	(3.3%)	
不明	6	5	15	2	50	78	
	(1.4%)	(0.5%)	(1.4%)	(0.4%)	(23.6%)	(2.3%)	
合計		429	1,076	1,110	497	212	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-8 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域の安全）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	559	642	361	424	103	2,089
	やや感じる	(85.5%)	(54.5%)	(54.5%)	(67.7%)	(50.2%)	(62.8%)
	どちらともいえない	66	381	161	114	25	747
		(10.1%)	(32.4%)	(24.3%)	(18.2%)	(12.2%)	(22.5%)
	あまり感じない+	21	125	122	61	17	346
	感じない	(3.2%)	(10.6%)	(18.4%)	(9.7%)	(8.3%)	(10.4%)
分からない	1	24	10	23	11	69	
	(0.2%)	(2.0%)	(1.5%)	(3.7%)	(5.4%)	(2.1%)	
不明	7	5	8	4	49	73	
	(1.1%)	(0.4%)	(1.2%)	(0.6%)	(23.9%)	(2.2%)	
合計		654	1,177	662	626	205	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-9 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（仕事のやりがい）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	371	387	367	239	61	1,425
	やや感じる	(90.9%)	(38.6%)	(42.5%)	(30.2%)	(23.6%)	(42.9%)
	どちらともいえない	23	387	192	165	45	812
		(5.6%)	(38.6%)	(22.2%)	(20.9%)	(17.4%)	(24.4%)
	あまり感じない+	7	143	253	114	24	541
	感じない	(1.7%)	(14.3%)	(29.3%)	(14.4%)	(9.3%)	(16.3%)
	2	77	43	258	46	426	
	(0.5%)	(7.7%)	(5.0%)	(32.6%)	(17.8%)	(12.8%)	
	5	9	9	15	82	120	
	(1.2%)	(0.9%)	(1.0%)	(1.9%)	(31.8%)	(3.6%)	
合計		408	1,003	864	791	258	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-10 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（必要な収入や所得）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	193	212	136	255	38	834
	やや感じる	(69.9%)	(23.8%)	(11.2%)	(35.6%)	(17.1%)	(25.1%)
	どちらともいえない	37	352	171	125	38	723
		(13.4%)	(39.5%)	(14.1%)	(17.4%)	(17.1%)	(21.8%)
	あまり感じない+	37	288	874	261	70	1,530
	感じない	(13.4%)	(32.3%)	(71.8%)	(36.4%)	(31.5%)	(46.0%)
	5	32	23	69	19	148	
	(1.8%)	(3.6%)	(1.9%)	(9.6%)	(8.6%)	(4.5%)	
	4	8	13	7	57	89	
	(1.4%)	(0.9%)	(1.1%)	(1.0%)	(25.7%)	(2.7%)	
合計		276	892	1,217	717	222	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-11 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（歴史・文化への誇り）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	239	406	201	366	51	1,263
	やや感じる	(78.6%)	(32.9%)	(44.5%)	(32.9%)	(22.9%)	(38.0%)
	どちらともいえない	50	532	126	318	53	1,079
		(16.4%)	(43.1%)	(27.9%)	(28.6%)	(23.8%)	(32.5%)
	あまり感じない+	13	206	103	283	27	632
	感じない	(4.3%)	(16.7%)	(22.8%)	(25.5%)	(12.1%)	(19.0%)
分からない	1	81	17	136	32	267	
	(0.3%)	(6.6%)	(3.8%)	(12.2%)	(14.3%)	(8.0%)	
不明	1	9	5	8	60	83	
	(0.3%)	(0.7%)	(1.1%)	(0.7%)	(26.9%)	(2.5%)	
合計		304	1,234	452	1,111	223	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

表D-12 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（自然のゆたかさ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	780	727	163	907	126	2,703
	やや感じる	(94.1%)	(74.4%)	(66.5%)	(85.2%)	(60.3%)	(81.3%)
	どちらともいえない	34	196	45	87	20	382
		(4.1%)	(20.1%)	(18.4%)	(8.2%)	(9.6%)	(11.5%)
	あまり感じない+	11	42	30	45	10	138
	感じない	(1.3%)	(4.3%)	(12.2%)	(4.2%)	(4.8%)	(4.2%)
分からない	1	7	5	21	9	43	
	(0.1%)	(0.7%)	(2.0%)	(2.0%)	(4.3%)	(1.3%)	
不明	3	5	2	4	44	58	
	(0.4%)	(0.5%)	(0.8%)	(0.4%)	(21.1%)	(1.7%)	
合計		829	977	245	1,064	209	3,324
		(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

## (3) 新型コロナウイルス感染症の影響実感の違いによる分野別実感平均値の差 (t 検定)

表 E 影響実感の内容別の実感平均値とその差

政策分野	分野別実感	実感平均値の差		
		どちらともいえない +影響を感じない	良い影響 を感じる	良くない影響 を感じる
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.12	3.97	3.02
			↑ (0.85)	↓ (Δ0.10)
	(2) 余暇の充実	2.86	3.84	2.73
			↑ (0.98)	↓ (Δ0.13)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.81	4.41	3.51
			↑ (0.60)	↓ (Δ0.30)
	(4) 子育て	3.07	3.86	2.92
			↑ (0.80)	↓ (Δ0.15)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.83	3.02
			↑ (0.74)	- (Δ0.07)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.26	4.04	2.67
			↑ (0.78)	↓ (Δ0.58)
	(7) 地域社会とのつながり	2.91	3.91	3.00
			↑ (0.99)	↑ (0.09)
V 安全	(8) 地域の安全	3.65	4.16	3.46
			↑ (0.51)	↓ (Δ0.19)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.31	4.33	3.15
			↑ (1.03)	↓ (Δ0.16)
	(10) 必要な収入や所得	2.84	3.81	1.96
			↑ (0.96)	↓ (Δ0.88)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.15	4.12	3.28
			↑ (0.96)	↑ (0.12)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.17	4.48	3.84
			↑ (0.30)	↓ (Δ0.33)

※1 「-」はt検定の結果、5%水準で有意な差が確認されなかったもの

※2 「どちらともいえない+影響を感じない」に比べて、「良い影響を感じる」又は「良くない影響を感じる」の実感が高いところを□、低いところを■で網掛けした。

## ＜参考＞

### 参考 1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

#### （設置）

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

#### （所掌）

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- （1）「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- （2）その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

#### （組織）

第3条 部会は、委員7名以内で組織し、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって構成する。

2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### （部会長及び副部会長）

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

2 部会長は、委員の互選によって定める。

3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。

4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

#### （オブザーバー）

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、知事が任命する。

3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べるることができる。

#### （会議）

第6条 部会は、知事が招集する。

2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### （意見の聴取）

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

#### （庶務）

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

#### （補則）

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

##### 附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

##### 附 則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。



## 参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	岩手県立大学地域政策研究センター 客員教授	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学 人と社会の未来研究院 教授	オブザーバー

## 参考3 令和4年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月19日(木)	<b>第1回部会開催</b> (1) 部会長・副部会長の選任について (2) 県民の幸福感に関する分析部会について (3) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (4) 分野別実感の分析について
5月26日(木)	<b>第2回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月23日(木)	<b>第3回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
6月30日(木)	<b>第4回部会開催</b> (1) 分野別実感の分析について
7月27日(水)	<b>第5回部会開催</b> (1) 分野別実感等の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(素案)について
10月24日(月)	<b>第6回部会開催</b> (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート(案)について (2) 令和5年県民意識調査(補足調査)について
11月14日(月)	<b>第101回総合計画審議会</b> で分析結果を報告(予定)

#### 参考4 部会審議における主な発言（提言等）

部会審議において得られた提言や、レポートの分析結果への反映までは行えなかったが、その分野の状況において特に重要と考えられる意見等を、下記のとおり取りまとめた。

分析の種類	提言等	委員
	<p>基準年に比べて、全体としての主観的幸福感というのは上昇しています。ただ、分野別に見ていったときに「心身の健康」とか「家族関係」、「子育て」といった自分なり、身の回りのところの指標等は割とよくなっていますが、一方で「地域社会とのつながり」、「地域の安全」とか、あるいはそういう外向きのところ、あるいは「仕事のやりがい」とか「必要な収入や所得」というところ、外部との接触なり何なりが必要などころというのは下がっています。ただ、それをトータルすると、全体としては上がっているという傾向なのかなと思って見えています。</p>	若菜 副部長
	<p>「地域の安全」とか「地域のつながり」という分野が低下しているというのは、何か理由が分かりやすい気もしますが、低下の部分を広域圏別で見ると、沿岸がやっぱりちょっと際立って出てきているということが気になっており、コロナの影響は全県的に等しくはないけれども、全県的な問題のはずなので、沿岸が「地域社会とのつながり」の問題や「地域の安全」の問題で低く出るというこの地域の差が気になっています。</p>	和川委員
主観的幸福感	<p>「幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか」という質問は、物すごく面白い質問だなと思っています。1番が家族で、2番が健康となっており、これは、今回実感としても上がったところですので、それで全体的に主観的幸福感が増えたのだらうなと考えており、重視されているものはより重視すべきだと思っています。</p> <p>私が仕事柄関係している「地域コミュニティ」は順位が後ろの方に近く、それほど幸福の実感には重視されていない部分ではあるので、そういう意味でいくと今回下がった「地域社会とのつながり」は想像どおりですが、「何を重視しているのか」というバランスと、今回の実感が増えた、減ったというのは、やっぱり突合しながら見ていくべきだなと考えています。もちろん、自分としては、つながりを高めたいという思いはあるのですが、これを見ると、つながりを一生懸命高めようという政策よりは、単純に家族とか健康を上げてしまった方が幸福感というのは上がるのではないかというふうに見えます。そのとおりにする必要はないとは思いますが、政策的にどう考えるかということであり、単純にそれぞれの項目が上がった、下がったというのと、一県民から見て私たちは重視しているのは、実はここよという、そこは両方バランス見ながら見ていかなければならないのだなというのは改めて思いました。</p>	若菜 副部長

分析の種類	提言等	委員
主観的幸福感	<p>主観的幸福感は動いていないなと思いましたが、資料を見るとポジティブな人が増えており、ネガティブな人も増えています。以前に谷藤委員が研究会の方で、平均値だけで議論すると見えなくなるものがありますよねとお話しされていましたが、平均値だけ追っていくと見失うものがあるかなということで、分野別実感が動いているのだけれども、幸福感が動いていないから全く効いていないかということ、実は様々なものが動いていて、平均化されている可能性もあるのだろうなというのをちょっと感じたというのが感想です。</p>	和川委員
	<p>広域振興圏別の実感平均値のデータがあって、沿岸のデータが5分野でマイナスとなっており、実は上がっているところは一もない状態です。通常であれば「心身の健康」は、ほかの3つの地域は上がっているの、ちょっとぐらい上がってもおかしくないのですが上がっていません。主観的幸福感も上がってはいない。一方で、マイナスが5分野もあって、特に「地域社会とのつながり」は0.3ポイント下落ということですから、主観的幸福感の動きの3倍ぐらい下がっているということになり、かなり振れ幅が大きいかなと思っています。ここはどこの振興圏でも下がっているのですけれども、やっぱり広域振興圏別にいろいろ政策を打っており、今後も打つと思うのですが、その場合、横並びの政策をするというよりは、どこに重点を置いて地域別の暮らしを支えていくかというのいずれ次の計画の中では考えていく必要があると考えます。</p> <p>こういったデータを踏まえて、なぜ沿岸でこういったことが起こるのかということ、そしてそれに合わせた対応はどうしたらいいのかということを考えてもいいのではないかなと思っています。これは意識なので、主観的なのですけれども、何か定量的なデータと関連しているのであれば問題も見えてくるし、それから震災から12年ということを考えていくと、いろんな意味で関心の低下や投資の低下等々があって、一方で整ったインフラをどう使っていくのかというような課題も残っているはず。インフラ不足というわけではないと思うのですけれども、しかし。それがなかなか実感として県民の皆様にもいろんな分野で認識されないと、かなり投資していろいろ回復、復旧していますので、これが評価をいただけるような仕組みも作って行って、長続きするような地域になる必要もあるのではないかなということも考えていますので、年齢や地域についての差が出ているということも分野横断で見たいというふうに思いました。</p>	吉野 部会長

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	余暇の充実	<p>女性、70歳以上の方、あるいは60歳以上の無職の方の実感が下がっていて、これはお金がないとか、コロナで外に出られないというようなことなのかなと思いましたが、変動要因として一番出てくる理由は「自由な時間の確保」なのです。余暇の充実で下がっている属性の人たちは、そんなに時間に不自由する人たちではないのではないかとというのが直感的なイメージですので、何で自由な時間の確保というのが一番の理由に出てくるのかちょっと分かりにくく感じます。</p> <p>実感が低下している属性として、高齢の人たちが出てきているのですけれども、属性別の数字を見ると、「女性」は確かに「あまり感じない」の方で、「自由な時間の確保」というのが1番に出ています、「70歳以上」とか「60歳以上の無職」の人たちでは、特にネガティブな項目の指標としては出てきていないことから、どう考えたらいいのか、ちょっと難しいと思います。だから、分析の手順として並べてみると、このとおりになるのだけれども、これだけ見て高齢者の人たちが自由な時間の確保に難儀しているのということではないのではないかと思います。</p> <p>実はこれを見たとき私が想像したのは、高齢の方々は介護が必要なほど弱ってきて、そもそも時間の確保ができなくなったのかなと思いました。補足調査においては、1日の行動時間の低下として、介護が急が増えているというのは確かにあったので、そういうことなのかなと思うけれども、この県民意識調査の属性別の分析を見るとそうでもないということになってきて、何か合成の誤謬ではないけれども、このままにしておくと、ちょっとこれミスリードしかねないと思います。</p>	谷藤委員
		<p>ここは、「暇ですか」と聞いているわけではなくて、「充実していますか」と聞いているので、要因とすれば「時間」と「質」の2つが入ってくると思います。</p> <p>そういった意味で、時間は時間で測れますが、例えば、時間は残っているけれども、今まで集会に1週間毎日行っていたのが行けなくなったことが考えられます。それは多分充実が上がるというのはなかなか感覚的に難しいが、下がることは比較的明確に見えてくると思います。特にコロナの関係なんかですね。というようなことから、高齢者はなかなか今まで行っていた博物館に行けなくなったとか、話ができなくなったという可能性はあるのではないかと感じています。</p>	和川委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>私もコロナかなと思ったのですが、実はコロナ前のほうが下がっており、結局はコロナじゃないだろうと内心思っており、何だろうなと思っています。</p>	Tee 委員
	<p>現役世代の余暇時間が常に低いので、政策的にはそこを確保すべきという政策をもう少し強く打つのか、あるいは、実は高齢者の余暇の充実に係る実感が落ちているので、その充実こそが実は重要な政策課題であって、そこがきちんと手を打っていないと、高齢者の心身の健康あるいは幸福度に十分な反映がされないのではないかということもあって、高齢者も政策的には課題だということであれば、高齢者の余暇時間の中身をもっと精査することも必要となると考えます。一貫して低値は、現役世代であるから、これはこれで大きな課題であるという意見もあると思います。これをどのように政策に生かすかですが、高齢者の分析ばかりするのではなく、現役世代が一貫して低値であるということにも着目する必要があると思います。</p>	吉野 部会長
	<p>70歳以上の無職の余暇時間を調べてもらった一番のきっかけは、70歳以上の人たちが時間に不自由しているとは思えないというのが出発点でしたので、やはりそんなに時間に不自由しているわけではないということにはなると思います。だから、書きようですけれども、ほかの属性の人たちは自由な時間の確保が困難かもしれないけれども、70歳以上の無職に関してはそこが一番の要因ではないということなのだろうと思います。まとめ方の問題だと思いますが、違和感を感じる人もいますので、本文で一言入れておくことが現実的だと思います。</p> <p>さはさりながら、ちょっとこの4年間の数字見ても、実は70歳以上の無職ということですが、一番大きな変化は実はR3、R4のところではなくて、R2、R3のところなのですよ。</p> <p>そこは逆の意味で発見があったなと思って、R2からR3のところ、70歳以上の無職は、余暇時間が50分ぐらい減っており、逆にどこで増えたかというのは、端的に出ているところはないのだけれども、少しずつ色々なところで増えています。いずれにしても実は大きな変化というのはR2、R3のところできているというのがこの表を見ると分かりますので、そのとき起きた変化が継続しているのか、元に戻ったのか、あるいはさらに悪化しているのかといったあたりが問題かなと思います。いずれにしても、そうなることとコロナの影響が尾を引いているか、なくなったかというあたりに問題があるのかもしれない。そういう事実が今度見えてきたというのはあると思います。</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	余暇の充実	<p>義務的な時間が増えて、寝る時間はあまり変わっていない。何でコロナになると義務的時間が増えるのかというのは、ちょっと分からないです。在宅時間が増えているというのは、何となくありそうですよね。でも、その在宅時間の内訳が余暇時間としてカウントできるのか、義務的時間としてカウントできるのかちょっと分からないし、義務的時間が増えるというのは、例えば電化製品が一斉に使えなくなって手作業に全部なってしまったとか、そういう技術的なものが使えなくなったために手作業で時間かかるとか、あるいは手作業でやれる人が増えて、お裁縫を皆さん一斉にやり出したとかというなら分かるけれども、ちょっとそれもよくわからない。本当にそうかどうかは分からない。</p> <p>では、何で余暇時間が減っているのかというのは、ちょっと難しいですね。減っているから実感が下がるというのは言えそうだけれども、減る理由は分からない。よく寝るようになったといってもそうではないのですね。そういうわけでもない。何か生活に必要な時間が増えたのかな。それぐらいしか分からない。でも、ちょっと実感が分かったのは大きいですかね。</p>	吉野 部会長
	地域社会とのつながり	<p>私は地域づくりで集落に入っていますけれども、町内会、自治会の活動、あとは福祉系のサロンとかがなくて、若い人たちは楽になったと言うし、年配の方は寂しいという話は聞いています。</p> <p>ちょっと評価とは離れるかもしれないのですが、復活できるかというところが私たちの仲間では、住民活動が復活できるかというのがすごく難しく、この評価を受けて、こういうコミュニティ活動の復活はちょっと政策的にも応援をしないと多分半分ぐらい復活しないかなという実感があるので、県にはぜひ受け止めていただきたいと思います。</p>	若菜委員
		<p>「地域社会とのつながり」はずっとではありませんが、いわて県民計画の最初の年度から下がり続けています。でも、それに近い内容のものに関して、「近所のつき合いどうですか」については、つき合いがあるのにつながりがないというのはどういうことなのだろうかと思います。</p> <p>逆に言うと、そんなに皆さん幸福に関して地域とのつながりはあまり重要ではないのかなと、何かふわっとしているのですけれども、そんな感じがしてならないような気がしました。</p>	Tee 委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>具体的なデータとしてお話しできる話ではありませんが、私が関わっている復興の委員会でどういうことが問題になっているかという、数ある問題の一つであり、要は災害公営住宅に皆さんが入居されるようになった結果として、従来のコミュニティがなくなってしまっているという話になっています。どうやってそこを再構築するかというのは非常に大きな課題になっているという状況があり、そういったこともここに影響しているのかなと思って聞いていました。元々あった隣近所のコミュニティというものが災害公営住宅に移ったら、もうそれが全然なくなっていると、隣の人も誰か分からないというような状況で、そこから今やり直しているような状況であり、なかなか難しいところがあると言われていました</p>	谷藤委員
	<p>復興の過程でできてきた住宅形態がほぼ完成したのが随分後で、大体今から三、四年ぐらい前にほぼほぼ完成して、そこからスタートになっているので、むしろ事態が顕在化しているのはここ数年間、復興が随分経ってから。確かにそういう住宅形態というのは、ほかの地域ではあまりなく、被災した方がいっぱい入っている。そういったのがあるかもしれない。ハードが整備されたとはみなさんおっしゃいますけどね。</p>	吉野 部会長
	<p>コロナの影響は間違いなくあると思いますが、コロナだけかどうかということになってくるのかなと思います。身近なことで言うと私の町内会でもコロナの関係で班長会議を毎月やっていたのを間隔を延ばしたりしています。地域の行事も今のところコロナを理由にやっていないという状況があるので、だからコロナの影響というのを推測することに無理はないですよ。あとはほかの要因はないのかなと。</p> <p>もう一つ心配するのは、フォアキャスト的な話になりますけれども、コロナが収まったら元に戻るのだろうかという心配、不可逆的な変化になりかねない、これを見ていて。コロナにかかわる考え方としては2つあって、コロナだからしょうがないねと、一つは言えるのだけれども、収まったときに、バネが元に戻るように戻るかといったら多分戻らないのではないかなという心配。政策的にはむしろそっちの心配をしなければいけないだろうと思うのです。</p> <p>あと、沿岸が災害公営住宅等で従来型コミュニティがなくなってきているところへの対策については復興の方で問題意識として持っています。</p>	谷藤委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>今谷藤さんおっしゃったように、コロナ以外の要因もということで、確かになと思って、やっぱりそもそも人間関係が煩わしいという人は、ちょっとこれ調査の方法とも関係しますけれども、地域社会といったときにどうしても自治会とか町内会という地縁の方のコミュニティを連想しがちですが、私たちの活動も地縁は煩わしい、若い人は特に。</p> <p>では、別に地縁のつながりではなくて志縁、志の方の志縁はサークル活動とかいろんな形で社会とのつながりはあり得るので、そっちももっと充実させていこうという、多分そういう流れになると思いますが、そういう意味で地域社会といったときに、どうしても地縁的な社会のほうに寄っているバイアスはかかってしまっているのだなと思います。そうすると、今後はコロナが収まっても、今後はずっと下がっていくと思います。</p> <p>でも、「地域社会とのつながり」というのは自治会とか町内会だけではないよねというところの動きと、それをこのアンケートにどう絡めさせていくかというところは今後すごく難しいのだろうなと、先ほどのお話を聞いて思いました。</p> <p>だから、コロナの影響もあって下がって、でも構造的に今後も下がっていくと。でも、ほかのつながりがあるよねというところの評価と、それをどう捉えるかというところは注意しなければいけないなとは思いました。</p>	委員 若菜 副部長
	<p>前回で若菜委員の意見だと思うのだが、「地域社会のつながり」は町内会のみではないと、いろんな活動があるとおっしゃっていたので、ちょっと関連して思ったのは、結局その中の、そんなに給与がもらえていなくて、余裕もなくて、それでも幸せと感ずるとなると自分のレジャーとか町内会ではない方のそういう活動になるのではないかなと思って、結構関連あるなと思った。</p> <p>「地域社会とのつながり」の部分を見ていますが、これを見ると年代別では高齢者の方が高い。年齢層が若い方は低いという傾向がある。それが結構この分は平成28年にデータをとって、それ以降見ていくとそれほどその傾向は変わっていないとなると、若い人が年を取るとこうなるかというふうになるのかと感じなくなってくるとどんどん、どんどん必然的に年を取っていくとあまり感じないままでいってしまうのかな。ちょっと分からない、これだけ見ると分からないのですけれども、でもやっぱり趨勢的に低下傾向にあ</p>	Tee 委員



	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	地域社会とのつながり	<p>るような気がした。有意か有意でないかは別にして、R4で見るというと3を切っているなど、どんどん落ちてくるかなという傾向が見られると思いました。</p>	Tee 委員
		<p>印象レベルの話なのですけれども、資料6のつながりのところの1枚目のところなのですが、どういう項目を挙げているのかというのを見たときに、ポジティブな表現にせよ、ネガティブな表現にせよ、1番はちょっと別にすると、2番と5番が割と多いのですよ。自治会、町内会活動とか、隣近所との面識というのが多くて、3と4、要するにイベント系、行事よりは2と5の方がざっくりいって、ネガティブでもポジティブでも多いのですよ。ということは、地域社会とのつながりという分野の評価に関しては、日常的なつながりの部分で評価している傾向が強い。要するに、特別な行事があるとかないとかというのは、回答者は重視していないなど。そう思って見たときに、1ページ目の裏側のコメント見ていると、そもそもこういった日常的な隣近所とのつながりというのを煩わしく感じたり、面倒くさいと思っている人たちも結構いるのかなという印象を受けています。これについては、それでは駄目なのだというのはおこがましい話で、それはそれとして受け止めて進んでいかなければいけないのかなと思った次第です。</p> <p>結局コロナで行事がいろいろ中止になっているというのも現にあるのですけれども、意外とそこについて項目として挙げている人は少ないなという印象です。だから、結局コロナが収まってもあまり変わらない傾向が続くのかなかもしれないなという印象を持っています。</p>	谷藤委員
		<p>調査結果だけを切り刻んで議論してきましたが、そういった様々な行動とかを見ながらやっていくと見えるものもあるのかなという感想があります。</p> <p>あと、Tee 委員より属性別の変動について言及がありましたが、これを見て正直ほぼ全部が下がっていると考えていいのかなと思います。有意水準を上回っているか上回っていないかの違いだけであって、サンプル数を増やせば全部落ちるのだろうなということで、特定の属性が下がっているというよりは、もう全体的に下がっている傾向なのだろうというふうに考えてもいいのかなというふうに感じました。そういった意味では、構造的に低下傾向だというのはそのとおりなのかなと思います。</p>	和川委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>あと最後になります。前回つながりというのは、幸福と関係ないのではないかとお話もちらっとあったかなと思うのですけれども、私もそのときに反論したのですが、ソーシャル・キャピタルとここの地域社会とのつながりを同一として私は今まで捉えてきたところなのですけれども、若菜先生がお話しされていましたが、地域とかがつながりっていろいろあるよねと。最近サードプレイスという表現が出てきて、家族でもなく、職場でもない第三の場所、それは別に地域ではなくてクラブ活動だとか、そういったところをソーシャル・キャピタルとして幸福に影響あるのではないかというような議論も出てきていることを考えると、実はこれ一方でソーシャル・キャピタル、もちろんレンジでは重なるところあるのですけれども、必ずしも一致しないのだなというのを少し感じましたということで、前回ちょっと強く発言をしたのですけれども、そこを少し補足したいなと思います。</p>	和川委員
	<p>年代別、地域別の行動についてせつかく分析していただいたけれども、これぞというのは何か見えない感じですが、ただ、取りあえずR2からR3あたりの変化というのは、一旦はコロナということで説明はつくかと思えます。ただ、問題の1つは、それではコロナが止まったときにこの変化は元に戻るのかということです。これがきっかけになって、そのまま付き合いがなくなってしまうという危険性はないのかという辺りが1つのポイントだと思います。</p> <p>もう一つは、もっと大きなトレンドが何かあるのかという辺りです。</p> <p>ちょっとこの一連の調査を離れて、少し思いを巡らして見ると、震災以降やたら絆ということと言われるようになったけれども、口の悪い人は、それは昔しがらみと言っていた。それがやっぱり助け合わなければということになって、絆と呼び方が変わったという言い方をしている人もいました。かなり辛辣な言い方ではあるけれども、一面の真実はついているようにも思えなくはない。ということは、もしかして意識が絆的なものから、しがらみのような意識に変わってきている危険性はないのかという辺りが1つ心配されます。そうだと言っているわけではなく、そういうことがなければいいなと思っていますが、そういうのが1つ心配なところ、意識の問題だと思います。</p> <p>あともう一つ、もうちょっと具体的に物理的な話をすると、最近空き家が増えているので、そもそも知り</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	地域社会とのつながり	<p>合いが近所になくなっていくという可能性が大きいのではないかと思います。</p> <p>お亡くなりになるケース、あるいは御年になれば介護施設に行き、家からいなくなってしまうとか、何かそういう物理的な問題があれば分かります。こっちは意識の問題と違って何かしら調べる方法はあるような気がします。例えば、空き家自体がもう市町村レベルでは結構問題になってきています。だから、市町村が代行して取壊しをやっているところも出てきています。だから、それは調べる方法はあるようです。</p> <p>今のところは、何かそんなことしか思い浮かばない。つまり、何かいろいろ大きなトレンドがあるのだとすると、ちょっとそれは心配だなということ。コロナの影響というのは、あとはそれが収まったときに戻るかどうかというのは心配だけれども、それ以外のところでいうとトレンドの問題である。これは、結構しつこいトレンドになりそうにも見えなくはないので、ちょっとそこは心配しています。</p>	谷藤委員
		<p>今の谷藤委員の意見を参考にすると、近所の付き合いの傾向を見ると、やっぱり最小限の付き合いも含めると、どんどん全体的に厚みが増して、付き合いの人数も同じようにごく少数だけすごい厚みが出てきたような気がするのですけれども、それと比べて、では知人・友人との付き合いの頻度というところはあまり変化がないのです。知人・友人に関しては、そういうこともなくて、親戚・親類もそんなに変化がないので、やっぱり近所の付き合いの部分がもしかして。</p> <p>スポーツの活動を見たときでも、何となく多分ちょっと落ちてまた戻ってきているような気がする。ということは、そういうスポーツ関係のことでもないのではないかなという感想です。そんな感じが見えてくるのではないですか。ボランティア活動もそんなに変化はないのですよねということだし、あとは地縁的活動もそんなに変化はありますか。ちょっと一旦下がって戻ってきているというような気がするのですけれども。ということは、やっぱり近所。この辺のお話は、推測でしかないのですけれども、やっぱりこの地域社会のつながりを、場合によっては帰れなくなってきたというようにつながるのかなと思います。</p>	Tee 委員
		<p>ワークショップの結果について御報告があったわけですが、これから何か浮かび上がってくるような知見がもしあれば、それを入れるかどうかというぐらいのところはあるのかなと思います。</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	地域社会とのつながり	<p>ただ今後、特に「地域社会とのつながり」のところは、ちょっとデリケートだなと思って実は見ていました。というのは、トレンドとして長期的に下がってきているような、実感が下がってきているのでという話は何回となく出ていたところで、今回の一連のコメントを見ていると、その理由が何となく分かってきたような気がします。特に若い人たちを中心に地域とのつながりがなくなってきているというか、薄れてきているのは何となく見えてきます。ただ、問題は、ワークショップで回答している人たちのコメントを見ると、それを必ずしもネガティブに扱っていないのですよね。だから、ここの扱いをちょっと間違えると面倒くさいことになるなというのはちょっと今感じているところです。この後、来年度以降どうするかという話もあるので、実はそういう大きな枠組みの議論の中でこれは話していったほうがいいのかないかという思いもしています。</p>	谷藤委員
	地域の安全	<p>急に心配になったのは、ここ下がってしまうとあまりよくないのですよね。よくないというのは、全部よくないのだけれども、地域の安全性が脅かされているというのは、政策的にはそこを下支えしないと本来はまずいことで、そういう政策の客観的數字としては刑法犯の発生件数とか出ていると思いますが、そこはそんなに上がっていないはずなので、あと心理的に、意識の面で安全性がちょっと損なわれているという気持ちを持つ人がやっぱり一定数いるのだろうと思われる。でも、それが一体どういう方でどういう地域の方なのかというのがちょっと今見えないので、そこが見えてくるともう少し理由が分かるのと思いますが、現在挙げられている要因としては、自然災害の予防である社会インフラの問題と、もう一つは自然災害。交通事故は、極端に増えているとも思えないところです。</p>	吉野 部会長
		<p>「住まいの地域を安全と感じますか」については、実感の推移がジグザグしているのです。ずっと低下しているのではなくて、何かがあった年は多分落ちてというか、私の感覚はそんなに深刻なのかなと、そこまで深刻ではないのではないかと思います。</p> <p>私はこの分野に関しては先ほどの地域とのつながりと比べてずっと低下していないような気がしていますので、言葉悪いですけども、こっちはまだましなのかなと思います。</p>	Tee 委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>2016年の台風が来て、岩泉が大変な被害に遭ったときも、普段はあんなことが起こらないのにとみんな思っていて、そういったことが一回起こってしまうとすぐ不安感が高まるし、身の回りの安全と言われたら、うむということも起こると思います。犯罪の発生件数などだけでは分からないようなところもここは感じていらっしゃる方がいるのかなと思います。</p>	吉野 部会長
	<p>地域の安全の変動要因について、上位3項目はピックアップしている通りですが、実感が上昇あるいは横ばいの人に比べて、社会インフラの老朽化という要因が高いのが気になっている。基本的には3項目で統一されているが、実感が低下している要因として、これを入れても良いのではないかと思います。</p>	山田委員
	<p>先日、盛岡広域圏の経営会議があり、そこで土木部から地滑りなどの危険地域190箇所の予備調査をR3で目標値は全部終わって、2巡目に入っているとの話がありました。委員の中から、そういうところを選んである基準が本当に正しいのか、調査手法が適切なのかという意見が出ていました。こういったことを政策レベルに落とした時に、現場では危険箇所を期日までに何か所以上やるという目標を立てて頑張っているが、そもそもそれで安全性が確保できたと実感されるのかというと、この通り、特に高齢者の実感が下がっていると、調査していると言われても、現場レベルの頑張り方と最終的な県民の皆さんが安全になったという実感のキープがなかなか一致しないのではないかと思います。だけど、政策レベルでは、何を何箇所やったという出し方にならざるを得ないので、クリア状態だけでも人命の安全性をもっと高めようとしていますという話で悪くないのですけれど、県民の実感とはずれがある気がします。調査を何箇所やるということよりも安全性を高めることが実感できるような調査か、それを情報としてどう出していくのか。県民に伝わっていくような仕組みを作ることで実感をキープできるようにしていかないと、近年災害が頻発かつ大規模化していることは全国的に言えそうなので、それを放っておくわけにはいかない時期に来ているので、安全性を高める施策を現場に伝えて考えていただくことも大事かなと思いました。</p>	吉野 部会長
	<p>地域の安全を感じ取るということと言うと、R4では沿岸の方が少しずつ他の広域圏と近い形になってきているのは、いいことかもしれないと思ってみているの</p>	竹村委員

	分析の種類	提言等	委員
	地域の安全	<p>ですが、どちらにしても、H28 から R4 まで沿岸では安全を感じないという人が他の広域圏に比べて高くでているということです。安全を感じられるような施策を考えてみる必要があるというのを入れておいた方がよいのではないかと思います。沿岸は感じないという人のグラフが際立って多い、常に上にあるということを入れておいたほうがいいと思います。</p>	竹村委員
		<p>住民参加も重要であり、いくら供給側がいい情報を出していても、住民側があまり理解していただけないとなれば、あまり意味がない。どうやったら住民にわがこととして思ってもらえるかもとても大事だと思います。それがあつて、安全の実感も高まる可能性もあるのではないのでしょうか。</p>	吉野 部会長
分野別実感に係る変動要因の分析	仕事のやりがい	<p>今回気になっているのが仕事のやりがいが 20 代の方が結構下がっている。30 代の方もそうなのですが、あとは仕事のやりがいに対する、臨時雇用者の方が「仕事のやりがい」と「必要な収入や所得」で下がっているというのが属性のところではそうなのですが、「仕事のやりがい」の県民意識調査と補足調査の結果を見ますと、それぞれの数字が少しずつ下がっているように私には見えまして。非常勤の方も少しずつ増えていますが、こういったところがひょっとすると何かこの数年の影響なのか、コロナの影響ですとか気になりながら今回見ていたところです。というのも、たしかちょっと前の日経新聞に日本の仕事の関係として、例えば労働時間数としては少しずつ減ってきているということで、少しずつ労働環境としては改善の方向にいたるのだけれども、でも仕事のやりがいという面では、少なくともこれはいろんな国との比較ということでは低い傾向が続いている。私の記憶が正しければ、ですね。そういったデータを見たこともありまして。この 20 代の方、あと 70 代の方のやりがいというのは今回気になります。</p>	山田委員
		<p>難しいのですが、分野別実感の補足調査の方の集計を見ると、あくまでも印象レベルの話だが、仕事のやりがい、実感が上昇している人というのはあまりお金のことはっていないと思います。</p> <p>だから、ざっくり言って、お金をたくさんいただいているからやりがいがあるという回答にはなっていません。一方、実感が低下した人というのはお金の問題が出てくることになります。ということは、給料、収入についての一種の閾値みたいなものがあつて、そこを超えてしまうと、それはあまり気にしないよと。</p>	谷藤委員

分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	<p>仕事のやりがい</p> <p>ほかのことで仕事のやりがいがあるかないかという判断になるのでしょうかけれども、その一定ラインを超えられないと、給料や収入が大きなウェートを占めてくるということだと思います。</p> <p>だから、そこに意識が向かわない程度の所得というのが多分あるのだと思います。どうしても次の項目とも関わってきますけれども、一定の収入がないと生活自体が回っていかないので、そこを気にしなくてもよくなると、ほかのことに多分意識が向き始めるのではないかなと思います。</p> <p>人によってその水準は違うのかもしれないけれども、何か閾値になるようなラインがどこかにあるのかなと思って見ていました。</p> <p>あと、ここで気をつけないといけないのは、仕事していない人も結構いるのだということです。仕事をしていない人についてはちょっと割り引いて見なければいけないところがあるかなと思います。</p>	谷藤委員
	<p>今谷藤委員からお話のあったことを受けて、私からもちょっと気になったところをお話しますと、70歳以上で無職の方が結構多くなっています。そして、実は今回、年代別で70歳以上の寄与度は0.08なので、全体平均で0.12下がっているのですが、そのうちの0.08は70歳以上の人で押し下げているということになります。したがって、この人たちが答えなければ、もしかしたら横ばいだったのかなというぐらいの寄与度であるというのが1つです。</p> <p>そして、あともう一つは、補足調査の回答理由のと</p>	和川委員





	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	仕事のやりがい	で、大きな動きからすると実質的な収入・給料が問題にみえます。そうすると沿岸の方が高くなっていたり、それから臨時雇用の人たちが高くなっていたりということを考え合わせてみても、実際の収入が落ちてきたりなんかしているということがストレートに響いているのではないかと推察しました。	竹村委員
		私が知る限りですと、経年で毎年とっているデータというのが賃金とかそういうレベルはありますが、家計としてどうかというのは実はなくて、家計調査が一部あるが、あれもサンプル数少なくて非常に変動が大きいので、なかなか経年で見るには心もとないなという意味では、少なくとも私が知る限り毎年岩手県の家計の所得みたいなものはないかなと思います。	和川委員
		勤労属性に限った要因分析は今回得られた新しい知見なので書き込むべきだと思います。勤労属性に限ることで新しく浮上しており、実数としても53人の方が回答しているのであれば、実感が上昇した方の「職場の人間関係」とほぼ同じくらいの実数であり、これを無視するというのは良くないのではないかと思います。現実には有意な変化があった属性として、例えば60歳以上の無職というのが出てきており、こういった人たちの意見も入っているとなると、そうであれば、働いている人の理由はどうなっているのかは自然な疑問だと思うのです。それで分析してみると、新たな要因が出てきたというのであれば、それはやはり書き込むべきだと思います。	谷藤委員
		全数の比較を見ていまして、「収入・給料以外の待遇・処遇（休暇・手当など）」は、横で比較すると、ここは違う動きをしているので、これを特記事項として言及するのはいかがでしょうか。	山田委員
		横だけではなく、縦で見ても、将来の給料の見込みよりも現在の処遇、待遇を重視しているのが気になっており、そういう意味でも待遇に対する不満というのは結構大きいのかなと感じました。	和川委員
	必要な収入や所得	<p>前回上がって、今回下がったということについては、私は定額給付金の影響があるのだろうなと思っているのですけれども、それは何か客観的に確かめられるのかと言われるとちょっとつらいなと思いながら資料を見ていました。</p> <p>ただ、この点に関して1つだけ言うと、補足調査の収入階層の回答をみると、ここが前回に比べると間違いなく下方シフトしているなという印象があるので、そんなところから何かいずれ客観的に裏づけられるよ</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	うなデータをたどりながら多少なりとも推測を広げていかないと、何か読んで訴えるような分析にはならないだろうなと思っていたところです。	谷藤委員
		<p>補足調査のフェーズの部分で、先程、属性の部分で所得をとっているというお話がありましたが、100万円未満が今年20.4%の割合で回答者がいます。昨年調査ですとここが16.3%でした、4ポイントぐらい増えています。</p> <p>同じく100万円から300万円、今回50.3、ボリュームゾーンになる、50%ですが。前はここが48.7、1ポイント、2ポイント、ここはそれほどでもないのですが、いずれ300万円未満の人が今回70%だったのが64、大体5ポイントぐらい下振れしているという意味では、一つのデータとしては示せるかなと思います。</p>	和川委員
		<p>もう一つこの100万円未満というのは、あくまでも勤労所得だけではなくて年金等も含んだということになっているので、そうすると国民年金あるいは厚生年金でも基礎年金だけだとこの水準に入ってくるのですよね、100万円超えませんから。</p> <p>だから、ここ補足調査の方はじわじわ増えているかもしれない。あと厚生年金を普通にもらっていれば、多分次の100万円から300万円のランクに入ってくると思います。</p> <p>ですから、この辺が非常に多いと、両方を合わせて大体7割ぐらいになりますから、非常に多いので、この先これがまたどう推移していくのかというのはちょっと注目して見ていかなければいけないかなと思うのです。一方で、私はこれが定額給付金の影響で一旦減ったものがまた元に戻ったと見ており、ただ一般的な傾向として自営業者や臨時雇用者の実感が下がっているというのは、特にコロナの影響で飲食店主はほとんど自営業者ですから、そもそも仕事ができない。あるいは臨時雇用者もそういう飲食店でのパート、アルバイトだとそもそも仕事がない。そういうことがあって、手取り収入が減っているのだらうと思われま。あくまでも思われるで、具体的に何か統計データなり、把握しているわけではないのですが、これはある意味分かりやすい結果が出ているかなという気はしています。</p> <p>あと、さっき仕事のやりがいが出ましたけれども、沿岸のところは、広域圏で沿岸だけが下がっていると出ているのですが、これも推測の域は出ないのですけれども、復興需要が減ってきているというのがあるのだらうと思います。</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>さっきの仕事のやりがいで沿岸の回答理由を見たとき、沿岸の一番最後のところにあったかと思うのですが、「あまり感じない」、「感じない」の回答が一番多かったのが現在の収入・給料の額です。サンプルが少ないので、あまり断定的に言うわけにはいかないのだが、ほかと比べても次の6番の将来の収入・給料の額の見込みも割と高くなっています。あと4番の業務の量も。</p> <p>あと13番の失業・倒産・廃業等のリスクというのは、これもサンプルが少ないので、割合が高いからどうだと言いつけるのはちょっと抵抗あるのですが、ただ割合だけ見ると、ほかの属性に比べてもちょっと高めにしています。だから、復興需要はもうどんどん減ってきて、いずれ無くなるであろうというのはもう分かっていることなので、その辺の不安感あるいは現実に収入が減ったとか、そういうことが出ているのではないかなど、ちょっとそこは懸念して見ていました。</p>	谷藤委員
		<p>谷藤委員の意見にすごく賛成していて、分野別実感の実感平均値の経年変化を見ると、R3が突出して高い。R2は戻っているということです。だからここは全ての実感の中で一番低い実感ですごく気にする必要がありますけれども、すごく落ちたという感じでもないのですよね。R3の方がちょっとおかしいというぐらいです。そんな感じがしまして、ということは沿岸でも多分これまでに復興需要があつて、それが落ち着いてきて、給付金とか出てきたのはR3でしたかというのがある、またR2に戻ったと思います。</p>	Tee 委員
		<p>これ見たら60歳未満の無職の方というのはえらく低いのですよね、1点台です。60歳未満で無職というのは、いろんな理由で仕事に就けないということですかね。そういった方々が生活していく上ですごく実感としては低く、ほかのところと比べてもかなり低いですから、いわゆる社会的な補償とか支援というのが届いていないというようなことでしょうか。確かに60歳未満で無職だとつらいと思いますよ。つらいけれども、そこを何とかバックアップするような社会保障という制度が本来あるわけですよね。だけれども、それを実感できないということなのか、これだけ低いというのは。あるいは、もともと補償がないということですかね。例えば、普通であれば雇用保険で一定期間は所得の補償、補填しますというのだったり、件数がすごく少ないというか、認定が厳しいから取れないこともある生活保護、当然最低限の生活は保障できるぐらいの政策は打っているとなってますし、あるいは雇用を</p>	吉野 部会長

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>職業紹介のような形でなかなか見つからないのかもしれないけれども、出していますということも政策的にはこれみんなやっている話だと思うのです。でも、60歳未満で無職になるとがくと実感が落ちるというのは、働いていた頃と比べてしまうからこういうようなことになるのですか。低過ぎという気もしないでもないです。何か実感できるわけではないよというような厳しい御意見が多いから、多分1と2の間だよ。1とか2ばかりで、2がちょっと多いぐらいですよ。せいぜい3点ぐらいにならない、もともと2.幾つしかないから、もともと2.幾つしかないのだから、全部低いのだと言われたらそうですけれども、2ぐらいにはならないのかなという気もしないでもないですね。ほか2を超えていますので、低いと厳しいですねというのはあるけれども、1点台というのは参考値だから、数が少ないということですよ、64だからね。こういうものね。もしここが64人でなくて、県民の中でこういった方々が実数として何万人ということになるはずですよ、きっとね、幾ら少ないといたって。そうすると、何万人という方がこういった感覚をお持ちなのかもしれないとなると、仕事ある人も大事だけれども、仕事がない人もちょっとここ何とかならないのという気がしました。</p>	吉野 部会長
		<p>確かに2019年、平成31年の基準年が前の年に比べても0.2ポイント上がっているのです。これは令和2年から令和3年への動きと遜色ないぐらい上がっているのです。インフラや観光の可能性というか、期待感が高まって、実感レベルで得られているという、所得、収入が得られていると、これは0.2ポイント上げというのは容易じゃなかったはずなので、かなり上がりました。この調子でいけば今頃3を超えているはずなのに、そうはならない、世の中。</p> <p>今後これ要因を分析したとして、解明したとして、実感を高めるということはどうするのですかね。でも、それで政策を打つということにつながっていきますので、実感を高めるために効果的な政策を厳しい予算の中で何かに重点的に配分をしていくという政策の選択肢を決めるための一つの判断材料にはなると思うのですけれども、ちょっと状況厳しいですよ、今ね、給料上がらないのに物価上がっていると。</p>	吉野 部会長
		<p>具体的に2020年、2019年あるいは2018年に何があったかというのはぴんと来ないところもあるのですけれども、今Tee先生からお話あったけれども、三陸縦貫</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>道とか横断道の高速道路なども 2019 年を目安にして整備が進んでいったというのがあり、また内陸ではキオクシアの工場が建つとか、いろんな動きがあって、そういう土木建築系の工事があるとかなりのお金も動くし、人も使われるのですが、問題はそれらができた後、それを活用して経済活動なり産業活動が活発化するかどうかというあたり、これが問題なのです。そこがうまくいかないと経常的に賃金にはね返ってくるという動きがつかれないので、だからそこはこれからの課題なのだと思います。</p> <p>あと、先行きのことで言うと、部会長からもしばしば御指摘ありますとおり、今非常に物価が上がり始めていて、世界的に見ても日本はまだあまり上がっていない方で、アメリカなんかは大変なことになっているわけです。大きなトレンドとしては、この先物価の上昇、インフレとあと金利の上昇がこれセットで来ると思っているのであればいけないので、そうすると個別の企業の立場で言うと、支払利息が増えてくる。なので、話がわき道にそれますけれども、私が個人的に今非常に心配しているのは、金利が上がるという局面を経験したことがない人が、今現役世代のほとんどなのです、銀行員も含めて。</p> <p>平成のバブル崩壊以降、金利がどんどん低下してきてゼロないしはマイナス金利になっているので、トレンドとして言うと 30 年ぐらい下がっている。だから、今の現役の銀行の支店長クラスでも金利が上がるという局面を経験していない。</p> <p>何が怖いかというと、本当に金利が上がるといういろいろなコストが上がっていくということなのです。だから、企業業績を圧迫されて、賃金にネガティブにはね返ってきます。これ非常に怖いことで、一旦上がり始めると 1%、2% 上がって終わるということは普通ないので、正直どこまで上がるか私は怖いなと思って見ます。</p> <p>これは、県でも同じことです。県でも当然毎年借金するわけなので、既存の借入れは多分固定金利だろうけれども、これから借りる分は上がっていくのですよ。銀行も銀行で金利引き上げれば収入は取れるかもしれないけれども、購入している有価証券の評価損という問題が出てくるのです。だから、あらゆるところにいろんな問題が噴き出してくるのです、金利が上がり始めると。そうすると、世の中それだけ混乱して景気が悪くなる、そういう心配を今私はしています。</p> <p>だから、話があらぬ方向に飛びつつあるのですけれ</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>ども、この先非常に大変な状況になるなど個人的には思っています。</p> <p>それに輪をかけてというか、食糧難がさきやかれ始めているというか、NHKでも取り上げるぐらいになってきましたからね。これいろんな要素があって、ロシアのウクライナ侵攻もそうなのですけれども、それで現実的にウクライナから輸出できないというのが現象としてはすぐ見えることなのですけれども、今一番底辺にあるのは肥料不足なのです。肥料が世界的に足りなくなっていて、物すごく値上がりしています。多分絶対量足りないので、作付けできても収量が下がるという状況が起こる可能性があります。そこにもってきて、今度はラニーニャどうのと言っていますので。</p> <p>ですから、日経の特集などでも書かれていたけれども、この先食糧が全体的に不足する可能性が出てくるのです。今我々が食べている食糧というのは去年取れたものですから。今年果たしてどれだけ取れるのと。平成5年の米騒動、あのときは大凶作だったのですけれども、米が足りなくなったのは平成6年なのです。だから、この先本当にいろんな悪い条件が重なってくるなどと思って、非常に私は怖い思いでいます。</p> <p>それが翻って必要な収入・所得というところの実感にはね返ってくるのではないかとこの心配はしています。だから、来年2月の調査は本当にどういう数字が出るのだろうと、今から心配です。</p>	谷藤委員
		<p>県庁でも多分そういう議論されているはずで、実感よりも実態ベースとして経済をどう回すのだと、食料をどうするのだということが多分1年遅れで実感に反映してくるということが起こりますね。上がっているときは給付金だけだからよかったけれども、今回そういう一過性のものではないだろうと。せいぜいコロナが収まったとして、経済活動の回復で相殺できるかということですかね。だからこそ、今は経済止めないでコロナの中でもいろんなことをやると。</p>	吉野 部会長
		<p>今言ったことのほかにもう一つあるのが、サプライチェーンの混乱、これまだ続いていまして、製造業でも物が手に入らないという状況は必ずしも好転はしていないです。物流の混乱で、なかなか部品が手に入らない。よく製造業の世界では言うのですけれども、例えば自動車は3万点ぐらい部品を使うといいますけれども、一つでも部品が欠けたら自動車は完成しないということがよく言われます。だから、ちょっとでもボ</p>	谷藤委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	トルネックがあると、途端に全部会社の操業が止まってしまうということが起こる。だから、今いろいろ見ているあまりポジティブに考えられる要素が少ないなどと思って、見れば見るほどネガティブな要素が出てくると、そういう状況になっているなどと思っています。	谷藤委員
		自動車産業だって、今電気自動車にシフトすることになりそうですけれども、電気自動車にシフトしてしまうと、実は雇用が30万人減るだろうと言われてます。30万人減少するというのは、炭鉱を全部やめたときに匹敵する人数だと言われていて、日本がエネルギーを石油に変えたときに炭鉱をどんどん閉鎖したわけで、あのときはかなり混乱がたかさん生じて、仕事をシフトしなければいけないのだけれども、なかなかうまく回らないと。経済が炭鉱町だったところはがくと景気が悪くなったということを経験しているけれども、人数的にあのぐらいの人数の離職者が自動車産業から出るというのが大体予測されていて、そうするとエンジン要らないからね。そういった方々への転職の訓練であるとか、機会をあらかじめつくっておかないと、電気自動車をつくるのはいいけれども、自動車産業でかなり裾野の広い人を支えている、岩手県なんかは特にそうだと思うけれども、現行で今谷藤委員がおっしゃったうまく仕事が回らないということと、近い将来を見ると離職者の補償をどうしていくのかということもあって、決して楽観できない、ここは。電気自動車はいいことというか、進めざるを得ないわけだけれども、工場も更新できるけれども、人が要らなくなるというのははっきり分かっているということで、中長期的にはそっちの方がかなり打撃としては大きいかなと思うと、岩手県の産業構造がかなり自動車に重きを置いてきた中でどうしていくのかなということ。無責任なことは言いませんけれども、あらかじめ考えておかないと、実感が出てからでは遅いかなというのがひとつあります。	吉野 部会長
		資料の中で男性の必要な収入や所得の実感というのが非常に下がっているということについては分かるのですが、どうして女性の方では下がっていないのか。 それこそ臨時の雇用の問題で、女性のパートは時間が限られてしまって、結果として収入が落ちてくる。必要な収入が得られないという実感というのは、女性の方が大きく出るとか思っていたのですけれども、それは出ていないというのはどうしてなのかなと。出ない方がいいのですけれども、でも果たして出ない方が本当にいいのか。その点が気になりました。	竹村委員

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>今のお話を聞きながら、確かにそうだなと思ったのですけれども、家族がいる女性が多いなら、自分だけが収入を得ている人ではない調査対象者が中心になっているのではないかと思うのですけれども、これとは別にシングルマザーの収入の問題は、全国だと非常に困窮の度合いが他のデータよりは高く出たりするという、社会問題がありますので、そのところを今回はとれていないというか、そもそもとっていないわけです。ほかのデータと比較してみて女性があまり低くなかったということがシングルマザーの困窮がなかったという話ではないということにはちょっと確認しておいた方がいいかなと思いました。臨時雇用の人たちが高かったり、政策の問題としてはちょっと確認しておいたほうがいいかなと思っています。</p>	竹村委員
		<p>令和3から見れば下がっていますので、女性の方にもかなり影響は強かったとは思える。ただ、シングルマザーであるとか、未婚の女性だけ、取り出してそこがどうなるかというのはちょっとデータがないので、ちょっと確証はとれないけれども、女性も男性も影響を受けているなという感じはすると。去年に比べれば確かかなと、特に去年は給付金があった分上がっているので、そこから逆に給付金がなくなって、きつくなったと考えればどうしても下がりますよね。</p> <p>これについては、本来であれば下がると推測して、そしてこれに対して有効な手立てを今度打っていただく資料になるということなのだが、コロナのような短期的かどうか分からないけれども、この時期に急に出てきた問題と、それから気候変動や国際情勢やいろんな要因はあると思うけれども、景気というか、経済の動きが、物の流れも含めて今後あまり楽観できない。中長期で考えて、我々は中長期で議論するような必要はないのかもしれないけれども、政策としては4年パッケージで組むはずなので、仮にこの4年間だけ見てもよくはならぬだろうというような感覚があるので、構造的な要因を少し緩和するような政策にしないと、カンフル的なことでやっても一時しのぎにしかならないかもなという感じを受けたので、その辺構造的要因と突発的要因に仕分けしながら、ここは書き込むなり、より考えを深めるなりしていきたいと思っています。</p>	吉野 部会長



	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>今回の資料見ていて面白いなと思ったのは、可処分所得毎の実感平均値の推移です。これを見ていると、事務局からの説明がありましたが、300万円以上500万円未満のところから3を超えているというのは、過去の調査でも同じ傾向があるということで、この辺、政策的に目指すべき何かラインがあるのかなというような感じもしています。100万円未満と300万円未満のところの回答者が圧倒的に多いということもあり多くの方がそのラインに達していないわけですが、いずれこの300万円以上のところに何かしらのラインがあるように見えます。</p> <p>もう一つは、今回1,000万円以上の実感平均値が下がっているのです。これサンプルが少ないから確かなことは言えないとは思いますが、ただ過去の例を見ても、R3、R2だと700万円以上とかは下がっているのかな。下がったり上がったりということで、この辺あまり安定した動きになっていないのですが、いずれにしても、必ずしも上がっていく一方ではないというのがある程度出てきたかなと思って、そこはちょっと興味ひかれたところでした。</p>	谷藤委員
		<p>関連的なことを申し上げますと、令和3で実感平均値がちょっと上がったが、それを可処分所得のゾーンで見ると、令和2から令和3にかけて実感平均値が上がったのは300万円未満のところは一時的に上がったのが、令和4でまた下がっています。それより収入の多いゾーンは、そんなに令和3年顕著に上がった数字ではない。むしろ下がったところもあると考えると、去年上がった理由として一時的な給付金の効果があるのではないかという説を去年もちょっと議論したが、効果があるとしたら、これは多分所得水準が300万円以下の人たちには一定程度の効果があったのではないかと思います。ただ、高額所得というか、一定程度の所得を持っている人たちには、全体でもらえる金額が10万円とか30万円ぐらいだったと思うので、人によってだけれども、全体に占める影響力なんかも落ちているので、収入がたくさんある人たちにとってみれば、そんなにこれでもって実感が得られているというところまでは到達していないのではないかとも見えます。ですので、やはり一時的な所得によって実感が上がるゾーンもあるということも、こうやって見ていくとある程度分かるのではないかなと思います。</p>	吉野 部会長

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	この年齢は本当に関係ないのだなど。これまで自分でも多分年齢は関係ないと思っていて、必要な収入を得ているということには、ほとんど年齢は関係ないですねということが分かったのだなど。若くても、自分は今十分もらっていると思っている人がいる一方、そうではない人もいるし、年配の方でも同じような傾向があるのかなというのは、ちょっと補足調査ではあるのですけれども、こういう私の思っていた感覚と一致したかなというのはちょっとありましたけれども。	Tee 委員
		私もちょっと違った解釈をここでしまして、一方でパネル調査の方では、所得と実感はそれなりに関係性があるのではないかというのが見えていたので、逆に年齢と実感は関係ないというよりも、年齢と所得の方が実は我々の感覚でいくと、年齢が高ければ所得が高いという認識があったけれども、実は年齢と所得は関係していないのかなと。だから、結果として年齢は実感と関係性がないという流れかなと一応感じている。	和川委員
		ここは多分「必要な」という枕言葉がついているので、入りと出の両方の感覚から来るところはあると思う。人生のステージにおいていろいろ必要になるお金の額は変わっていく。例えば20から29歳というのは、多分まだ独り者の人が多くて、もらったお金は全部自分で使う。それが30歳以上になってくると、例えば結婚して子供が生まれて、その教育費がかかるとか、家どうしようとか、老後になってくると老後資金2,000万円問題なんてあったけれども、そのお金の準備どうしようとか、ライフステージに応じていろいろ出ていく方のお金、あるいは出ることが予想されるお金の問題というのが入ってくるので、両方見比べてみないといけないのかなと感じている。	谷藤委員
		常に今本調査の方が確かにここが一番低いので、何とかしないといけないが、個人的には、では年齢に注目すべきなのかといったときに、そうではないよねというのが1つあって、ではそれ以外にどこかなというのは、多分どちらかというところだと臨時雇用者の方が、先ほどちょっと話題に上がっていたみたいに、そこかなと思っただけなんですけれども、でも部会長言うように、全体的にここは常に低いので、あとは県庁に頑張ってもらわなければならないと思います。	Tee 委員
		なかなか解釈難しいところなんですけれども、年齢層に従って必要となる所得や収入額は当然変化するので、それに見合ったような収入、所得がなければ、当然幾	吉野 部会長

	分析の種類	提言等	委員
分野別実感に係る変動要因の分析	必要な収入や所得	<p>ら年齢が上がったとしても実感平均値の差に即反映されることはないだろうなということですね。</p> <p>あとは、では絶対的な基準がないとはいえ、一応年齢、収入階層で見れば300万円を超えた人たちは3を超えるという数字は大体出ているので、一定程度の目標は300万円ぐらいの所得が年間であれば500ぐらい。というのは、それが臨時雇用であれ、正規雇用であれ、要するに同一労働同一賃金みたいな話になれば、きちんとした報酬が得られるような社会に持っていく必要性はあると思う。その場合、時間雇用で考えれば、どうしても日本の場合は最低賃金というラインが出てくるはずで、その最低賃金のラインが大体今1,000円前後と言われているが、1,000円だと300いかない。もし8時間で労働して、週40時間労働をすると1週間4万円ぐらいなので、4週間で12万円ぐらい。そうすると、12倍したとしても244万円だから、300に届かないので、これから1.5倍で1,500にすると、300は超えるぐらいにはなるだろうということ、どのぐらいの最低賃金が必要なのかというときに、それは実感として十分に生活ができるというようなレベル感に達するとすれば、ずばり幾らと言いたいけれども、最低賃金の引上げというのは、こういった面からもやっぱり必要ではないかと思われる。</p>	吉野 部会長
		<p>今時給の話になっていて、それについては異論を唱えるものではないが、非正規雇用の人たちの収入は、時給掛ける労働時間数なのです。今回コロナでシフトが減る、要は働きたいが、働く時間を確保できないという人たちも少なからずいたのではないかと。だから、両にらみの対策が必要だということを意識していただきたいと思う。</p>	谷藤委員
(追加分析1) 幸福実感の推移		<p>4年間のトレンド分析をするところであるので、これまでの議論の当該年度と基準年を比べてみたという、つまり年次レポートとはちょっと作る目的が違う、4年間で見てどうだったかというよりは、これはこれで必要は必要だと思うので、作ること自体はいいかなと。切り分けをはっきり出さないと、結果が違うではないかと言われてもちゃんと答えられるようにしておかないといけないということでしょうか。そのために、だから2時点比較はしない方がむしろ整合性が取れているということですかね。多重比較の方がいいのではないかということ。</p>	吉野 部会長 (Tee委員、和川委員)
		<p>より厳密な分析で正確な結果を得るための調整をしているということをやうまく書いて欲しい。そうしないと、調整してお手盛りではないかというのは、ちょっと嫌です。トレンド分析のためにこういうことを</p>	吉野 部会長

分析の種類	提言等	委員
<p>(追加分析1) 幸福実感の推移</p>	<p>したのだというふうに。ですから、ここは4年間も見ているということをやっぱり前面に出すという意味で、分析手法あるいは記述の仕方もそれでいいということと、8年間データ持っているのだけれども、4年、4年で区切っていますよということも結構大事で、8年連続では見ていないので、アクションプランの4年間の動きをまず中心には見ていくけれども、その前にもデータを持っているので、そちらも比較で見ていくと。H28年以前はないでいいのか。データがないというか。これは、実は書いていないのだけれども、県民意識調査もやっているの、前々からずっと。なのだけれども、幸福度に関する調査項目を入れ始めたのが平成28年以降の話であって、県民意識調査は急に平成28年から始めたわけではないので、県民意識調査はもっと前からやっているよと、ちゃんと書いてくれよと言うかもしれないので、県民意識調査は昭和何年ぐらいからやっているけれども、平成28年からこの調査項目を入れて分析ができるようにしてあるというふうに言った方が親切かなと思った。</p> <p>それは、やっぱり狙いとしては県民意識調査の結果をきちんと活用する、政策に活用するような方針があるというのが大事で、今まで調査結果は調査結果であったけれども、それは政策でフィードバックするような流れはそんなに強くはなかったかもしれないが、やっぱり平成28年以降、特にこのアクションプラン以降は、調査結果が政策評価にフィードバックされるような体制もつくってあるし、またこれを多角的に検討するようなクロス・ファンクショナル・チームというような県庁の仕組みを変えているという意味で、やはりこのデータに基づいた政策評価、あるいは次の政策推進をかなり意識的に進めているために、こういった4年間の結果をトレンド分析をきちんとやって、政策の向上に生かすためにやるというのは何かあった方がいいのではないかなとちょっと感じた。やっている人間は、もうよく知っている話なのだけれども、初めて聞いた人からだと、ではこんな調査は全然やっていなかったのかと。いや、そんなことない。ずっとやっているのだけれども、残念ながらあまりその結果をばしっと使うことはしていなかった話だと。</p> <p>さらに、幸福に関する調査項目を入れているというのはかなり新しい発想で、他県とはちょっと違うところがあって、単なる意識調査だけではないですよということも入れた上で、この4年間を総括するといった方が、それも以前はやらなかったのかと言われると、</p>	<p>吉野 部会長</p>

分析の種類	提言等	委員
(追加分析1) 幸福実感の推移	<p>以前はやっぱり違うのですと。この4年間で大事なのですというようなことも入れてあげてほしいなど。そうしないと、分析対象いつも5,000人というのは、これいつからと書いているので、平成28年から5,000人なのかと言われたいよね。</p>	吉野 部会長
	<p>去年のこのレポートの流れが分野別実感と、ではコロナの影響があったという人もいたが、実はコロナの影響が悪いといった人を見ても実は悪くないよねと、そういったところから一定程度の関係性が見られないよねという議論はしたかなと思うが、去年に比べると結構悪い、よくない影響を感じる人といった人は分野別実感も去年から見ると低かったり、よい影響を感じる人とは去年に比べて結構あって、去年よりも結構この傾向が変わってきているかなという気が見ているのが1つ。</p>	和川委員
(追加分析2) 新型コロナウイルス感染症の影響	<p>(10) 必要な収入や所得がかなり違う。実感平均値1.96とか、影響を感じない方と比べて大分違うのも一つあるし。これ、何となく去年と違う感じがして。何かすごく違ってきているなどというのは、1点としてちょっと感じました。分析を深めていくかどうかは、このレポート、ここの部分はどういう目的で何を、去年も大分議論された。うちの部会はこれがメインではないよねという、大分さらっと行きましようというのも共通認識あったと思うのですけれども、今回はどうこの部分を考えるかによって、深堀りするべきかどうかは決めていくべきではないかと思いました。</p> <p>それから、示した資料、さっきの感染の状況、3ページ、これを見たときに、去年は出ていないので、かなり皆さん神経質になっているのではないかなとちょっと思っていて、大分全国並みになってきたねというような安心感が出たのではないかなという、すみません、ちょっと変な考えかもしれないけれども。ですから、よくない影響の方は下がっていて、どちらでもないとかよい影響の方は、みんな落ち着いて考えるようになってきたのではないかなと、ちょっと何の根拠もないのですけれども、そうではないかなと思います。</p>	Tee 委員
	<p>「分野別実感」と「新型コロナウイルス感染症の影響実感」のクロス集計結果を見ると、令和3年は分野別実感が「感じる」、「どちらともいえない」、「感じない」のいずれの区分で見ても、新型コロナウイルス感染症の「良くない影響を感じる」と回答している人が半数近くいて、「良い影響を感じる」という人は低いという結果だった。ということは、分野別実感どれであっても、新型コロナウイルス感染症の「良くない影響を感じる」というのが圧倒的だった。ところが、令和</p>	竹村委員

分析の種類	提言等	委員
	<p>4年になると、分野別実感の「感じない」の部分で見ると、新型コロナウイルス感染症の「良い影響を感じる」人ではどちらも上がっていかなくて、令和3年と同じように、「良くない影響を感じる」人はもっと多い6割程度になってしまっており、圧倒的となっています。ところが、新型コロナウイルス感染症の「良い影響を感じる」人で、分野別実感が「感じる」人については、令和4年では、新型コロナウイルス感染症の「良い影響を感じる」人も、「どちらともいえない」人も、「良くない影響を感じる」人も平準化している感じである。「良い影響を感じる」人が確かに一番多くはなっているが、「どちらとも言えない」人とほぼ同じくらいの比率である。3割くらい。だから、前から分野別実感を「感じない」人たちは動かなかった。令和3年と4年については実感が動かなかったけれども、分野別実感を「感じる」人たちは、良い影響を感じるようになったのではなくて、むしろ「どちらともいえない」に平準化していつているというふうに私は見ました。</p> <p>それについて、子育てについても同様の傾向があって、令和4年の方の分野別実感が「感じる」の方は、コロナの実感について26.2ポイント、21.0ポイント、24.4ポイントとほぼ同じ。その意味では、もう3割したというような、平準化したというか、どこも同じように入ってくるというようなところまで上がってきた状況ではないか。だから、上昇、下降というだけで見ると、確かに上昇なのだが、むしろ良くない影響、あまり分野別実感を感じていない人の良くない影響というのは収まらなかったけれども、分野別実感を感じている人については上昇なのではなくて、平準化して3つの状況に均等に分かれるようになっていったというふうに読んでいます。</p>	竹村委員
	<p>ちょっと私は皆さんと違う観点で見ている、まず去年の議論を思い返すと、コロナの影響を悪く受けているという回答がこんなに多くて、どうして実感にあまり影響しないんだという議論がたしかありました。そのときに、回答者が自分自身への影響ということではなくて、世の中全般への影響と考えて回答している可能性があるのではないかという議論があって、今回令和4年調査では、世の中全般への影響ではなくて、あなた自身の実感にどう影響していますかというのを答えてくださいと質問の仕方ちょっと変えました。この影響、私は少なからず出ていると思っていまして、例えば端的に言うと、令和3年、要するに去年の分析の数字を見ると、各分野でどちらとも言えない、影響を</p>	谷藤委員

分析の種類	提言等	委員
	<p>感じないを基準として見たときに、良い影響を感じるの方が実感平均値高いのはそうなのですが、良くない影響を感じるの方が実感平均値高いところも6つあるのです。上から見ると、「心身の健康」、それから「子どもの教育」、「地域社会とのつながり」、「仕事のやりがい」、「歴史・文化への誇り」、「自然のゆたかさ」、これらは良くない影響を感じるの方がどちらとも言えない、影響を感じないよりも実感平均値高いのです。だから、これあなたへの影響ですかというのではなくて、やっぱり世の中への影響と思っている人が結構いたのではないかなと思うのです。</p> <p>それが今回は、そういう逆転が起きているのが2つしかなくて、「地域社会とのつながり」と「歴史・文化への誇り」か。だから、今回の方がより我々が意図した調査の結果というか、調べたいと思っていたことの結果が出ているのではないかなと思って見ているのです。</p> <p>そう思うと令和3年、令和4年の比較をするときに、あまり統計的ながちがちの分析やっても、かえって間違っているのではないかなという、ちょっとそういう心配をしています。だから、あとは、こういう言い方をしているかどうか分からないけれども、数字は数字として、行間の解釈を教養と常識でやるしかないと思っているところです。</p> <p>あと、個別のところでは気になったところというか、注目したところは、ティー先生からも御指摘ありましたけれども、必要な収入や所得のところの良くない影響を感じるの1.96という数字、これがやっぱりちょっと気になるところです。ちなみに、令和3年調査では、そこが2.51なのです。相当悪化していると。さらに言うと、この必要な収入や所得のところ、良い影響、悪い影響はそれぞれの実感平均値の乖離が大きいのですよね。</p> <p>だから、特にどちらとも言えないを基準にして見ても乖離が大きい、一番乖離が大きいのではないかな。そうすると、ここはいろいろデータとかを見ながら、特にどうしても非正規の人たちへの影響も大きいのではないかなと想像される場所であるので、そこはちょっと注目したいなと思っていました。</p>	谷藤委員
	<p>今回こういった追加で分析をする必要があるかどうかというのは1つポイントで、そしてあとしなければならぬところなのかなと思っていました。追加の分析は必要ないだろうというのは、今のお話で、雰囲気では分かったので、私もそれでいい</p>	和川委員

分析の種類	提言等	委員
	<p>かなと思いますし、あとR3の表現をどうするか、R3とR4の違いをどう説明するかということだと思えますので、あるいはR3を別途比較しないで、参考みたいな形で分離するのかなとか、あとは表現の見せ方の違いで変えればいとお話なのかなと私も思います。</p>	和川委員
	<p>「あなたは」という文言を入れるだけでかなり変わると。私的には、確かにこれはもう令和3年度と文言が変わったので、比較はしない方がいいと思う。比較してはいけないと思います。したら多分変にひとり歩きするので。</p>	Tee 委員



岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」  
令和4年度年次レポート（案）

発行 令和4年〇月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

## 県の施策に関する県民意識調査（補足調査）の見直しについて

### 1 見直しの考え方

- (1) 今年実施した設問を基本とするが、分野別実感の変動をより適切に把握するため、必要に応じて修正する。
- (2) 今年の調査実施以降の社会経済情勢等を踏まえ、「回答理由と関連の強い要因」の選択肢について関係部局に照会し、必要に応じて修正する。
- (3) 分野別実感に係る「新型コロナウイルス感染症の影響」の設問については継続する。

### 2 変更案

#### (1) 設問等の追加・削除

- ① 分野別実感において、「回答結果と関連の強い要因」の設問の下に自由記載欄を追加。

<b>(12) 自然のゆたかさ</b>					
① あなたは自然に恵まれていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。					
感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0
② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。➡ なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。➡					
要 因➡					
1 緑の量(豊か・少ない)					
2 空気の状態(綺麗・汚い)					
3 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)					
4 海の状態(綺麗・汚い)					
5 多様な動植物の生息					
6 公園・緑地、水辺などの周辺環境					
7 自然(山・海など)と触れ合う機会					
8 地域での自然保護活動					
9 自然に関心がない					
要因の番号➡	具体的な内容➡				

} 新規追加

② 余暇時間の内訳を把握するための設問を問6として追加（新規）

**問6** あなたは、昨年同時期に比べて、以下の行動にかかる時間が変化していますか。近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	増えた	変わらない	減った	少しづつ減った
学習・自己啓発・訓練（学業以外）	3	2	1	0
趣味・娯楽	3	2	1	0
スポーツ	3	2	1	0
ボランティア活動・社会参加活動	3	2	1	0

③ 次年度以降の調査協力の意向確認に係る設問の追加（新規）

**問8** 現在、県では「いわて県民計画（2019～2028）」の第2期アクションプランの策定を進めており、その推進に当たっては、これまで同様に、県民の皆様のご意見を政策に反映させていきたいと考えていることから、来年以降も本調査を継続する予定としています。

つきましては、今回調査をお願いしている皆様には、ぜひ継続して調査にご協力いただきたいと考えておりますので、今後の調査協力に係るご意向について、下記によりご回答ください。

- ・ 来年度以降も本調査に協力していただけますか。  
該当する番号に○をつけてください。

協力してもよい	どちらでもよい	協力したくない
1	2	3

（注1） 「協力してもよい」とご回答いただいた方については、基本的に継続して調査にご協力いただきたいと考えておりますが、調査対象者のバランスを確保するため、年代や地域といった属性による選定の結果、調査対象者とならない場合があります。

（注2） 「どちらでもよい」とお答えいただいた方については、調査対象者のバランスを確保するため、年代や地域といった属性による選定の結果、改めて調査へのご協力について御依頼させていただく場合があります。

④ 重要度・満足度に係る項目の削除

(2) 「回答理由と関連の強い要因」の選択肢の追加

旧	新																	
<p><b>(7) 地域社会とのつながり</b></p> <p>② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。          なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">要 因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 その地域で過ごした年数</td> </tr> <tr> <td>2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)</td> </tr> <tr> <td>3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)</td> </tr> <tr> <td>4 学校・子ども会の活動への参加</td> </tr> <tr> <td>5 隣近所との面識・交流</td> </tr> <tr> <td>6 その他( )</td> </tr> </tbody> </table>	要 因	1 その地域で過ごした年数	2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)	4 学校・子ども会の活動への参加	5 隣近所との面識・交流	6 その他( )	<p><b>(7) 地域社会とのつながり</b></p> <p>② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。          なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">要 因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 その地域で過ごした年数</td> </tr> <tr> <td>2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)</td> </tr> <tr> <td>3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)</td> </tr> <tr> <td>4 学校・子ども会の活動への参加</td> </tr> <tr> <td>5 隣近所との面識・交流</td> </tr> <tr> <td><u>6 趣味・スポーツなどを通じた交流</u></td> </tr> <tr> <td><u>7 民生委員や見守り活動を行う方等の訪問</u></td> </tr> <tr> <td><u>8 地域社会の身近な情報に接する機会</u></td> </tr> <tr> <td>9 その他( )</td> </tr> </tbody> </table>	要 因	1 その地域で過ごした年数	2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)	4 学校・子ども会の活動への参加	5 隣近所との面識・交流	<u>6 趣味・スポーツなどを通じた交流</u>	<u>7 民生委員や見守り活動を行う方等の訪問</u>	<u>8 地域社会の身近な情報に接する機会</u>	9 その他( )
要 因																		
1 その地域で過ごした年数																		
2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)																		
3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)																		
4 学校・子ども会の活動への参加																		
5 隣近所との面識・交流																		
6 その他( )																		
要 因																		
1 その地域で過ごした年数																		
2 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)																		
3 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)																		
4 学校・子ども会の活動への参加																		
5 隣近所との面識・交流																		
<u>6 趣味・スポーツなどを通じた交流</u>																		
<u>7 民生委員や見守り活動を行う方等の訪問</u>																		
<u>8 地域社会の身近な情報に接する機会</u>																		
9 その他( )																		

○県民意識調査の補足調査協力者の募集に係る設問

旧	新												
<p>問6 県では2019年度から始まる新たな総合計画の策定を進めており、県民の皆様の「幸福」を重要なテーマとしています。そこで、県民の皆様の幸福感や様々な実感について継続して把握し、次の施策に生かしていくため、同じ人を対象とした新しい調査を2019年度から5年間実施する予定です。</p> <p>①調査時期 毎年1月頃（年1回）                  ②調査期間 2020年～2024年                  ③調査方法 今回調査票をお送りしたご住所に郵送で調査票をお送りします。</p> <p>上欄で説明した新しい調査に協力していただけますか。                  該当する番号に○をつけてください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">協力しても よい</td> <td style="text-align: center;">どちらでも よい</td> <td style="text-align: center;">協力したく ない</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </table> <p>（注）・「協力してもよい」とお答えいただいた方が多数の場合、新しい調査の対象者を抽選等で選定する場合があります。                  ・「協力してもよい」とお答えいただいた方が少数の場合、「どちらでもよい」とお答えいただいた方に、改めて新しい調査への協力をお願いを差し上げる場合があります。</p>	協力しても よい	どちらでも よい	協力したく ない	1	2	3	<p>問6 県では県民の皆様の「幸福」を重要なテーマとした総合計画を2019年度から推進しており、県民の皆様の幸福感や様々な実感について継続して把握し、それを次の施策に生かしていくため、同じ人を対象とした調査を毎年実施しています。</p> <p>①調査時期 毎年1月頃（年1回）                  ②調査期間 2024年～2027年                  ③調査方法 今回調査票をお送りしたご住所に郵送で調査票をお送りします。</p> <p>上欄で説明した調査に協力していただけますか。                  該当する番号に○をつけてください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">協力しても よい</td> <td style="text-align: center;">どちらでも よい</td> <td style="text-align: center;">協力したく ない</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </table> <p>（注）・「協力してもよい」とお答えいただいた方が多数の場合、調査の対象者を抽選等で選定する場合があります。                  ・「協力してもよい」とお答えいただいた方が少数の場合、「どちらでもよい」とお答えいただいた方に、改めて調査への協力をお願いを差し上げる場合があります。</p>	協力しても よい	どちらでも よい	協力したく ない	1	2	3
協力しても よい	どちらでも よい	協力したく ない											
1	2	3											
協力しても よい	どちらでも よい	協力したく ない											
1	2	3											

令和5年  
県の施策に関する県民意識調査（補足調査）  
調査票（案）

お 願 い

- ◆ このアンケート調査には、調査票をお送りした封筒に書かれたあて名の御本人様がお答えください。
  - ◆ お答えは、黒または青色の鉛筆・ペン・ボールペンでお願いします。
  - ◆ お答えは、直接この調査票にお書きいただき、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、2月1日（火）までに郵便ポストへ投函くださるようお願いいたします。
- ※ この調査について、御不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

岩手県政策企画部政策企画課 評価担当 佐々木、池田

TEL 019-629-5181（直通）

FAX 019-629-6229

E-mail [AA0010@pref.iwate.jp](mailto:AA0010@pref.iwate.jp)



**問1** 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。

**(1) 心身の健康**

あなたはこころやからだ健康だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

**(1)-1 からだの健康**

① あなたはからだ健康だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)
2	スポーツの習慣の有無
3	歩行などの行動の制限の有無
4	食事の制限の有無
5	健康診断の結果
6	持病の有無
7	こころの健康状態
8	その他( )
要因の番号	具体的な事例内容



## (1)-2 心の健康

- ① あなたはこころが健康だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	睡眠・休養・仕事・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)
2	仕事・学業におけるストレスの有無
3	仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
4	充実した余暇の有無(仕事・学業以外の趣味など)
5	相談相手の有無
6	からだの健康状態
7	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (2) 余暇の充実

- ① あなたは余暇が充実していると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	自由な時間の確保
2	運動や行動の制限の有無
3	文化・芸術の鑑賞
4	スポーツ観戦
5	文化・芸術活動の場所・機会
6	スポーツの場所・機会
7	自然(山・海など)と触れ合う場所・機会
8	学習活動の場所・機会(生涯学習など)
9	地域や社会のための活動の機会(ボランティアなど)
10	趣味・娯楽活動の場所・機会
11	家族との交流
12	知人・友人との交流
13	その他( )
要因の番号	具体的な内容

### (3) 家族関係

① あなたは家族と良い関係が取れていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	同居の有無
2	会話の頻度(多い・少ない)
3	一緒にいる時間(長い・短い)
4	家事分担のバランス
5	ペットの存在
6	自分が家族にもたらす精神的影響 (貢献・負担)
7	自分が家族にもたらす経済的影響 (貢献・負担)
8	家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担)
9	家族が自分にもたらす経済的影響 (貢献・負担)
10	困った時に助け合えるかどうか
11	家族はい
12	その他( )
要因の番号	具体的な内容

#### (4) 子育て

① あなたは子育てがしやすいと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
2	子どもを預けられる場所の有無(保育所など)
3	配偶者の家事への参加
4	子育て支援サービスの内容
5	子どもの教育にかかる費用
6	子育てにかかる費用
7	自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
8	配偶者の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
9	自分の勤め先の子育てに対する理解
10	配偶者の勤め先の子育てに対する理解
11	子どもに関する医療機関(小児科など)の充実
12	子どもの遊び場(公園など)の充実
13	子どもの習い事の実施の幅
14	わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
15	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (5) 子どもの教育

- ① あなたは子どものためになる教育が行われていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	学力を育む教育内容
2	人間性、社会性を育むための教育内容
3	健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
4	不登校やいじめなどへの対応
5	学校の選択の幅(高校、大学など)
6	図書館や科学館などの充実
7	学校教育における地域学習
8	地域での教育・学び
9	わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)
10	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (6) 住まいの快適さ

- ① あなたはお住まいに快適さを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	住宅の延床面積(広さ・狭さ)
2	居住形態(持ち家か借家か)
3	住宅の安全性(耐震、耐火、浸水対策など)
4	住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
5	立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)
6	公共交通機関の利便性
7	公園・緑地、水辺などの周辺環境
8	周辺地域の街並み
9	周辺地域の治安
10	近隣の生活音
11	近隣の生活臭
12	周辺施設の機能性(バリアフリーなど)
13	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (7) 地域社会とのつながり

- ① あなたは地域社会とのつながりを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	その地域で過ごした年数
2	自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)
3	地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
4	学校・子ども会の活動への参加
5	隣近所との面識・交流
6	趣味・スポーツなどを通じた交流
7	民生委員や見守り活動を行う方等の訪問
8	地域社会の身近な情報に接する機会
9	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (8) 地域の安全

- ① あなたはお住まいの地域が安全だと感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	犯罪の発生状況
2	地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど)
3	交通事故の発生状況
4	交通事故の防止(歩道の整備など)
5	火災の発生状況
6	火災に対する予防(消火栓の設置など)
7	地域の防災体制(自治会・町内会の防災活動、消防団など)
8	自然災害の発生状況
9	自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
10	災害に対する行政の防災体制(情報発信、避難所支援、復興対策など)
11	食の安全に関する行政の情報発信 (食中毒の発生状況、食品添加物に関する情報など)
12	感染症の予防に関する行政の情報発信 (感染症の発生状況、予防対策に関する知識の普及啓発など)
13	社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
14	地域の安全に関心がない
15	その他( )
要因の番号	具体的な内容



## (9) 仕事のやりがい

- ① あなたは仕事にやりがいを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	現在の職種・業務の内容
2	業種・業務の将来性
3	就業形態(正規・非正規など)
4	業務の量
5	現在の収入・給料の額
6	将来の収入・給料の額の見込み
7	収入・給料以外の待遇・処遇(休暇・手当など)
8	現在の役職(職場での地位)
9	将来の役職の見込み
10	職場の人間関係
11	職場環境(オフィスの立地など)
12	職種・業務に対する周囲の評価
13	失業・倒産・廃業等のリスク(安定性)
14	専業主婦・主夫、又は家事手伝いである
15	元々仕事をしていない(学生など)
16	以前仕事をしていたが、今はしていない
17	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (10) 必要な収入や所得

- ① あなたは必要な収入や所得が得られていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	自分の収入・所得額(年金を含む)
2	家族の収入・所得額(年金を含む)
3	自分の支出額
4	家族の支出額
5	自分の金融資産 <sup>(注)</sup> の額
6	家族の金融資産 <sup>(注)</sup> の額
7	自分の借金の額
8	家族の借金の額
9	生活の程度
10	その他( )
要因の番号	具体的な内容

(注)金融資産…預貯金や有価証券等

## (11) 歴史・文化への誇り

- ① あなたは地域の歴史や文化に誇りを感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	その地域で過ごした年数
2	世界遺産があること
3	地域のお祭り・伝統芸能
4	地域の文化遺産・街並み
5	郷土の歴史的偉人
6	地域の文化・芸術分野の著名人
7	地域の食文化
8	地域での文化継承・保存活動
9	地域の歴史についての教育機会
10	地域に対する周囲の評判
11	誇りを感じる歴史や文化が見当たらない
12	地域の歴史や文化に関心がない
13	その他( )
要因の番号	具体的な内容

## (12) 自然のゆたかさ

- ① あなたは自然に恵まれていると感じますか。あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	どちらとも いえない	あまり 感じない	感じない	わからない (該当しない)
5	4	3	2	1	0

- ② そのように回答した理由として、関連の強い要因全ての番号に○をつけてください。  
なお、要因について具体的な内容等があれば記載してください。

要 因	
1	緑の量(豊か・少ない)
2	空気の状態(綺麗・汚い)
3	水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)
4	海の状態(綺麗・汚い)
5	多様な動植物の生息
6	公園・緑地、水辺などの周辺環境
7	自然(山・海など)と触れ合う機会
8	地域での自然保護活動
9	自然に関心がない
要因の番号	具体的な内容

**問2** 次に、問1-1で回答した実感に係る新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響について最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。(該当しない調査項目は、「影響を感じない」を選択してください)

調査項目 (問1-1に掲げる分野)	よい影響を感じる	ややよい影響を感じる	どちらともいえない	あまりよくない影響を感じる	よくない影響を感じる	影響を感じない
① 心身の健康	5	4	3	2	1	0
①-1 からだの健康	5	4	3	2	1	0
①-2 こころの健康	5	4	3	2	1	0
② 余暇の充実	5	4	3	2	1	0
③ 家族関係	5	4	3	2	1	0
④ 子育て	5	4	3	2	1	0
⑤ 子どもの教育	5	4	3	2	1	0
⑥ 住まいの快適さ	5	4	3	2	1	0
⑦ 地域社会とのつながり	5	4	3	2	1	0
⑧ お住まいの地域の安全	5	4	3	2	1	0
⑨ 仕事のやりがい	5	4	3	2	1	0
⑩ 必要な収入や所得	5	4	3	2	1	0
⑪ 歴史や文化への誇り	5	4	3	2	1	0
⑫ 自然のゆたかさ	5	4	3	2	1	0

回答の理由となった、新型コロナウイルス感染症のあなたへの影響の具体的な内容があれば、関連する上記調査項目の番号を付して記載してください。

調査項目 の番号	具体的な内容

**問 3(1)** あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

最も近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの現在の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
幸福だと 感じている	やや幸福だと 感じている	どちらともい えない	あまり幸福だと 感じていない	幸福だと感じて いない	わからない
5	4	3	2	1	0

**問3(2)**

① あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください。

1 健康状況	2 自由な時間・充実した余暇
3 家族関係	4 友人関係
5 職場の人間関係	6 子育て環境
7 教育環境	8 居住環境
9 社会貢献	10 地域コミュニティとの関係
11 治安・防災体制	12 仕事のやりがい
13 就業状況	14 家計の状況
15 地域の歴史・文化	16 自然環境
17 その他	具体的に：

② ①で○をつけたものの中から、最も重視するものの番号を1つご記入ください。

問4 あなたは、今の生活全般について、どのように感じていますか。

あなたの気持ちに近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの満足度					
(1つ選び、番号に○をつけてください)					
満足 できる 状態 にある	やや 満足 できる 状態 にある	ど ちら とも いえ ない	やや 不 満 な 状態 にある	不 満 な 状態 にあ る	わ か ら な い
5	4	3	2	1	0

**問5** あなたは、普段の生活で、以下の行動をどのくらいの時間行っていますか。

以下の行動の種類ごとに、あなた（調査対象者）の1日当たりの行動の時間を記入してください（1週間の平均時間を目安にお答えください）。

（□内に数字を記入してください）

行 動 の 種 類	行 動 の 時 間				
	約		時間		分
①睡眠	約		時間		分
②身の回りの用事	約		時間		分
③食事（注1）	約		時間		分
④通勤・通学	約		時間		分
⑤仕事（収入を伴う仕事）	約		時間		分
⑥学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動）	約		時間		分
⑦食事の用意・後片付け	約		時間		分
⑧掃除・洗濯	約		時間		分
⑨介護・看護	約		時間		分
⑩育児	約		時間		分
⑪買い物	約		時間		分
⑫その他（⑦～⑪以外の家事）	約		時間		分

（注1）仕事や学業の昼休みに食事をした場合、「③食事」には食事の時間だけを記入してください。食事後に休憩した時間は「③食事」には含めないでください。

（注2）行動の種類には①～⑫のほかに移動（通勤・通学を除く）、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎ、学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動、交際・付き合い、受診・療養といったものもあるので、①～⑫の行動の時間の合計が24時間より小さくても構いません。



**問 6** あなたは、昨年同時期に比べて、以下の行動にかかる時間が変化していますか。近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

	増えた	変わらない	減った	やっていない
学習・自己啓発・訓練（学業以外）	3	2	1	0
趣味・娯楽	3	2	1	0
スポーツ	3	2	1	0
ボランティア活動・社会参加活動	3	2	1	0

**問7** あなたが、この1年間で経験したことについて、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- |           |            |                    |
|-----------|------------|--------------------|
| 1 結婚      | 2 離婚       | 3 子ども・孫の誕生         |
| 4 家族との死別  | 5 家族との別居   | 6 就職・転職・開業         |
| 7 昇進、昇給   | 8 失業・廃業    | 9 定年退職             |
| 10 住宅取得   | 11 引越し     | 12 大きな病気、けが        |
| 13 病気の克服  | 14 進学      | 15 学校の卒業           |
| 16 ペットの取得 | 17 ペットとの死別 | 18 事故・火災・自然災害による被害 |
| 19 交際の開始  | 20 交際の終了   | 21 要介護者・障がい者としての認定 |
| 22 その他 (  |            | )                  |

**問8** 現在、県では「いわて県民計画（2019～2028）」の第2期アクションプランの策定を進めており、その推進に当たっては、これまで同様に、県民の皆様のご意見を政策に反映させていきたいと考えていることから、来年以降も本調査を継続する予定としています。

つきましては、今回調査をお願いしている皆様には、ぜひ継続して調査にご協力いただきたいと考えておりますので、今後の調査協力に係るご意向について、下記によりご回答ください。

- ・ 来年度以降も本調査に協力していただけますか。

該当する番号に○をつけてください。

協力してもよい	どちらでもよい	協力したくない
1	2	3

(注1) 「協力してもよい」とご回答いただいた方については、基本的に継続して調査にご協力いただきたいと考えておりますが、調査対象者のバランスを確保するため、年代や地域といった属性による選定の結果、調査対象者とならない場合があります。

(注2) 「どちらでもよい」とお答えいただいた方については、調査対象者のバランスを確保するため、年代や地域といった属性による選定の結果、改めて調査へのご協力について御依頼させていただく場合があります。



※ (4)で1～5に○をつけられた方のみお答えください。

その業種は何ですか (○は1つ)。

1 農業、林業	2 漁業	3 鉱業、採石業、砂利採取業
4 建設業	5 製造業	6 電気・ガス・熱供給・水道業
7 情報通信業	8 運輸業、郵便業	9 卸売・小売業
10 金融業、保険業	11 不動産業、物品賃貸業	
12 学術研究、専門・技術サービス業	13 宿泊業、飲食サービス業	
14 その他のサービス業	15 公務	
16 その他 (具体的に :		)

(5) あなたのお子さんは、何人いますか (同居・別居は問いません)。

1 1人	2 2人	3 3人
4 4人	5 5人以上	6 子どもはいない

※ (5)で1～5に○をつけられた方のみお答えください。

あなたのお子さんは、次のどこにあてはまりますか (該当する番号すべてに○をつけてください)。

1 小学校入学前 (乳幼児を含む。)	2 小学生
3 中学生	4 高校生 (高校受験浪人を含む。)
5 高校を卒業し専門学校、短大、大学、大学院に在学 (大学受験浪人を含む。)	
6 学校教育終了で同居	7 学校教育終了で別居
8 その他 (具体的に :	)

(6) あなたの世帯についてお伺いします。次のどれに当たりますか (○は1つ)。

1 ひとり暮らしである	2 一緒に暮らしている人がいる
3 単身赴任である	4 寮、寄宿舎、老人ホームその他の施設にいる
5 その他 (	)

※ (6)で2～5に○をつけられた方のみお答えください。

あなたの世帯に含まれる方の人数をご記入ください。また、そのうち就労されている方の人数をご記入ください。(あなたとの続柄でお答えください。)

	人数	うち、就労人数
1 祖父母(配偶者の祖父母含む)	( )人	( )人
2 父母(配偶者の父母含む)	( )人	( )人
3 配偶者	( )人	( )人
4 兄弟・姉妹(配偶者の兄弟・姉妹含む)	( )人	( )人
5 子ども	( )人	( )人
6 子どもの配偶者	( )人	( )人
7 孫	( )人	( )人
8 その他 ( )	( )人	( )人
( )	( )人	( )人

(7) あなたのお住まいは次のどれに当たりますか (○は1つ)。

1 持家 (一戸建て)	2 持家 (集合住宅(マンション等))
3 借家 (一戸建て)	4 借家 (集合住宅(アパート等))
5 その他 (社宅、寮、下宿など)	

(8) あなたは岩手県に住んで通算何年になりますか (○は1つ)。

1 1年未満	2 1～5年未満	3 5～10年未満
4 10～20年未満	5 20年以上	

## 【お 願 い】

住所・お名前の変更等について

ご住所・お名前が変わられた場合（予定がある場合）には、お手数ですが、以下にご記入ください。

### 【新しいご住所】

〒
---

### 【新しいお名前】

--

※ 岩手県では、県外へお引越しされる方の理由を把握することで、今後の施策に反映させていきたいと考えています。

差し支えなければ、お引越しの理由を以下にご記入ください。

(例) 進学、就職、転職のため、等

--





ご協力ありがとうございました。

お手数でも2月〇日（〇）までに郵便ポストに投函くださるようお願いいたします。

## 令和5年度「県民の幸福感に関する分析部会」の開催予定等について

開催時期等		主な審議内容等（予定）
4月～ 5月	—	・県民意識調査及び補足調査の集計等
5月	第1回	・県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討①
	第2回	・県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討②
6月	第3回	・県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討③
7月	第4回	・県民意識調査及び補足調査結果を踏まえた分野別実感の変動要因の検討④ ・年次レポート素案 ※政策評価に活用
10月	第5回	・年次レポート決定 ・翌年度の活動計画等
11月	—	・総合計画審議会に報告

「いわて県民計画（2019～2028）」  
第2期アクションプラン「政策推進プラン」の  
策定状況等について

---

令和4年9月  
岩手県

# 1 政策推進プランの「重点事項（仮称）」

- 第2期アクションプランにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の2050年実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化する。
- このような考え方にに基づき、長期ビジョンの政策体系を維持しつつ、第2期アクションプラン期間中に取組を強化すべき項目を「重点事項（仮称）」として位置づけ。

策定に当たっては、市町村、企業、団体、県民など、様々な主体から広く意見を伺うこととしており、知事と市町村長との意見交換（8/8、10開催）、各種団体等からの意見聴取（8月末までに総合計画審議会等、106の団体・審議会等から聴取）などを踏まえ、



人口減少問題に立ち向かうため、**政策推進プランにおいて、「人口減少対策」に最優先で取り組むこととし、**

**今後4年間に取組を強化すべき項目を「重点事項（仮称）」として明示**

- 「重点事項（仮称）」については、政策推進プラン（素案）の「新たな章」に盛り込み、本年11月開催の第101回岩手県総合計画審議会で審議
- 国は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）」を策定することとしており、こういった動向も踏まえ、第2期アクションプランの策定と併せ、「第2期岩手県ふるさと振興総合戦略」を改訂し、アクションプランと一体的に人口減少対策を推進

# 1 政策推進プランの「重点事項（仮称）」

10の政策分野

## 人口減少対策に取り組む上での「重点事項」

【重点事項1】 男女がともに活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

【重点事項2】 GXを推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

【重点事項3】 DXを推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

【重点事項4】 災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

## 中長期的な観点から維持・向上を図っていく基盤

医療・介護・福祉

教育、学ぶ機会

地域公共交通

人や地域との  
「つながり」

### ■ 「新たな章」の構成内容

- ・ 「**重点事項**」は、将来に向けて今後4年間で重点的に取組を進める観点から記載。
- ・ 「**中長期的な観点から維持・向上を図っていく基盤**」は、人口減少社会において、県民生活の基盤の維持・向上を図っていく観点から記載。
- ・ **市町村をはじめとする様々な主体との連携・協働**については、「**プランの推進に当たって重視する考え方**」として記載。（各政策項目においては、個々の施策における市町村との連携・協働や支援等について記載。また、行政経営プランにおいては、第1期同様、広域連携や小規模自治体等への支援などについて記載。）
- ・ **原油・穀物価格の高騰**などへの対応について、「**現下の危機に臨機応変に対応していく**」旨を記載。

## 2 「重点事項（仮称）」の設定に当たっての考え方

### 【重点事項1】 男女がともに活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

岩手県の社会減は、18歳の進学・就職期、22歳前後の就職期に顕著となっており、特に22歳前後では、女性の社会減が大きい状況。男女がともに活躍できる環境を整えていくことは、人口減少対策を進めていく上では必須。

また、コロナ禍により、婚姻数や出生数の減少などがみられる一方で、地元志向・地方志向の強まりやテレワークをはじめとする多様な働き方の加速など、個人の意識・行動変容が起きているところ。この機を捉え、産業政策を総合的に展開し一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めながら、自然減対策、社会減対策を強化するもの。

### 【重点事項2】 GXを推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

岩手県は、全国第2位の森林面積を有するなど、優れた自然環境に恵まれている。また、全国トップクラスの再生可能エネルギーのポテンシャルのもと、電力自給率が上昇しているところ。一方、世界の気候が非常事態に直面する中、豊かな地域資源を生かして、再生可能エネルギーの導入促進や森林資源の循環利用を進めるなど、地域経済と環境に好循環をもたらす持続可能な新しい成長を目指しながら、誰もが住みたいと思えるふるさとを次世代に引き継いでいくもの。

### 【重点事項3】 DXを推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

コロナ禍により、様々な主体において、デジタル技術の活用が多方面で進捗。岩手県においても、学校におけるICT機器の前倒し整備など、デジタル化が加速し、社会環境が変化。DXの進展は、個性豊かで活力に満ちた地域社会の可能性を広げるものであり、人口減少下における地域課題の解決には不可欠。全ての県民がDXの恩恵を享受できるよう、「行政のDX」、「産業のDX」、「社会・暮らしのDX」、「DXを支える基盤整備」を進める必要。

### 【重点事項4】 災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

多くの人々が「住みたい、働きたい、帰りたい、訪れたい」と思える岩手をつくるためには、前提として、今後起こり得る最大クラスの地震・津波や大規模自然災害、新興感染症などに対応した、安全・安心な地域社会を構築していくことが必須。東日本大震災津波やコロナ対策の経験を踏まえ、様々なリスクに対応できる地域づくりを進めるもの。

### 3 知事と市町村長との意見交換の概要

#### 県央広域振興圏（8月8日開催）

##### 【市町村長からの主な意見】

- ・ 人口減少については、依然として若年層の転出超過傾向が強く、若者の希望に見合う働く場所の確保が急務。
- ・ 少子化対策については、総合戦略において、国・県・市町村の役割分担を明確にして、一体となって取り組むべき。
- ・ 子どもを生み育てる若い女性が、産休を取得する場合などの支援について、全国に先駆けた取組を始めるべき。
- ・ 女性の活躍支援や、移住・定住施策について、県と市町村とが連携して、効果的なPRや情報発信を行う必要。
- ・ 若者は県外に出て、自分の力を試したいと考えており、一旦外に出た若者を呼び戻す施策を講じていく必要。
- ・ 医療と教育なくして、安心して暮らすことはできない。医療と教育を守りながら、様々な施策を展開してほしい。
- ・ 中小企業のデジタル化に向け、高速通信網の整備促進等の環境整備、専門人材の確保・育成などの対策が必要。
- ・ 新型コロナに加え、原油価格や物価高騰の影響により、事業者にとって依然として厳しい環境にあり、支援が必要。
- ・ 地域公共交通の維持に向け、工夫やアイデアを出しながら、県と市町村とが連携して存続の道を探っていく必要。
- ・ アクションプランの策定に当たっては、県民意識調査結果や政策評価結果などを分析・総点検して進めていく必要。
- ・ 観光資源や農林水産物、再生可能エネルギー等の豊富な資源を生かし、都市と連携して岩手を元気にしてほしい。

#### 県南広域振興圏（8月10日開催）

##### 【市町村長からの主な意見】

- ・ 人口減少下でも、特定の業種が岩手に立地しており、それをどのようにして県民の生活につなげていくか考える必要。
- ・ 人口減少に対応した産業振興については、製造業のみならず、非製造業を対象とする施策も進めていく必要。
- ・ 生産年齢人口、特に若い女性の人口が減少しており、岩手へ呼び込むための手厚いサポートを考えていく必要。
- ・ 30歳代男性の収入と支出を見ると、首都圏並みとなっており、こういった状況をうまく定着させていく必要がある。
- ・ 医療情報の共有について、医療情報ネットワークの形成が進められており、県内一律の整備が喫緊の課題。
- ・ 地域医療、特に周産期医療を取り巻く状況は厳しい。産科医の確保など、周産期医療体制を強化する必要。
- ・ 地域公共交通について、バス事業者が事業を継続できるような支援を県と市町村が一体となって取り組む必要。
- ・ 各圏域のネットワーク化が必要であり、そのためには、道路と地域公共交通をしっかりと維持していくことが必要。
- ・ 農業を目指す若者が都会で増えているが、実際にUターンするとなると壁があり、収入保障など必要な支援が必要。
- ・ 農業においては、個々の農家への補助ではなく、行政と農業者が共通理解を構築した上で企業化を促していく必要。
- ・ ILCの建設が実現すれば、世界最先端の人材が定着し、ものづくり産業をさらに成長・発展させる効果が期待。

### 3 知事と市町村長との意見交換の概要

#### 沿岸広域振興圏（8月10日開催）

##### 【市町村長からの主な意見】

- ・ 人口減少の要因は生産性と総生産が伸びなかったことにあり、30年前の3割にまで減少した漁獲量の回復が必要。
- ・ リカレント教育、人材育成、賃金の引上げ、男女共同参画、大学等への進学率向上などを総合的に進める必要。
- ・ アクションプランの策定に当たっては、県民がそれぞれの立場で参加できるよう、分かりやすい計画にする必要。
- ・ 温室効果ガス排出量2050年実質ゼロについては、脱炭素のみならず地域内経済の好循環につなげる取組が必要。
- ・ カーボンニュートラルを目指した産業界の動きと連動しながら、復興道路や港湾の利活用の仕組みを検討すべき。
- ・ 復興を通じて整備した観光やスポーツの資源を活用し、沿岸地域のゲートウェイとしての機能を強化していくべき。
- ・ ICTの社会実装などを含め、起業や再生可能エネルギーの投資といった、スタートアップへの投資を進めていく必要。
- ・ 日本海溝千島海溝沿いの巨大地震への対応については、アクションプランへの明記と市町村への情報提供が必要。
- ・ 沿岸地域は医師の数が少なく、医師の奨学金や配置など、県と市町村が一体となりスピードを上げて取り組む必要。
- ・ 特に沿岸地域は公共交通が脆弱であり、高齢化社会を迎えている中で、この状況を打破する方向性を示すべき。
- ・ 労働力不足や一次産業の後継者不足が見込まれる中、実習生等外国人人材の活用や輸出などを検討する必要。

#### 県北広域振興圏（8月8日開催）

##### 【市町村長からの主な意見】

- ・ 人口減少、少子高齢化が著しく、雇用の場の確保、住宅の整備、医療費の無償化など総合的に取り組む必要。
- ・ 「子育てするなら岩手、そのためにこういった施策を講じている。」といった情報発信を行っていく必要。
- ・ 落ち込みが激しい県北・沿岸に移住者を呼び込む施策について、県と市町村が一体となって取り組む必要。
- ・ 均衡ある県土の発展に向け、県北・沿岸振興について、数値目標や具体策を掲げ、そろそろ形としていく必要。
- ・ 県北には、食料とエネルギーといった資源があるが、単独の市町村では生かされておらず、広域での取組が必要。
- ・ 洋上風力発電は、エネルギーの地産地消のみならず、世界最先端の仕事に携わることができるという魅力もある。
- ・ 地域公共交通は地域振興にとって重要なインフラであり、県と市町村が連携して、維持確保に向けて取り組む必要。
- ・ 岩手の発展、地域の振興にとって、人材の育成は重要。高校の教育機会確保と教育環境の充実に取り組む必要。
- ・ 主要魚種が記録的な不漁となっており、次の4年間においても、資源の回復など、あらゆる取組を継続してほしい。
- ・ 農業の後継者を確保するには、必要な所得を得られる産業とする必要。一次産業の試験研究機関の充実が重要。
- ・ 旅行商品の造成、プロモーションの充実、教育旅行の誘致など、御所野遺跡を活用した地域振興に取り組む必要。



## 4 各種団体、審議会、委員会等からの意見聴取結果の概要

- 5月以降、第2期アクションプラン期間中に取組を強化すべき事項等について、意見聴取を実施。8月末までに、**106団体**から意見を伺ったところ。結果の概要は以下のとおり。

### 人口の自然減、社会減

#### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 地域がバラバラでなく、オール岩手で特色を生かした取組により、人口減少対策と働く者の処遇改善につながる。
- ・ **県と市町村が一緒になって相乗効果**を持ちながら、魅力ある岩手を発信し、移住・定住につなげるような取組が必要。
- ・ 高校生や大学生の県内就職率が上がったとしても、子どもの数は年々減少しており、実数は確実に減っていく。県外への生産年齢人口の流出を食い止めるための賃金改善と、岩手の産業を支える中小企業への支援が必要。
- ・ 受け皿となる会社があるにも関わらず、親への周知不足、子どもには地元で働くメリットが伝わっていない等の課題。
- ・ 県内に魅力ある企業があるにもかかわらず、**学生の認知度不足で県外に出てしまうというミスマッチ**が生じている。
- ・ 一度県外へ行き、帰ってきた若い人たちを、一緒に育てて働いていくような仕組みが必要。
- ・ 企業見学やものづくり体験など、**小中高校生が地元企業に興味を持つような取組**が必要。
- ・ 移住支援や住宅整備の継続に加え、若年層の県内就職に向けた支援の強化が必要。
- ・ 地域おこし協力隊が定住することも、人口減少対策の一つにつながるのではないか。
- ・ **地域おこし協力隊の活動終了後の進路**として、県内企業への就職や、就農という選択肢を示していくことが必要。
- ・ 少子高齢化による人手不足の中、地域農業の担い手に負担がかかっており、農地を増やすことに限界を感じている。

### 女性の活躍

#### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ **男女の性別の捉え方が多様化**し、男性が家事をして女性が働くなど、生活の仕方が多様化してきていると感じる。
- ・ 男女同一賃金や、女性が出産休暇を取得する際にバックアップできる体制を会社として整えておくことが必要。
- ・ **女性が産前・産後休暇や育児休暇を取得**できるよう、中小企業の支援が必要。
- ・ 農林水産業においては家族経営が多く、女性が働いたとしても、稼げないという実態がある。
- ・ 困難な問題を抱えた女性に対する支援について、県が分野横断的なネットワークの構築を主導してほしい。
- ・ **ジェンダーバイアス**が無意識のうちに差別を生み、大学進学 of 男女格差が生じ、所得格差にも通じているのでは。
- ・ 文系・理系のジェンダーギャップの解消に取り組んでおり、アクションプランの策定の際にも考慮が必要。

# 4 各種団体、審議会、委員会等からの意見聴取結果の概要

## グリーン社会

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 洋上風力などの再生可能エネルギーは久慈市や釜石市など広く浸透しており、**三陸を岩手のグリーン社会実現に向けた取組の象徴的な地域**として捉えていくことも考えられる。
- ・ 復興道路の有効活用も合わせながら、港湾・物流機能、再生可能エネルギー、ブランドサーモン、防災学習などの地域経済や産業に根ざした息の長い取組、長期的視点に立った政策の展開が必要。
- ・ 再生可能エネルギーなど、岩手の強みを生かし、グリーン社会の実現のため、カーボンニュートラル活動において日本の先頭を走るべき。実現に向けては、個の企業や人に任せるのではなく、大きな体制整備の検討も必要。
- ・ 太陽光・風力発電など広い県土の活用を推進するとともに、再生可能エネルギーを安定的に利用するための蓄電池産業の誘致、水素による発電の開発支援等、カーボンフリー電力調達への加速化を図る必要。
- ・ 国際情勢等により石油が入りにくくなった場合に、どのように生活し、事業を継続していくのかについて、**代替燃料や再生可能エネルギーの活用**など、国策ではあるが、地域でも考えていかなければならないこともある。
- ・ **2050年カーボンニュートラルのためには森林吸収**は必須。林業では再造林に取り組んでいかなければならない。また、ウッドショックにより輸入材が入ってこなくなり、原料が高騰した。地域資源の利用に向け、連携を深めてほしい。

## DX

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ DXについては、**中小企業を中心にまだ十分に浸透していない**というのが実態。DXはハードルが高く、果たして自力で取り組めるのか、あるいはそもそも自社に必要なのかと考える経営者が多いことは無理からぬことと思う。
- ・ デジタル投資というと、コスト削減と直結しがちだが、提供するサービスの付加価値向上などにもつながるものであり、企業にとってメリットがあるということを前面に出していくことも大事。
- ・ 岩手で進んでいないのは、ビジネスツールとして見られることにあり、**家庭や地域で使いこなすところまでが不十分**。
- ・ 教育現場でひとり一台のICT機器が整備されたが、家庭で使いこなせていないとの声が聞こえている。
- ・ 岩手のような広い県土においては、部活動の指導者が不足している中で、DXを活用した遠隔指導や、子どもたちの活動の見守りにおいて、新しい仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ **テレワークや二地域居住の促進**に向けて、公共施設、宿泊施設のデジタル化(Wi-Fi整備)を進めるべき。
- ・ DXを進めるため、通信設備、電波環境等のインフラ整備を進めてほしい。

# 4 各種団体、審議会、委員会等からの意見聴取結果の概要

## 地域社会とのつながり

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 高齢化が進み、孤立化、疎外感を感じる人が増えた場合、誰がどう対応していくのか、何らかの仕組みづくりが必要。
- ・ 高齢者の孤立をできるだけ避けるため、通いの場の充実は地域において重要な課題。
- ・ 東日本大震災津波から10年以上が経過し、地域の人たち同士が取り組まなければならないが、難しいと感じる。
- ・ デジタル技術の進展の一方で、コミュニケーションをどのようにして維持していくかを別途考えなければならない。

## 安全・安心(新興感染症への対応、大規模自然災害への備え)

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 新型コロナ対策、災害対策が安全・安心につながり、これをベースにしながら、他の施策を展開していくということ。
- ・ 沿岸地域における津波対策を含め、災害対策をしっかりと取りまとめていく必要。
- ・ 激甚化・多発化している大規模自然災害への対策が必要。また、変異株の流行に備え、生活様式を変えていく必要。

## 医療、教育

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 子どもを産む場所の環境の整備が大事。特に、沿岸部では、安心できる環境を整えることを考えてほしい。
- ・ 看護師が不足しており、子育てや家庭の事情で、仕事ができない潜在看護師の活用を検討することが必要。
- ・ 介護人材の不足により、孤独死が発生することが懸念される。そうした現実を直視して対策を講じていく必要がある。
- ・ 高校の移転、再編が計画されているが、地域の特色を生かした、産業の振興につながる教育を推進してほしい。
- ・ 学校の教育活動を地域で支える取組が必要。
- ・ 岩手県の大学進学率は全国より15ポイント程度低い。進学率の上昇、教育水準や学力の向上に努めることが大切。

## その他(原油・穀物価格の高騰等)

### 【総合計画審議会・各種団体等からの主な意見】

- ・ 燃料価格、食料、円安、半導体関連産業をどのようにするかという視点まで含め、この数ヶ月で岩手を取り巻く環境が大きく変わった。そういった環境下において、岩手の強みは何か、他県にできないものは何かをもう一度考える必要。
- ・ ロシアのウクライナ侵攻により、輸入に頼っていたものが不足するおそれがあり、国産に目が向けられている。

# 参考（意見聴取を実施した団体等一覧）

公益財団法人岩手県消防協会  
一般社団法人地域おこし協力隊ネットワーク  
公益財団法人岩手県国際交流協会  
公立大学法人岩手県立大学  
公益財団法人岩手県文化振興事業団  
一般社団法人岩手県芸術文化協会  
社会福祉法人岩手県社会福祉事業団  
公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団  
公益財団法人岩手県体育協会  
一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会  
岩手県環境保全連絡協議会  
一般社団法人岩手県産業資源循環協会  
一般社団法人岩手県医師会  
一般社団法人岩手県歯科医師会  
公益社団法人岩手県看護協会  
学校法人岩手医科大学(岩手医科大学附属病院)  
社会福祉法人岩手県社会福祉協議会  
公益財団法人いきいき岩手支援財団  
社会福祉法人岩手県身体障害者福祉協会  
特定非営利活動法人岩手県精神保健福祉連合会  
岩手県中小企業家同友会  
岩手県商工会議所連合会  
岩手県商工会連合会  
岩手県中小企業団体中央会  
公益財団法人いわて産業振興センター  
岩手県職業能力開発協会  
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構岩手支部  
(岩手職業能力開発促進センター)  
一般社団法人岩手県工業クラブ  
公益財団法人岩手県観光協会  
岩手県観光誘致協議会  
いわておかみ会  
一般社団法人東北観光推進機構  
一般社団法人世界遺産平泉・一関DMO  
株式会社かまいLDMO  
株式会社八幡平DMO  
岩手県観光立県推進会議  
株式会社日本政策金融公庫盛岡支店  
岩手県農業協同組合中央会

岩手県農業会議  
岩手県信用農業協同組合連合会  
岩手県農業法人協会  
岩手県農業農村指導士協会  
岩手県認定農業者組織連絡協議会  
全国農業協同組合連合会岩手県本部  
公益社団法人岩手県農業公社  
一般社団法人岩手県畜産協会  
岩手県土地改良事業団体連合会  
岩手県森林組合連合会  
岩手県森林整備協同組合  
岩手県木材産業協同組合  
岩手県森林・林業会議  
岩手県国有林材生産協同組合連合会  
ノースジャパン素材流通協同組合  
一般社団法人岩手県木炭協会  
公益財団法人岩手県林業労働対策基金  
岩手県山林種苗協同組合  
岩手県チップ協同組合  
一般社団法人治山林道協会  
公益社団法人岩手県緑化推進委員会  
岩手県木材青壮年協議会  
岩手県林業経営者協会  
一般社団法人岩手県建築士事務所協会  
国立研究開発法人森林研究・整備機構  
森林整備センター盛岡水源林整備事務所  
岩手県森林土木建設業協会  
岩手県漁業協同組合連合会  
東日本信用漁業協同組合連合会岩手支店  
全国漁業信用基金協会岩手支所  
岩手県漁業共済組合  
日本漁船保険組合岩手県支所  
岩手県内水面漁業協同組合連合会  
岩手県水産加工業協同組合連合会  
一般社団法人岩手県漁港漁村協会  
一般社団法人岩手県さけ・ます増殖協会  
一般社団法人岩手県建設業協会  
岩手県すまい・あんしん推進協議会  
一般財団法人岩手県建築住宅センター

東北ILC事業推進センター  
岩手県ILC推進協議会  
公益社団法人岩手県防犯協会連合会  
一般社団法人岩手県交通安全協会  
公益社団法人いわて被害者支援センター

第98回岩手県総合計画審議会  
第99回岩手県総合計画審議会  
岩手県文化芸術振興審議会  
岩手県環境審議会  
岩手県消費生活審議会  
岩手県男女共同参画審議会  
岩手県食の安全安心委員会  
岩手県健康いわて21プラン推進協議会  
いわて女性の活躍促進連携会議子育て支援部会  
岩手県高齢者福祉・介護保険推進協議会  
重症心身障がい児・者及び医療的ケア児・者支援  
推進会議  
発達障がい者支援体制整備検討委員会・広域特別  
支援連携協議会  
岩手県自殺対策推進協議会  
岩手県精神保健福祉審議会  
岩手県中小企業振興基本計画外部委員会  
いわてで働こう推進協議会  
岩手県職業能力開発審議会  
岩手県農政審議会  
教育委員会会議  
岩手県教育振興基本対策審議会  
岩手県生涯学習審議会  
岩手県社会教育委員会議  
県央広域振興圏経営懇談会  
県南広域振興圏地域協働委員会議  
沿岸広域振興圏地域連携懇談会  
県北広域振興圏地域運営委員会議